

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第50集

きよ すじょう か まち
清洲城下町遺跡Ⅲ
そと まち
外 町 遺 跡

1994

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

序

私たちが現在生活している大地の下には、さまざまな歴史の痕跡が広がっています。これは、私たちの先人が残された生活の跡であり、発掘調査によってのみ、その具体的な姿を明らかにすることができます。

原始・古代や中世と比べますと、近世の遺構・遺物の研究は、まだここ数十年と浅いわけではありますが、考古学は、文献史・建築史などの多くの分野の協力を得て、次々に新しい事実の発見を行っております。

このたび、清洲城下町遺跡では、県道清洲・新川線拡幅に伴い、また、外町遺跡では、県道新川・甚目寺線建設に伴い、発掘調査が必要となり、(財)愛知県埋蔵文化財センターでは、愛知県教育委員会を通じ、愛知県土木部より委託を受け、事前調査を実施いたしました。

調査の結果、清洲城下町遺跡では、戦国時代の遺構・遺物だけでなく、古代から近世へと連綿と続く人々の生活の痕跡が確認され、また、外町遺跡でも、江戸時代の遺構・遺物の他に、戦国時代の城下町の頃や鎌倉時代中期の遺構・遺物も発見され、新たな知見を多く得ることができました。本書は、その成果をまとめたものであり、歴史研究の資料として活用されるとともに、埋蔵文化財の理解への一助ともなれば幸いと考えます。

最後になりましたが、調査に対して御理解、御協力を賜った関係諸機関、並びに、発掘調査に参加協力していただきました多くの方々に厚く御礼を申し上げる次第であります。

平成6年3月

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
理事長 高木鐘三

総目次

清洲城下町遺跡Ⅲ

第Ⅰ章 調査概要

- 第1節 調査の経緯 …………… 1
- 第2節 遺跡周辺の歴史的環境 …… 2
- 第3節 調査の方法と経過 ……… 4

第Ⅱ章 遺構

- 第1節 基本層序 …………… 5
- 第2節 古代・中世の遺構 ……… 10
- 第3節 城下町期の遺構 ……… 14
- 第4節 近世の遺構 …………… 18

第Ⅲ章 遺物

- 第1節 古代・中世の遺物 ……… 19
- 第2節 城下町期の遺物 ……… 25
- 第3節 近世の遺物 …………… 37

第Ⅳ章 まとめ …………… 39

- 第1節 古代集落の変遷 ……… 39
- 第2節 城下町期以降の遺構変遷 40
- 第3節 まとめ …………… 40

付表 …………… 41

図版 …………… 51

外町遺跡

第Ⅰ章 調査概要

- 第1節 調査の経緯 …………… 1
- 第2節 立地と歴史的環境 ……… 4

第Ⅱ章 遺構

- 第1節 基本層序 …………… 7
- 第2節 中世～江戸時代中期の遺構 …… 9
- 第3節 江戸時代後期の遺構 ……… 13

第Ⅲ章 遺物

- 第1節 出土遺物の概要 ……… 23
- 第2節 古代の遺物 …………… 23
- 第3節 中世の遺物 …………… 25
- 第4節 近世の遺物 …………… 26

第Ⅳ章 科学分析

- 第1節 ¹⁴C年代測定 …………… 107
- 第2節 出土木製品の樹種 ……… 108
- 第3節 胎土重鉍物分析 ……… 110

第Ⅴ章 結語

- 第1節 グリッド別遺物出土状況 …… 117
- 第2節 遺物組成 …………… 118
- 第3節 まとめ …………… 121

図版 …………… 123

清洲城下町遺跡Ⅲ

例 言

- 1、本書は愛知県西春日井郡清洲町にしかすが いぐんきよすちょうに所在する清洲城下町遺跡きよすじょうかまち いせきの発掘調査報告書である。
- 2、調査は県道清洲新川線建設に伴う事前調査として、愛知県土木部から愛知県教育委員会を通じて委託を受け、財団法人愛知県埋蔵文化財センターが平成元年度から平成4年度にかけて行った。
- 3、調査担当者は、城ヶ谷和広（主査・現千種高等学校）・大竹正吾（主査）・遠藤才文（調査研究員・現名古屋南高等学校）・小嶋廣也（調査研究員）・鈴木正貴（同左）・蟹江吉弘（同左）・加藤とよ江（囑託・現西尾市教育委員会）である。なお、各調査区の発掘調査期間・調査担当者は別に記載した通り（第Ⅰ章）である。
- 4、調査に当たっては次の各機関の御指導・御協力を得た。
愛知県教育委員会文化財課・愛知県埋蔵文化財調査センター・愛知県土木部名古屋土木事務所・清洲町教育委員会
- 5、調査記録及び出土遺物の整理等については次の方々の協力を得た。
岡田智子・中垣内薫・八木佳素実（以上調査研究補助員）
加藤豊子・小桧山洋子・竹川裕見子・多田富代・土井てる子・早川久美・平野みどり・星野和子・堀田順子・本所千恵子（以上整理補助員・敬称略）
- 6、本書の編集は鈴木正貴が担当し、執筆の担当は以下の通りである。
第Ⅱ章第1節 大竹正吾
第Ⅲ章第1節 城ヶ谷和広
第Ⅰ章、第Ⅱ章第2節～第4節、第Ⅲ章第2節～第3節、第Ⅳ章 鈴木正貴
- 7、遺構の旧番号と新番号の対照、遺物の登録番号については付表に掲載した。
- 8、本書の作成に当たっては、以下の各氏の御指導・御協力を得た。
赤羽一郎・伊藤晃・梅本博志・下村信博・野口哲也・藤澤良祐
- 9、調査記録の座標は、国土座標第Ⅶ座標系に準拠する。
- 10、調査記録は財愛知県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11、出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。
愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24

目 次

例 言

第Ⅰ章	調査概要	1
第1節	調査の経緯	1
第2節	遺跡周辺の歴史的環境	2
第3節	調査の方法と経過	3
第Ⅱ章	遺構	5
第1節	基本層序	5
第2節	古代・中世の遺構	10
第3節	城下町期（戦国時代）の遺構	14
第4節	近世の遺構	18
第Ⅲ章	遺物	19
第1節	古代・中世の遺物	19
第2節	城下町期（戦国時代）の遺物	25
第3節	近世の遺物	37
第Ⅳ章	まとめ	39
第1節	古代集落の変遷	39
第2節	城下町期以降の遺構変遷	40
第3節	まとめ	40
付 表		41
図 版		

挿図目次

第1図	遺跡位置図	1
第2図	調査区位置図	2
第3図	周辺の遺跡分布図	4
第4図	基本層序模式図	5
第5図	92A区北壁断面実測図	6
第6図	92A区・92B区北壁断面実測図	7
第7図	93A区南壁断面実測図	8
第8図	遺跡周辺の自然堤防	9
第9図	S B 502実測図	11
第10図	S B 504・S B 505・S B 506実測図	11
第11図	S B 501実測図	12
第12図	S B 401セクション実測図	12
第13図	S B 402実測図	12
第14図	S B 403・S B 404実測図	13
第15図	S D 603セクション実測図	13
第16図	城下町期の遺構配置図	14
第17図	S A 002実測図	15
第18図	S A 001実測図	15
第19図	S K 045セクション実測図	16
第20図	S K 250等セクション実測図	16
第21図	91D区北壁セクション実測図	17
第22図	遺物実測図(1)古代：遺構出土遺物	20
第23図	遺物実測図(2)古代：遺構出土遺物	21
第24図	遺物実測図(3)古代：遺構外出土遺物	23
第25図	遺物実測図(4)古代・中世：遺構外出土遺物	24
第26図	遺物実測図(5)城下町期：陶磁器・土器(1)	25
第27図	遺物実測図(6)城下町期：陶磁器・土器(2)	26
第28図	遺物実測図(7)城下町期：陶磁器・土器(3)	27
第29図	遺物実測図(8)城下町期：陶磁器・土器(4)	28
第30図	遺物実測図(9)城下町期：陶磁器・土器(5)	29
第31図	遺物実測図(10)城下町期：木製品(1)	31
第32図	遺物実測図(11)城下町期：木製品(2)	32
第33図	遺物実測図(12)城下町期：石製品	36
第34図	遺物実測図(13)近世	38
第35図	遺構変遷図(1)古代集落の変遷	39
第36図	遺構変遷図(2)城下町期以降の変遷	40

表目次

第1表	調査区一覧表	1
第2表	竪穴住居一覧表	10
第3表	遺物集計表	30
第4表	S K 626出土柿経积文一覧表	33

図版目次

図版1	調査区位置図
図版2	遺構図Ⅰ（第1面）
図版3	遺構図Ⅰ（第2面）
図版4	遺構図Ⅰ（第3面）
図版5	遺構図Ⅱ（第1面）
図版6	遺構図Ⅱ（第2面）
図版7	遺構図Ⅱ（第3面）
図版8	遺構図Ⅲ（第1面）
図版9	遺構図Ⅲ（第2面）
図版10	遺構図Ⅲ（第3面）
図版11	遺構図Ⅳ（第1面）
図版12	遺構図Ⅳ（第2面）
図版13	遺構図Ⅳ（第3面）
図版14	遺構図Ⅳ（第4面）
図版15	遺構図Ⅴ（第1面）
図版16	遺構図Ⅴ（第2面）
図版17	遺構図Ⅴ（第3面）
図版18	遺構図Ⅴ（第4面）
図版19	遺構図Ⅵ
図版20	遺構図Ⅶ
図版21	遺構図Ⅷ
図版22	調査区全景
図版23	89G・90G・90H区
図版24	91D・91E区
図版25	91E区
図版26	92A区
図版27	92B区
図版28	古代の遺物
図版29	城下町期の遺物・土器類
図版30	城下町期の遺物・柿経
図版31	城下町期の遺物・柿経

第 I 章 調査概要



第 I 章 調査概要 目次

第 1 節 調査の経緯	1
第 2 節 遺跡周辺の歴史的環境	2
第 3 節 調査の方法と経過	3

第1節 調査の経緯

愛知県土木部は、愛知県西春日井郡清洲町内の都市計画道路建設の一環として、同郡清洲町地内に県道清洲新川線の拡幅工事を計画した。工事予定地は西春日井郡清洲町大字田中町・大字清洲地内にあり、清洲城下町遺跡（遺跡番号 21002）¹⁾の範囲内に含まれていたため、事前の発掘調査が必要となった。発掘調査は、愛知県土木部より、県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センターが担当した。調査面積の合計は2,297㎡である。

工事予定地は、既に昭和62年度から昭和63年度までの期間に発掘調査が実施された県道新川清洲線内に隣接しており、実質的にはこの時の発掘調査に継続するような形で行われた。従って、今回の発掘調査はこれら過年度の成果を様々な形で踏まえている。なお、本報告書には、県道新川清洲線関連の発掘調査の内、一部未発表であった調査成果が含まれていることを付記しておく。

本報告書で掲載する発掘調査区は、89G区から92B区までの8調査区である。各調査区別の調査期間・調査面積・調査担当者は下記の通りである。

註(1)『愛知県遺跡分布地図(Ⅰ)尾張地区』1986愛知県教育委員会による。

第1表 調査区一覧表

年 度	調査区	面 積	調 査 担 当 者	調 査 期 間
平成元年度(1989)	89G区	50㎡	鈴木	1990年2月
平成2年度(1990)	90G区	180㎡	城ヶ谷・鈴木	1990年11月～1990年12月
	90H区	160㎡	城ヶ谷・鈴木	1990年11月～1990年12月
	90I区	50㎡	遠藤・加藤	1991年1月
平成3年度(1991)	91D区	500㎡	城ヶ谷・鈴木・小嶋	1991年8月～1991年9月
	91E区	347㎡	城ヶ谷・鈴木・小嶋	1991年8月～1991年9月
平成4年度(1992)	92A区	400㎡	大竹・蟹江	1992年7月～1992年9月
	92B区	610㎡	大竹・蟹江	1992年7月～1992年9月



第1図 遺跡位置図

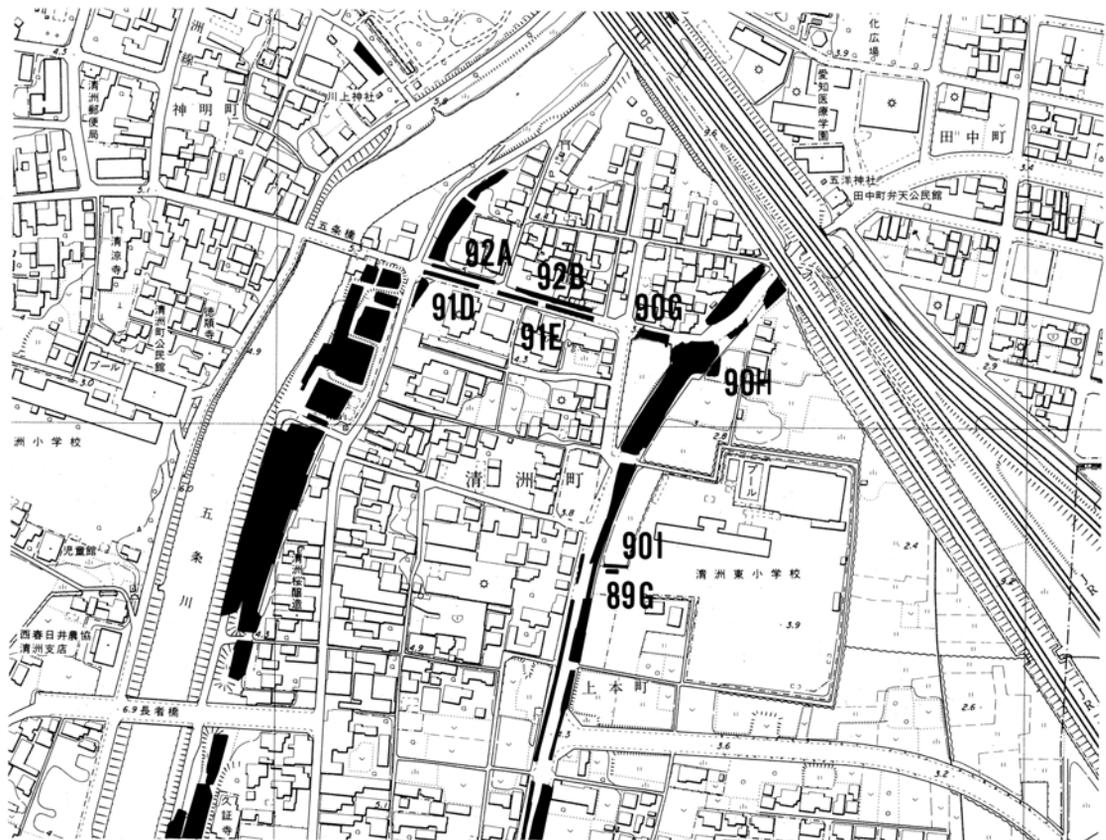
第2節 遺跡周辺の歴史的環境

清洲城下町遺跡は、濃尾平野の南東部を南流する五条川流域に所在する。遺跡は海拔2～5mを測る低平な地形に立地しているが、遺跡の範囲は東西約1.5km、南北約2.7kmと広大で、自然堤防や後背湿地・河床部等を含んでいるため、微地形的には非常に変化に富んだ状況となっている。調査地点によって遺跡の状況が異なるのは、主としてこのことに拠るものである。

このような低平な地形を古来人々は様々な形で開発・耕作・居住してきた。遺跡周辺には、縄文時代後期前後から生活が認められる朝日遺跡が存在し、遺跡の所在は点々と移り変わって行くものの、弥生時代以降、平野部での生活は連綿と受け継がれていたと思われる。このことは、清洲城下町遺跡の範囲内でもある程度伺うことができる。主体となる16世紀前後の清須城下町関連の遺構は遺跡全域で確認されているが、これ以外の時期の遺構も随所で確認されており、その様相・存続年代は地点によって相違している。これらの状況から、弥生時代以降、時代によって居住域を複雑に変化させてきて、戦国時代から江戸時代初期に至って、この地域では最大規模の広大な居住域を設定していたことが言えよう。

今回の調査地点周辺においては、古墳時代後期以降平安時代までの集落と、14世紀を主体とする集落の存在、及び16世紀を主体とする清須城下町の遺構群が既に判明している¹⁾。一連の集落変遷の動向を更に詳細に把握する上で、今回の調査地点の成果は重要な資料となるものと思われる。

註(1)『清洲城下町遺跡』1990 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第17集による。



第2図 調査区位置図 (S=1/10000 黒塗部が調査区)

第3節 調査の方法と経過

発掘調査は、まず各調査区毎に重機による表土はぎを行い、過年度の調査成果を踏まえ2～5面の遺構面を捉えて実施した。なお、道路や住宅地に囲まれた調査区の安全を確保するために発掘調査区は狭小なものとならざるを得なかった。測量・遺物の取り上げに際しては、建設省告示に定められた平面直角座標Ⅶ系に準拠して座標軸を定め、これから5mグリッドを設定している。遺構図版・遺構一覧表中のグリッド表記はこの座標に基づいて上2文字は100mグリッドの位置を、下2文字は5mグリッドの位置を示している。測量に当たっては、狭小な調査区で複数の遺構面にわたるため、遺構掘削完了後平板測量を実施した。なお、ほとんどの調査区で、調査終了後直ちに道路建設の工事に着手している。各調査区毎の調査経過と概要を以下に記述する。

89G区 清洲東小学校前の歩道橋建設に伴い、当時駐車場であった地点を発掘調査した。この地点は駐車場が設置される前は水田であり、水田耕作土を除去した遺構検出面は標高約2mであった。灰黒色粘土が充填された土坑を検出し、この土坑から柿経が多数出土した。ここは昭和62・63年度に調査された中堀に隣接する地点であり、柿経出土の背景を知る上で興味深い資料である。

90G区・90H区 62E区に接する調査区で、調査前は水田であった。耕作土を除去すると黄褐色シルト層が古代から近世までの重複した遺構検出面として確認された。62E区で確認された古代の溝の延長部や竪穴住居を確認した以外は、特に目だった成果は得られていない。

90I区 89G区の北隣に所在する。調査時点での現況は水田で、黄褐色シルト層がベースである。柿経が出土した土坑の続きが検出される予定であったが、89G区と90I区の調査区の境界部ではほぼ収束しており、柿経の追加資料は得られなかった。

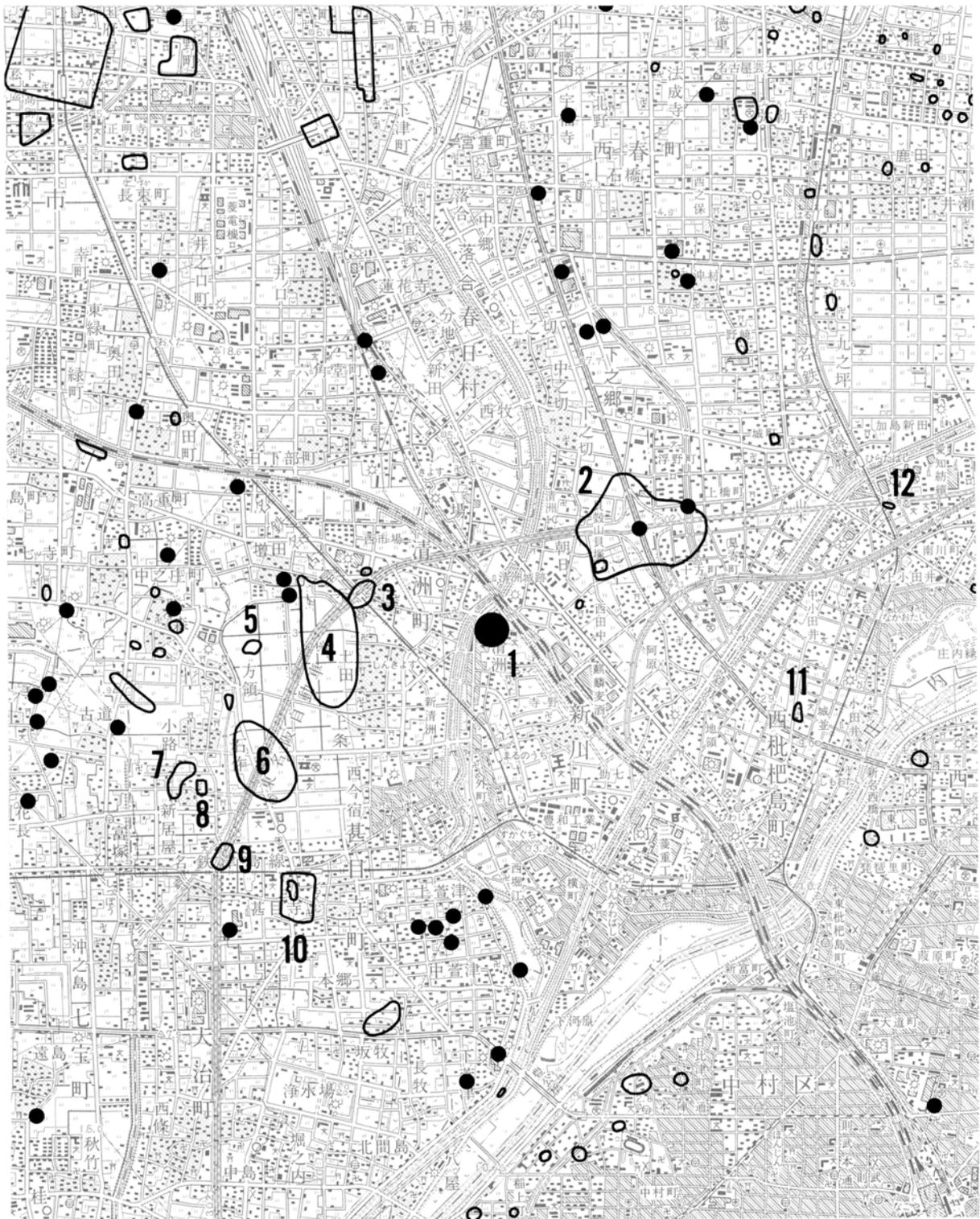
91D区・91E区 五条橋の東延長部分の道路予定地で、平成4年度と併せて片側半分づつ調査を実施した。五条川改修関連の調査区と県道新川清洲線関連の調査区の間を結ぶ位置に相当する。調査当時は道路用地で、地表面の標高は5m前後を測り、東に向かう程低くなっている。狭小な調査区ではあったが、旧地形を復元・想定する上で注目された。調査の結果、91D区は旧五条川の河床部分・91E区はこの自然堤防部に相当することが判明し、91D区では戦国時代の遺構・遺物、91E区では古代から戦国時代までの成果が得られた。

92A区・92B区 91D区・91E区の北隣の細長い調査区であった。遺構の状況は基本的には平成3年度の調査成果と同様であったが、近世の井戸群の存在が新たな知見となった。また、戦国時代の成果としては、旧五条川の埋積の年代を決める土坑などの確認・埋積過程の地学的検討などを行うことができたことは特筆される。

なお、調査成果の概要は基本的には各年度の年報に記載されているが、この他にも以下の関係文献が存在する。但し、現地説明会などの一般的な普及活動は調査区の制約上できなかった。

(鈴木正貴)

鈴木正貴 1990「清洲城下町遺跡出土の柿経」『埋蔵文化財愛知No.21』



第3図 周辺の遺跡分布図（国土地理院1/50000『名古屋北部』をもとに作成した。）

1. 清洲城下町遺跡
2. 朝日遺跡
3. 廻間遺跡
4. 土田遺跡
5. 方領遺跡
6. 阿弥陀寺遺跡
7. 清明遺跡
8. 法性寺跡
9. 大測遺跡
10. 甚目寺跡
11. 比良城跡
12. 貴生町遺跡

第Ⅱ章 遺 構



第Ⅱ章 遺構 目次

第1節 基本層序 5

第2節 古代・中世の遺構 10

 A、概要 10

 B、竪穴住居 10

 C、溝 13

 D、土坑 13

第3節 城下町期（戦国時代）の遺構 14

 A、概要 14

 B、掘立柱建物 14

 C、溝 15

 D、土坑 15

 E、砂利敷遺構 17

 F、焼土層 17

第4節 近世の遺構 18

 A、概要 18

 B、井戸 18

 C、土坑 18

古代	古代1期	6世紀後半～7世紀初頭
	古代2期	7世紀前葉～7世紀中葉
	古代3期	7世紀中葉～7世紀後葉
	古代4期	7世紀末～8世紀前葉
	古代5期	8世紀中葉～8世紀後葉
	古代6期	8世紀後葉～9世紀前葉
	古代7期	9世紀中葉～10世紀前葉
中世		
城下町期	城下町期Ⅰ－1期	15世紀末～16世紀初頭
	城下町期Ⅰ－2期	16世紀前葉
	城下町期Ⅱ－1期	16世紀中葉
	城下町期Ⅱ－2期	16世紀後葉
	城下町期Ⅲ－1期	16世紀末～17世紀初頭
	城下町期Ⅲ－2期	17世紀前葉
近世		

第1節 基本層序

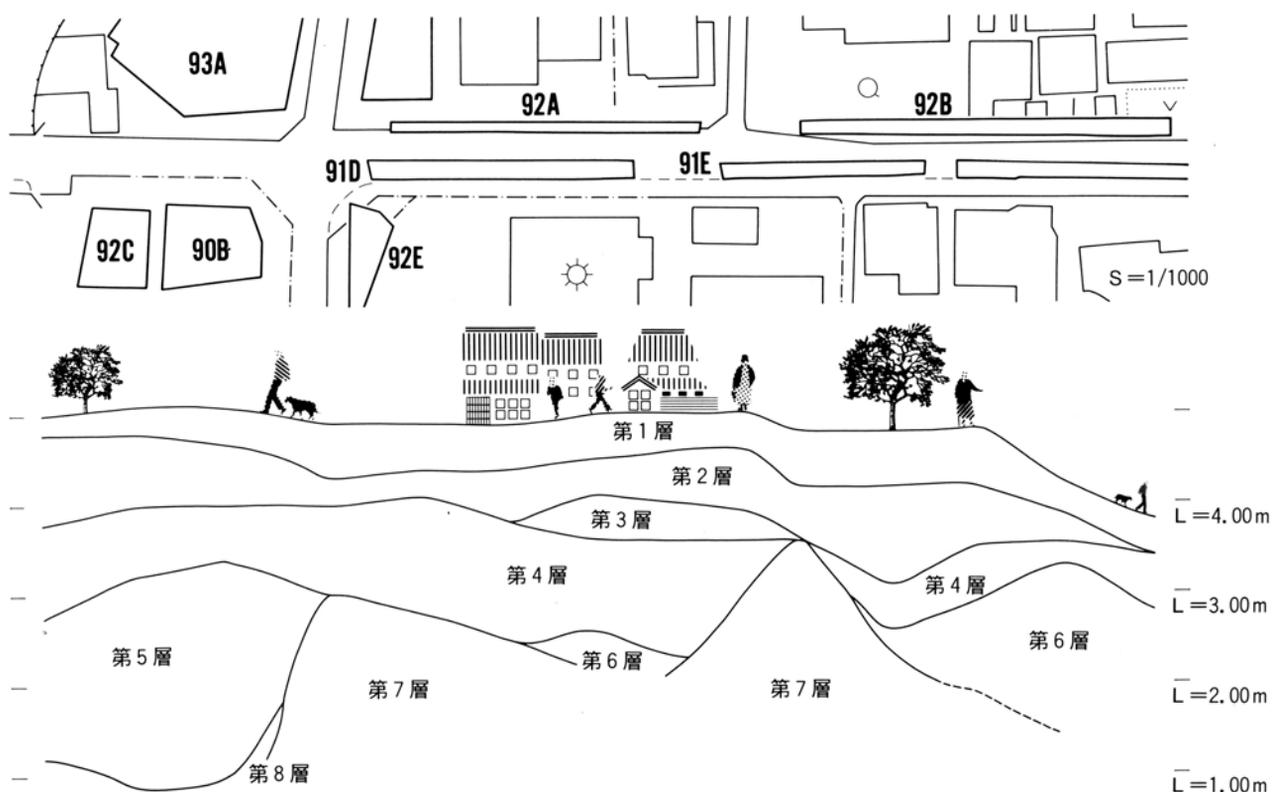
濃尾平野は、主に木曾川・長良川・揖斐川によって形成された沖積平野である。この地域の人々は、上記の木曾三川をはじめとして、大小の川と深い結び付きを持って生活してきた。清洲周辺の人々も、現在は庄内川水系である五条川と関わりを持ってきている。

この五条川は、1609年の「御囲堤」の築堤により木曾川からの流入が閉鎖されて上流部が放棄されるまでは、木曾川の分流の一之枝川として、犬山から犬山扇状地、濃尾平野の南東部へと流れていた。自然堤防はこの河道に沿う形で発達している。清洲城下町遺跡は、こうした自然堤防上に主として展開している。

調査区は、五条川左岸の自然堤防とその後背湿地上に位置し、現地表の標高は2 mから5 mである。西端の92A区付近が最も高く、東に向かってなだらかに傾斜して低くなっている。90 I区・89G区付近は後背湿地上に位置する。自然堤防上の調査区と後背湿地上の調査区は、堆積状況が異なるため土質の状態も異なっている。東西方向の基本的な層序は、

第1層：にぶい黄褐色シルト

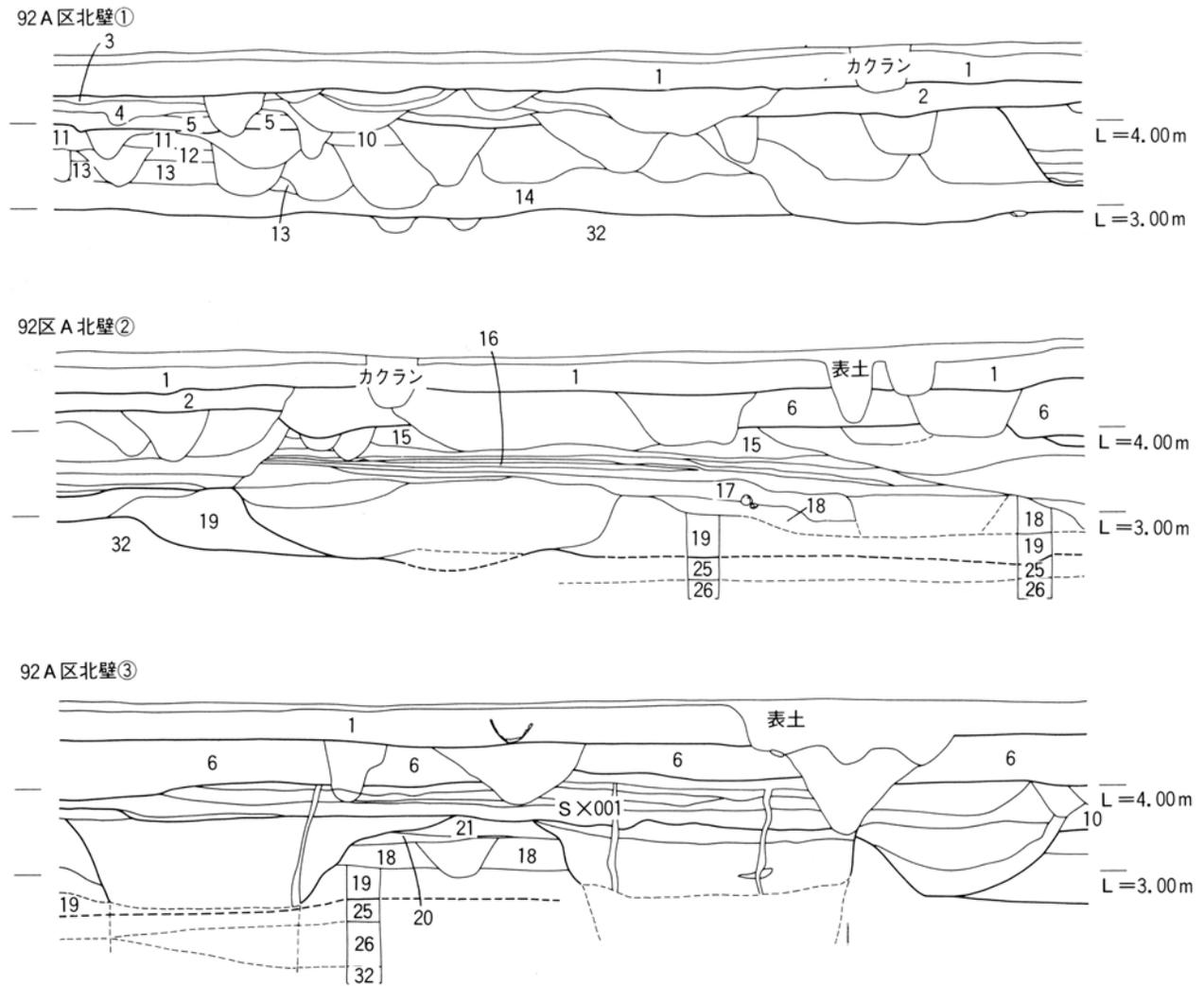
第2層：黄褐色シルト



第4図 基本層序模式図

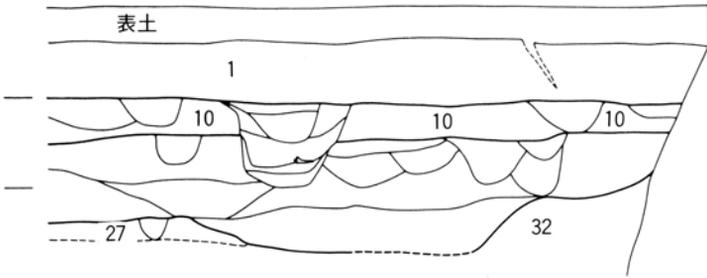
- 第3層：灰黄褐色シルト
- 第4層：暗灰黄色砂質シルト
- 第5層：暗灰色・灰青色シルト・粘土と、暗灰色・褐色砂
- 第6層：灰色・黄褐色粘質シルト
- 第7層：褐色粘質土
- 第8層：青灰色細粒砂

となっている。第1層は、現地表面と同じ様になだらかに傾斜しており、宿場町期の遺物を含んでいる。この層は比較的遺構に切られていない。第2層は城下町期の遺物を多く含んでおり、この上面で宿場町期の遺構が多く掘り込まれている。92A区の西端では、第2層中にラミナが見られ、この層は五条川の増水によって形成された堆積物と考えられる。この層の下面の標高は約4mであり、五条川の増水の規模が想像できる。第3層にも城下町期の遺物が含まれる。この第3・4層の上面から城下



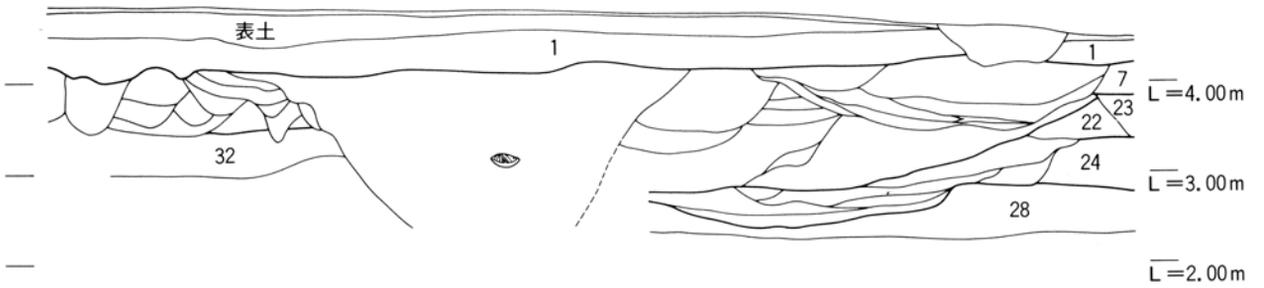
第5図 92A区北壁断面実測図 (S=1/80)

92A区北壁④

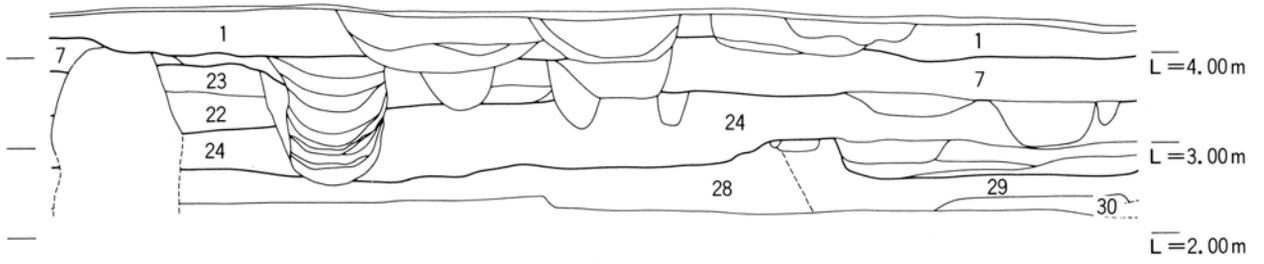


- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. にぶい黄褐色シルト | 17. 黄褐色粘土 |
| 2. にぶい黄褐色シルト | 18. 暗褐色シルト |
| 3. 黄褐色シルト | 19. 黒褐色細粒砂 |
| 4. 灰黄褐色シルト | 20. にぶい黄褐色砂質シルト |
| 5. 暗灰黄色シルト | 21. 黄褐色シルト |
| 6. 黄褐色シルト | 22. 暗灰黄色シルト |
| 7. 暗灰黄色粘土質シルト | 23. 灰黄褐色シルト |
| 8. 黒褐色シルト | 24. 黄褐色粘土質シルト |
| 9. 灰黄褐色シルト | 25. 黄褐色中粒砂 |
| 10. 灰黄褐色シルト | 26. 黄褐色粘土 |
| 11. 暗灰黄色シルト | 27. 灰色粘土質シルト |
| 12. 暗灰黄色細粒砂 | 28. 暗灰色粘土質シルト |
| 13. 暗オリーブ灰色シルト | 29. 黄褐色粘土質シルト |
| 14. 暗灰黄色砂質シルト | 30. 暗オリーブ灰色粘土質シルト |
| 15. 灰黄色シルト | 31. 黄褐色粘土質シルト |
| 16. 黄褐色細粒砂、粘土互層 | 32. 褐色粘土質砂 |
- 1: 第1層 2~9: 第2層 10: 第3層
11~24: 第4層 25~31: 第6層 32: 第7層
※番号のないものは遺構

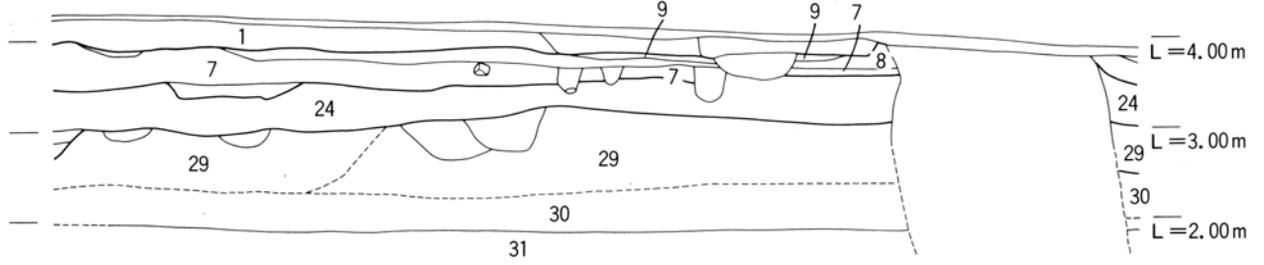
92B区北壁①



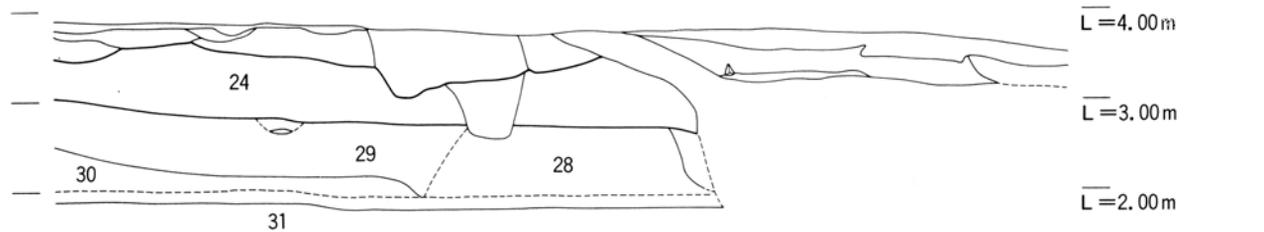
92B区北壁②



92B区北壁③



92B区北壁④



第6図 92A区・92B区北壁断面実測図 (S=1/80)

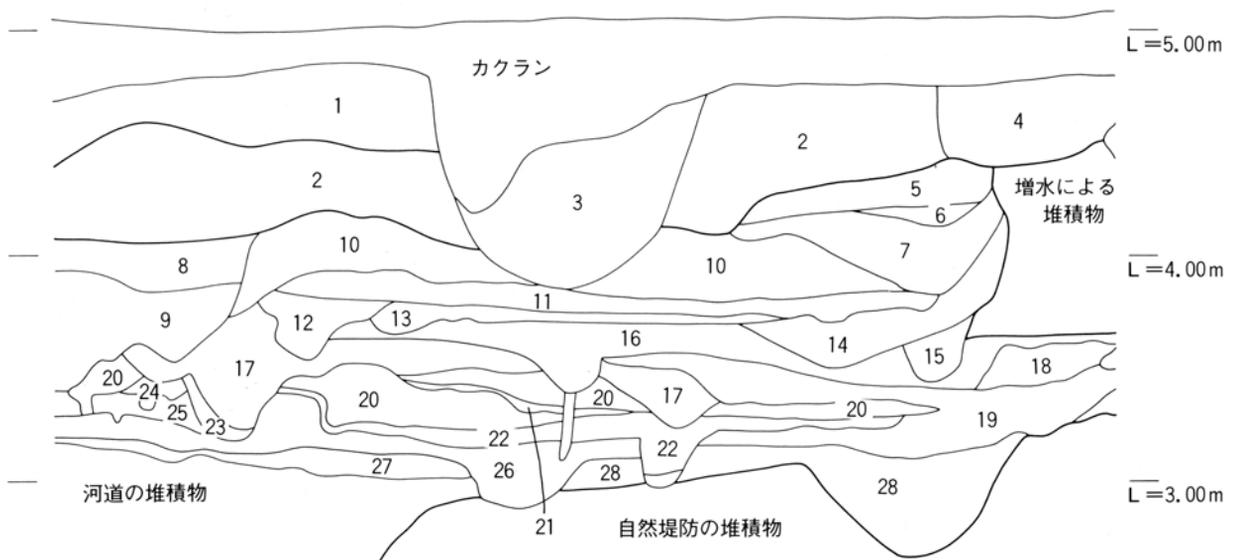
町期の遺構が掘り込まれている。特に、西側では遺構によって切られているのが目立ち、本来の堆積物が判りにくくなっている。また、一部の調査区では五条川の増水によって形成されたと考えられる砂とシルト・粘土の互層が見られる。第5層は五条川の河道の堆積物である。この層は東から西へと順に堆積していた。粘性が高いシルトが多いことから、五条川の流れが比較的緩やかであったと推定できる。第6層は後背湿地の堆積物と考えられ、その上面で古代（奈良時代）の竪穴住居が検出された。第7層は、自然堤防を形成する堆積物と思われる。第7・8層が遺跡の基盤層となるが、二つの層の関係についてははっきりしない。

自然堤防 第7・8層で形成された基盤層上面は、現在の五条川から92A区にかけて急に上がり、その比高差は2m以上を測る。そこから東へなだらかに下り、92B区で再び一つのピークを作っている。この二つの高まりが自然堤防となっている。この自然堤防は、93A区において第7層上面に古代末の遺構が掘られていること、第7層よりも上位に存在する第6層上面に古代の遺構が見られること等から、古代（奈良時代）以前には形成されていたと考えられる。

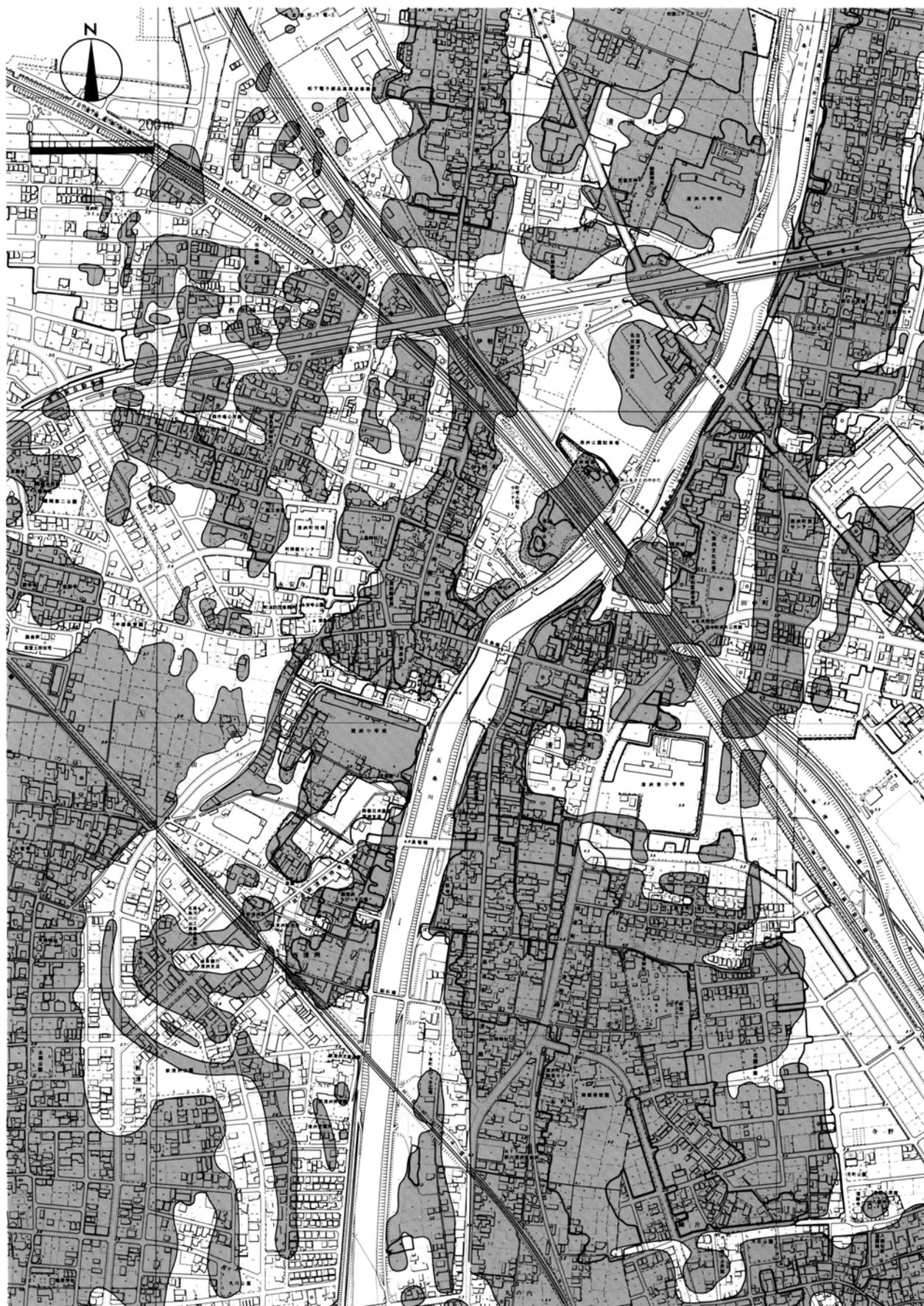
河道の堆積物 第5層の五条川の河道の堆積物はその出土遺物から城下町期に堆積したと考えられ、おおよそ約200年で2m以上の地層が五条川により堆積している。このことは、当時の五条川での堆積速度が現在地質学的に考えられている速度よりもはるかに速いことを示している。また、93A区（第7図：五条川改修関連の調査区）では、自然堤防の堆積物の上に河道の堆積物が乗り、河道の堆積物の上に五条川の増水による堆積物が乗っていることが確認された。このことから、92A区以西は自然堤防の高さが低く、五条川の水位が上昇する度に堆積を繰り返していたと考えられる。

（大竹正吾）

- | | | | |
|------------|---------------|---------------|---------------|
| 1. 褐色シルト | 8. 褐色シルト | 15. 黄褐色中粒砂 | 22. 褐色シルト |
| 2. 褐色シルト | 9. にぶい黄褐色シルト | 16. にぶい黄褐色細粒砂 | 23. にぶい黄褐色シルト |
| 3. 暗褐色シルト | 10. にぶい黄褐色シルト | 17. 灰黄褐色粘土 | 24. 黄褐色中粒砂 |
| 4. 褐色シルト | 11. にぶい黄褐色粘土 | 18. 暗灰黄色細粒砂 | 25. 灰黄褐色細粒砂 |
| 5. 褐色シルト | 12. にぶい黄褐色シルト | 19. にぶい黄褐色中粒砂 | 26. 褐色シルト質砂 |
| 6. にぶい黄褐色砂 | 13. にぶい黄褐色粘土 | 20. 黄褐色中粒砂 | 27. 褐色粘土 |
| 7. オリーブ灰色砂 | 14. 褐色細粒砂 | 21. 黄褐色粘土 | 28. 褐色粘土 |



第7図 93A区南壁断面実測図 (S=3/100)



第8図 遺跡周辺の自然堤防（地図は平成3年3月清洲町作成）

凡例 アミは自然堤防
等高線は1m間隔

第2節 古代・中世の遺構

A、概要

古代の遺構は、旧五条川流路内に相当する91D区・92A区を除いた全調査区で検出された。検出された遺構は五条川左岸の自然堤防から後背湿地にかけて分布している黄褐色シルト層上に掘削されている。埋土はほとんどが基盤と同様のシルトであり、遺構の検出は困難であった。今回の調査で確認されたこの時期の遺構には竪穴住居25棟・溝3条・土坑20基などがある。この結果、この清洲町田中町地区での古代の竪穴住居は合計で95棟を数えることとなった。今回の調査で確認された竪穴住居は8世紀代が中心となっており、6～7世紀にまで遡るものは検出できなかった。また、弥生時代の土器の細片もわずかに出土したが、該期の遺構は確認できなかった。

中世の遺構は今回の調査では、遺物を伴った明瞭な遺構は検出できなかった。しかしながら該期の遺物はかなり見られることから付近に遺構の存在が想定されよう。特に、91E区の東端部で検出されたピット群は、遺物がほとんど出土しないものの、埋土が城下町期特有の暗褐色の砂混じりシルトではなく、黄褐色の砂混じりシルトであったため、城下町期よりも遡る遺構である可能性が高い。

B、竪穴住居

竪穴住居は、その可能性のあるものも含めると25棟存在する。調査区の制約のため住居の全容は把握できないが、平面形は全て隅丸方形を呈していたと思われる。これまでの調査では、竪穴住居は平面規模で4群に区分されていたが、今回確認した竪穴住居がいつれに該当するかは不詳である。主軸の方位は、これまで①N・②N16°E・③N33°E・④N38°Wの4種の存在が確認されていたが、90H・90I・89G区の住居は上記の分類にはほぼ該当する一方、91E・92B区の住居は新たに⑤N15°Wを示す一群であることが明かとなった。91E・92B区の住居群は年代的にも8世紀後半から9世紀中頃に位置付けられているが、この時期の遺構はこれまで63F・K区といった北部の調査区で確認されたのみであった。このような状況からこの住居群は、63F・K区の居住域とは異なる支群を形成していたものと想定できる。以下に代表的な竪穴住居を取り上げて詳説し、他は下記の一覧表に記載するにとどめる。

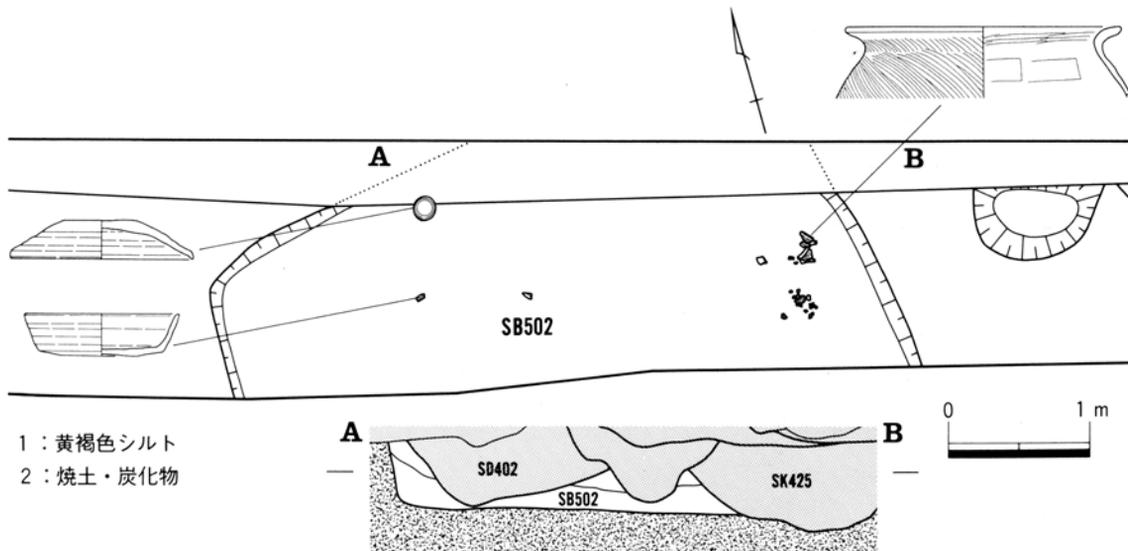
第2表 竪穴住居一覧表（時期は遺物の時期区分による）

番号	規模(cm)	方位	カマド	焼土	周溝	柱穴	時期	S B506	(102)×(101)×17	N15° W	無	無	無	不明	6
S B401	363×(176)×46	N15° W	無	無	無	1ヶ	7	S B507	(272)×(98)×13	N 5° W	無	無	無	1ヶ	4
S B402	(195)×-×39	N15° W	無	無	無	不明	7	S B508	(374)×(104)×35	N 5° W	無	無	無	1ヶ	
S B403	350×(240)×32	N 5° W	無	無	無	不明	6	S B601	(375)×(356)×-	N 5° E	無	無	無	不明	3
S B404	(274)×(85)×16	N15° W	無	無	無	1ヶ	6	S B602	438×361×34	N40° W	無	無	無	1ヶ	6
S B405	(377)×(114)×42	N15° W	無	無	無	不明		S B603	438×(359)×38	N35° E	無	無	無	不明	2
S B406	(127)×-×11	N40° E	無	無	無	不明	5・6	S B604	(284)×(185)×11	N15° E	無	無	無	不明	4
S B407	(240)×(155)×28	N35° W	無	無	無	不明		S B605	267×(202)×13	N 5° W	無	無	無	不明	
S B501	(309)×(285)×50	N20° W	無	無	無	不明	6	S B606	(598)×(508)×17	N25° W	無	無	無	不明	3
S B502	(433)×(268)×56	N15° W	無	無	無	不明	6	S B607	(135)×(131)×18	N	無	無	無	不明	
S B503	(247)×(168)×17	N20° W	無	無	無	不明		S B608	(292)×(137)×21	N 5° W	無	無	無	1ヶ	
S B504	(323)×(251)×24	N30° W	無	無	無	不明		S B609	(549)×(333)×23	N25° E	無	無	無	不明	
S B505	(339)×(220)×6	N15° W	無	無	無	不明	5	S B610	(239)×(106)×27	N	無	無	無	不明	

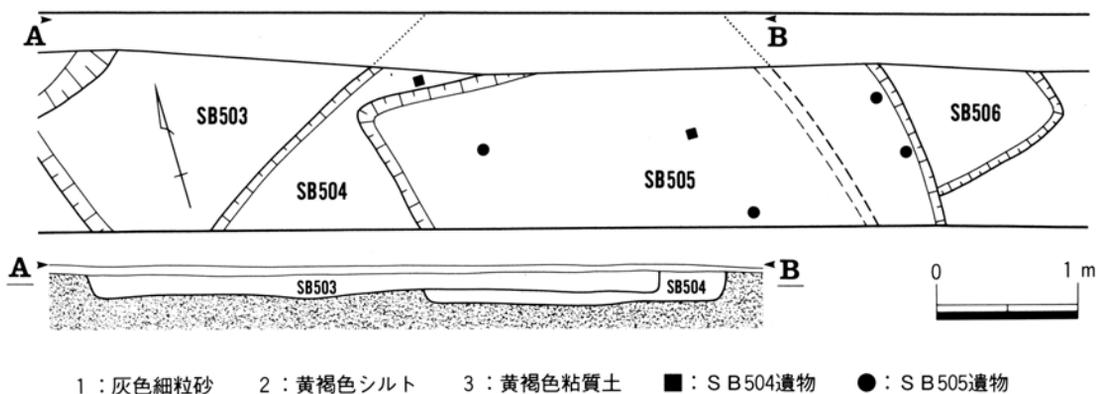
S B 502 (第9図) 91E区に位置する竪穴住居である。北東端と南半部が調査区外に広がっており全容は不明であるが、平面形は一边が4.4m弱の隅丸方形であると推定できる。現存する深さは56cmを測るが、検出時に検出面を掘削した可能性があり、もう少し深かったと推定される。周溝・カマド・柱穴は確認できなかった。しかし、住居の東端部に焼土の広がりがあり若干認められ、この周辺から土師器の甕が出土している。この焼土面はカマドまたは炉跡の可能性はある。一方、住居の西部では須恵器の杯身と杯蓋の出土がみられ、住居内の機能的な分化が認められよう。出土遺物から8世紀後半から9世紀初頭に位置付けられる。

S B 504 (第10図) 91E区の中央部に所在する竪穴住居で、S B 505に切られて重複している。四隅が調査区外にあって規模は不明であるが、方位はN30°Wを測り、この周辺の住居の方位とは異なる。時期は不明。

S B 505 (第10図) 91E区の中央部に所在する竪穴住居で、S B 504・506を切る。南部が調査区外に展開するが、平面プランはややいびつな隅丸方形と考えられる。住居内の施設は特に確認されなかった。遺物は床面に散在して出土しており、時期はこれらから8世紀中葉に位置付けられる。



第9図 S B 502実測図

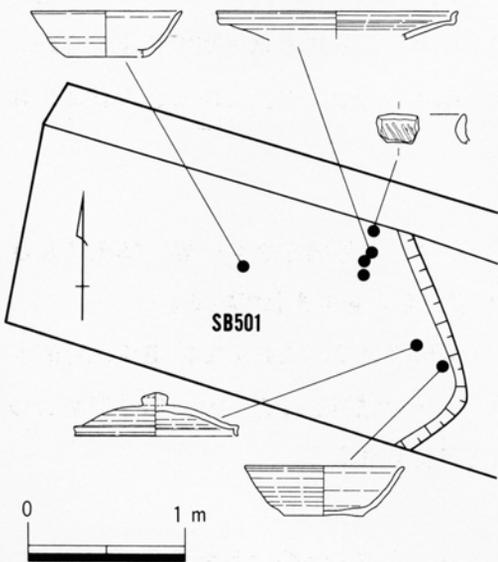


第10図 S B 504・S B 505・S B 506実測図

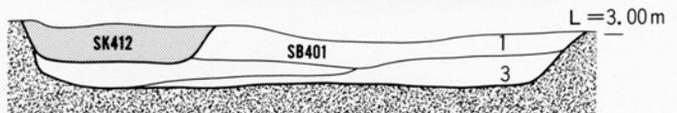
S B 501 (第11図) 91E区東区の西端部に位置する竪穴住居で、南東隅部のみを検出した。主軸の方位はN20°W前後である。周溝や柱穴は確認されず、須恵器杯身等の遺物が南東隅部に集中して出土している。部分的に床面から焼土が確認された。時期は出土遺物から8世紀後半から9世紀初頭に位置付けられる。

S B 401 (第12図) 92B区の中央部にある竪穴住居で、北半部を検出した。主軸の方位はN15°W前後を測り、床面には炭化物層が広がっていた。焼土層は認められなかった。柱穴は1ヶ確認されたが、そのほかの施設は検出できなかった。遺物は比較的まとまって出土しており、これらから8世紀中葉の住居と比定できる。

S B 402 (第13図) 91E区の西部に位置する竪穴住居で、東辺のみを検出した。西辺はS D 402によって破壊され遺存しない。周溝・カマド・柱穴などの住居内施設は確認できなかった。出土遺物は住居内に散在しており、これらから時期的には9世紀中葉に相当する住居である。

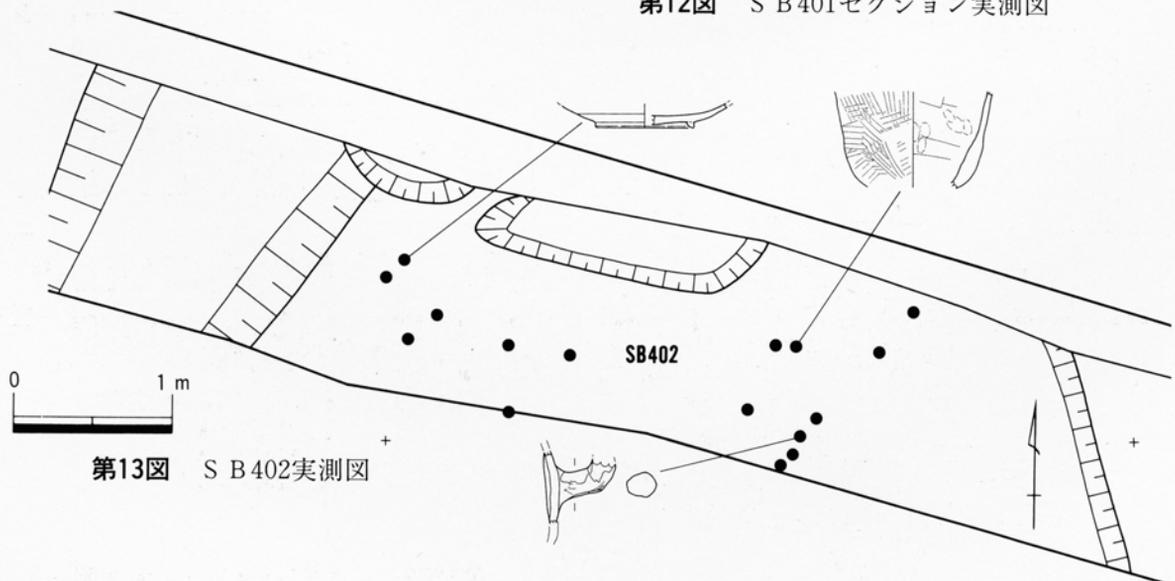


第11図 S B 501実測図



1：黄灰色シルト 2：暗灰黄色シルト 3：黒色シルト（焼土含）

第12図 S B 401セクション実測図



第13図 S B 402実測図

S B 403 (第14図) 91E区の中央部に所在する竪穴住居で、S B 404を切る。一辺が3.5mの隅丸方形プランと想定され、柱穴と思われるピットが南東部に1基存在する。その他の内部施設は遺存しない。方位はN 5°Wを測る。時期は出土遺物から8世紀後半から9世紀初頭に位置付けられる。

S B 603 90G区の中央部に位置する住居で、S B 602・604に切られている。また北西隅部などが攪乱によって破壊され全容を把握しにくい。一辺が4.4mの隅丸方形の竪穴住居と推定される。周溝や柱穴は確認されず、また、北辺と西辺が遺存しているにもかかわらずカマドは存在しない。時期は出土遺物から7世紀中葉である。

S B 606 90G区の東端部に所在する竪穴住居である。調査で確認し得たのは北辺部のみで南端部の状況は湧水が著しく検出できなかった。周溝や柱穴も同様な事情のため確認できなかったが、カマドと思われる痕跡や焼土などは存在しなかった。出土遺物から7世紀後半に位置づけられる住居である。

S B 609 90H区の西部で検出された竪穴住居で、戦国時代から江戸時代にかけての土坑によって住居内はかなり攪乱されている。東隅部のみを検出したが、内部施設は確認できなかった。時期は7世紀後半に比定されるが、住居埋土からは弥生土器の細片も出土した。しかし、これはS B 609に伴うものとは考えられない。

C、溝

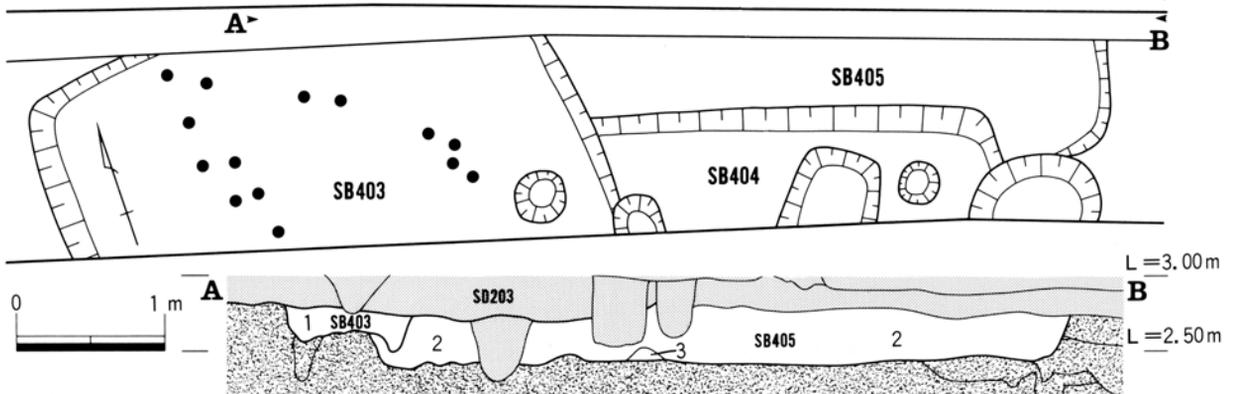
この時期の溝には、断面形がV字形を呈するS D 601と浅い船底状の形態をなす一群(例えばS D 402等)がある。中には調査区が狭小であるため、溝と確定し難いものも含まれている。

S D 603 (第15図) 90H区の北半部で検出された断面形がV字形の溝で、62E区で検出された溝S D 07に接続するものである。幅は約2.0m~2.4mを測り、埋土は灰色粘質土であった。調査当時この溝を完掘すると若干の湧水がみられた。集落の境界を示す溝と考えられよう。

D、土坑

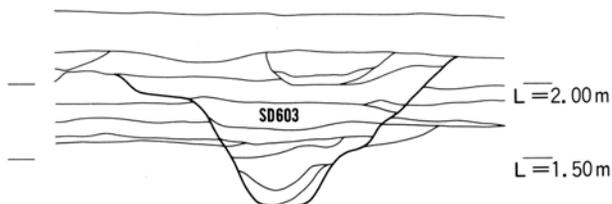
この時期の土坑はほとんどが竪穴住居に伴わないもので、各々の土坑の性格は不明である。

(鈴木正貴)



第14図 S B 403・S B 404実測図

- 1. 灰褐色砂質シルト
- 2. 灰褐色シルト
- 3. 黄褐色シルト



第15図 S D 603セクション実測図

第3節 城下町期（戦国時代）の遺構

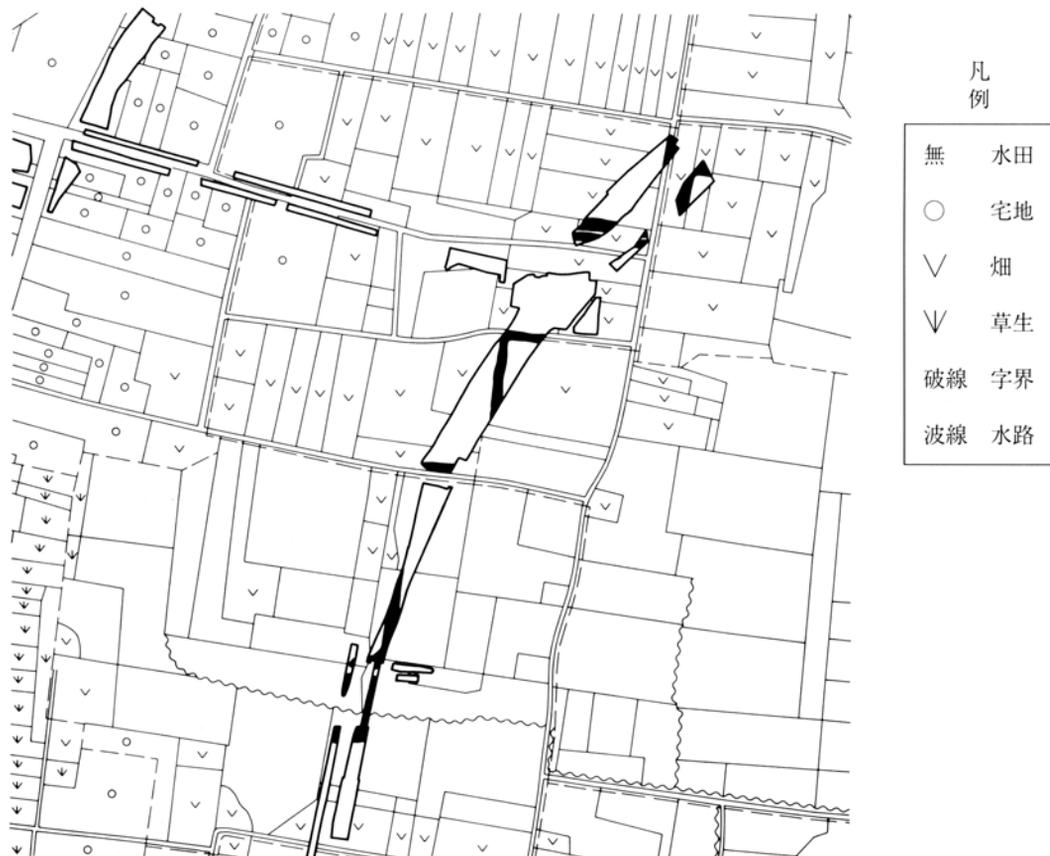
A、概要

戦国時代から江戸時代の初期までの遺構を城下町期の遺構として以下に記述する。この時期の遺構は調査区全域で検出されたが、その様相は調査地点によって異なる。91D・92A区では16世紀の前半には埋積してしまった旧五条川が存在し、五条川埋積後には焼土面や砂利層に伴って16世紀後半以降の遺構が検出されている。一方、91E・92B区ではシルト層の上で遺構面が検出されていて、15世紀末以降の遺構が確認されている。遺構には掘立柱建物・溝・土坑などがあるが、調査区が狭小なため、溝か土坑かの認定や建物の平面プランの想定が困難である場合が多い。ここでは、遺構の種類毎に記述を進める。なお、城下町期の時期区分は『清洲城下町遺跡Ⅳ』1994¹⁾に依拠する。

B、掘立柱建物

掘立柱建物は柱穴列が3例検出された。検出分のみで検討すればいずれも柵列と判断できるが、調査区外に延びる可能性もあり、建物の全容を把握するのは難しい。ここでは柵列としてS A番号を付けた。

S A 001（第18図） 91E区の西部で検出された東西方向の柵列である。S K 093とS K 094の前後関係が不明であるが、S K 094を主に考えると4間分が確認されたこととなり、柱間は西から各々2.2m・1.9m・1.8m・2.6mを測る。全ての柱穴に根石が1個から2個平坦面を上にして納められている。



第16図 城下町期の遺構配置図（S=1/2500）

明治17年の地籍図（愛知県公文書館）より作成。

S K 097・S D 007などが廃絶された後に設置されており、城下町期Ⅲ期に所属すると考えられる。

S A 002 (第17図) 92B区の中央部で検出された東西方向の柵列である。4間分が確認され、柱間は西から各々4.3m・2.1m・2.0m・2.1mを測る。いずれの柱穴も柱根部が深く段状に掘り込まれており、根石は設置されていない。主軸の方位はN75°Wであり、現在の道路の方向とほぼ同一である。S D 002廃絶後に建てられており、柱穴内の出土遺物から16世紀後半に位置づけられる。

S A 003 91E区・92B区の中央部で検出された南北方向の柵列で、根石が納められた柱穴が2基確認された。この柱間は5.8mを測り、おそらく中間の未調査地点に柱穴が2基程度存在したと思われる。主軸の方位はN15°Eで、S A 001・S A 002と直交する位置関係になる。

C、溝

この時期の溝は10数例検出されたが、調査区が狭いために溝と確定できるものは少ない。また、区画を表示すると考えられるものも僅少であった。

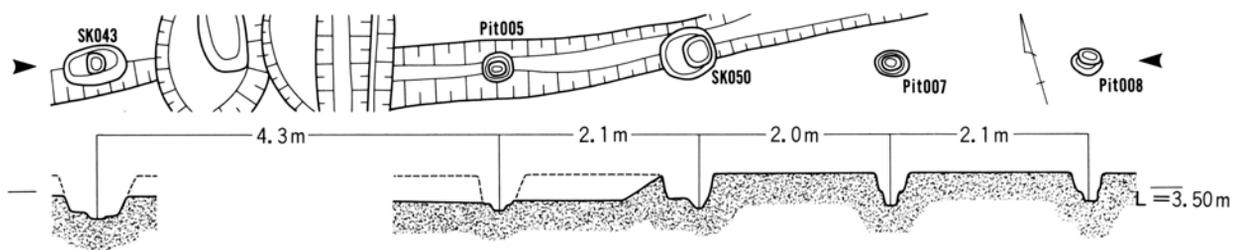
S D 007・S D 008 91E区で検出された溝で、この2本は平行して走る。溝の方位はN15°E、溝心間距離(間隔)は約5.5m(3間)を測る。掘立柱建物S A 001に切られており、時期は城下町期Ⅲ期以前と考えられる。短冊型地割の境界を示す遺構かあるいは道路の側溝と推定できる。

S D 001・S D 009 92B区・91E区で検出された方位がN15°Eの溝である。S D 001とS D 009は検出幅が若干異なるが、同一のものと思われる。S D 008との溝心間距離(間隔)は約13mを測る。

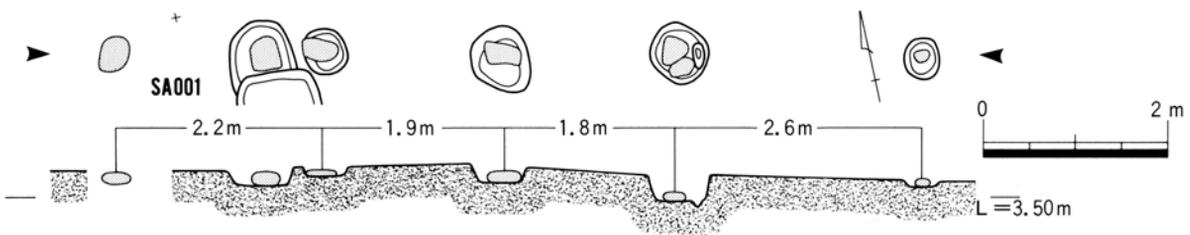
D、土坑

土坑は多数検出されているが、大半のものは性格が判明しない。ここでは主要な土坑について例示するのみにとどめる。

S K 024 (写真) 92A区に所在する長軸が1.45m・深さ1m弱を測る隅丸方形の土坑である。埋土中に炭化物・焼けた壁土が多量に包含されており、中から土師器の皿が8枚余(口縁部計測法で換算)の他、羽付鍋・内耳鍋がほぼ完形で出土した。土師器皿は墨書されたものや穿孔されたものが存在する。詳細な出土状況は不明である。遺物のセット関係から地鎮めなどの祭祀的な遺構と考えられよう。時期は16世紀後葉に位置づけられる。



第17図 S A 002実測図



第18図 S A 001実測図

S K 045 (第19図) 92B区で検出されたS K 046に切られる土坑である。埋土の堆積状況は炭化物・焼土・シルトなどが層状に重なっており、比較的深い掘形を持つ。時期は16世紀前葉か。

S K 067 91D区の中央部で検出された平面形が不定形の土坑である。中から土師器の皿が5枚余(口縁部計測法で換算)出土した。出土遺物は城下町期前期に属するが、旧五条川の埋積後に掘削されていることから、城下町期Ⅱ期に位置づけられる。

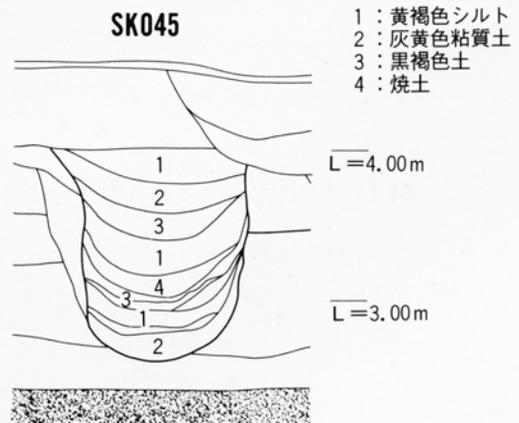
S K 109 91E区に所在する直径約3mの円形の土坑で播鉢状に掘り込まれていた。出土遺物の総破片数は454点を数えるが、若干近世の遺物も混入している。

S K 110 91E区に位置する直径3m弱のほぼ円形の土坑で播鉢状に掘り込まれていた。埋土は暗褐色粘質土が充填されており、底から宝篋印塔の九輪部が単独で出土している。石塔類のこうした出土例は堀の底部から出土する事例²⁾が知られているが、S K 110の場合も似たような用法があるものと思われる。時期は16世紀前半である。

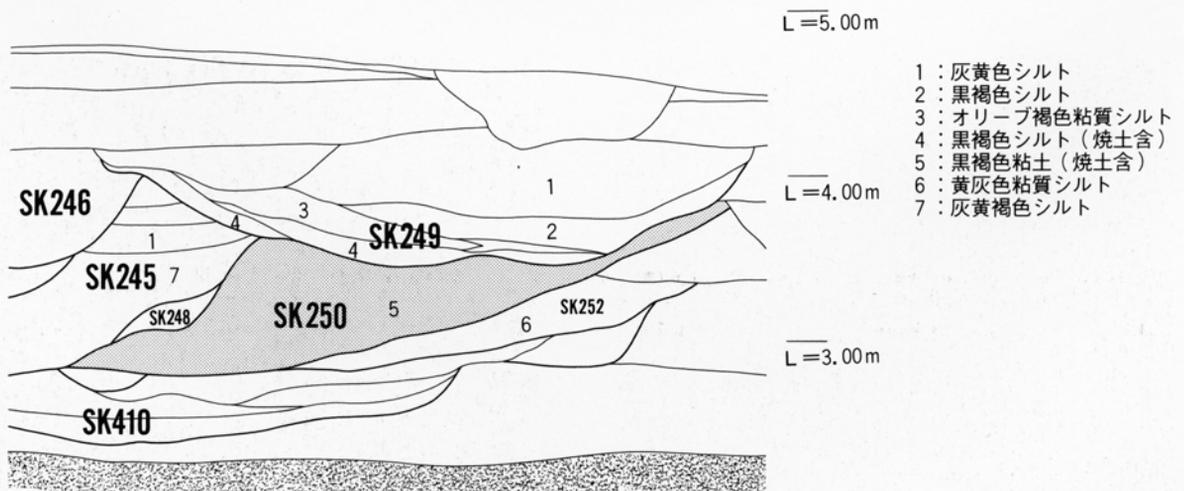
S K 250 (第20図) 92B区で検出された土坑である。この土坑は旧五条川の埋積後に掘削されており、S K 245・S K 249などに切られていることから遺構の時期の前後関係がはっきりと捉えられるものである。中からは四耳壺などの豊富な器種を持った大窯第1段階³⁾を中心とした遺物が出土した。この事例から、旧五条川は大窯第1段階にはある程度埋積していたことが明かとなった。



S K 024



第19図 S K 045セクション実測図



第20図 S K 250等セクション実測図

柿経埋納遺構 S K 626 (写真) 清須城中堀の北辺に隣接する89G区で検出されたなだらかにくぼんだ極めて浅い土坑で、灰黒色粘土が充填されていた。粘土中からは法華経を書写した柿経がいくつかの束になった状態で出土した。出土状況からみて、滞水している窪地に柿経を流した(納めた)ものと見られる。また薄板の未製品とみられる木片も出土した。土器類の出土は全く認められない、この遺構は城下町期Ⅲ期の遺構 S D 605に切られていることから、城下町期Ⅲ期以前の可能性が高い。なお、この遺構は90 I 区では北肩部のみがわずかに検出された。

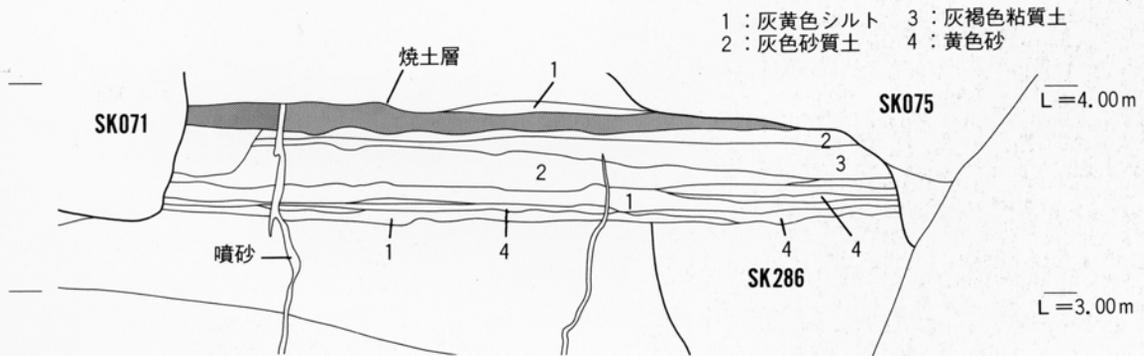
E、砂利敷遺構

S X 001 (写真) 92A区で検出された砂利が幅9.3mに亘って敷きつめられた遺構である。砂利層の上面は標高約3.8m~3.9mで、厚さは最大30cmを測る。砂利は1~3cmの垂角礫のチャートで構成され、ここから遺物は出土しなかった。S K 017等の城下町期の遺構に切られていることから、S X 001の時期は城下町期の範囲内に納まるものと思われる。

F、焼土層 (第21図)

91D区・92A区の一部で焼土層が確認された。この焼土層は炭化物を余り含まず赤色の2cm大の焼土ブロックが最大15cmの厚さで堆積している。おそらくこの層位自体が焼けたのではなく、焼けた壁土などの土塊を整地したものと判断される。上面の標高は約3.9mを測り、時期不明の噴砂がこの層を貫いており、S K 071、S K 075等には切られている。従って時期は16世紀第3四半期前後と推定できる。

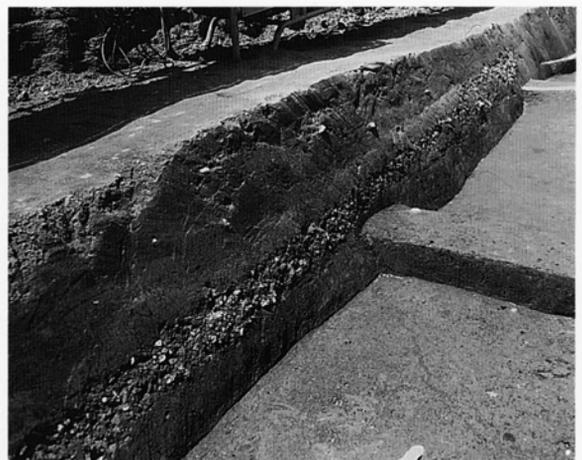
(鈴木正貴)



第21図 91D区北壁セクション実測図



S K 626柿経出土状況



S X 001セクション

第4節 近世の遺構

A、概要

近世の遺構は92A・B区を中心に分布している。主な遺構は井戸、廃棄土坑、溝などである。特に井戸は92B区で現道沿いに3基検出され、道路に沿って並ぶ短冊型地割の屋敷地が展開していた可能性を指摘できる。遺構の年代は18世紀～19世紀と考えられ、後期宿場町⁴⁾に関連した遺構群であると考えられる。

B、井戸

S E 001 92B区の西端部に所在する井戸で、内部構造物は検出できなかった。掘削当初、埋土が比較的均一であったため溝として調査したが、掘り形が深く円形のプランとなったため井戸と判断した。時期は出土遺物から18世紀後半から明治年間まで使用されたものである。

S E 002 92B区の中央部に位置する井戸で、内部構造物は不明である。時期は19世紀。

S E 003 92B区の中央部に存在する井戸で、内部構造物に漆喰を用いている。S E 002の約4.5m東に所在する。時期は19世紀。

C、土坑

土坑は他の時期と同様、性格不明のものが多いが、二、三特徴的な土坑を取り上げる。

S K 042 (写真) 92B区の中央部にある不定形の土坑である。中から常滑窯産の甕が破壊された状態で出土した。廃棄土坑と考えられる。

S K 055 (写真) 92B区の中央部に位置する不定形の土坑で、中から常滑窯産の甕の他多数の陶磁器類が出土した。19世紀の廃棄土坑と思われる。(鈴木正貴)

註 (1) 『清洲城下町遺跡Ⅳ』1994(財)愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第53集

(2) 柴田龍司1992「堀跡や曲輪から出土する石塔」『中世城郭研究6』

(3) 藤沢良祐1985「瀬戸大窯の編年的研究」『研究紀要Ⅴ』瀬戸市歴史民俗資料館

(4) 梅本博志他1990「清洲城下町遺跡」『年報平成元年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター



S K 042出土状況



S K 055出土状況

第三章 遺物



第Ⅲ章 遺物 目次

第1節 古代・中世の遺物	19
A、概要	19
B、遺構出土遺物	19
C、遺構外出土遺物	22
第2節 城下町期（戦国時代）の遺物	25
A、陶磁器・土器類	25
B、木製品	31
C、石製品	36
第3節 近世の遺物	37
A、概要	37
B、遺構出土遺物	37

第1節 古代・中世の遺物

A、概要

清洲城下町遺跡は中・近世城下町の遺構をよく残しているが、一方で五条川左岸に発達した自然堤防上にはかなり長期にわたる古代集落遺構が存在している。今までの数次にわたる調査で100基前後の竪穴住居と掘立柱建物が検出されている。出土している遺物も比較的豊富で、特に竪穴住居や土坑からは一括と思われる土器群がいくつか見つかり、類例の少なかった古代尾張の集落遺跡の土器様相を考える上で良好な資料を提供した。今回の調査でも25棟の竪穴住居とそれにとまなう遺物が出土しているが、調査区が狭長なため、まとまった一括資料はあまりない。

古代の遺物としては須恵器、灰釉陶器・緑釉陶器、土師器、土錘などがある。これらの遺物は今回の調査地点の東側に多く出土しており、遺構の密度と一致する。時期的には7世紀～11世紀代のものがみられる。7世紀代の遺物は90G区・I区など東部の調査区にみられるが、量的には少ないものである。古代の遺物の主体となるのは8世紀後半の遺物で、ほぼ全ての調査区から出土した。また、灰釉陶器についてはこれまでの調査であまり検出されていなかった9世紀中～後葉代のものが、91E区・92B区で見つかり、集落の変遷を考える上で良好な資料を得たといえる。

中世の遺物としては山茶椀、土師器、施釉陶器、焼き締め陶器などが出土したが、遺構にとまなうものではなく、分散的で量的にも多いものではない。

以下、それぞれ遺構出土のものでまとまったものを中心にとりあげて述べることにする。なお、本文中で使用する時期区分については前回の調査報告（『清洲城下町遺跡』1990）⁽¹⁾で設定した清洲城下町遺跡下層土器編年1期～6期に加えて今回検出されたものを7期として7時期を設定した。年代等についてはおおよそ1期（6世紀後半から7世紀前葉：猿投窯編年東山44号窯期およびその直前の型式）、2期（7世紀前～中葉：岩崎50号窯期）、3期（7世紀中～後葉：岩崎17号窯期）、4期（7世紀末～8世紀前葉：岩崎41・高蔵寺2号窯期）、5期（8世紀中～後葉：岩崎25・鳴海32号窯期）、6期（8世紀後葉～9世紀前葉：折戸10・井ヶ谷78号窯期）、7期（9世紀中葉～10世紀前葉：黒笹14・黒笹90号窯期）である。

B、遺構出土遺物

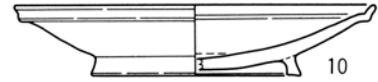
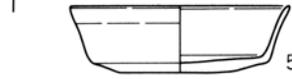
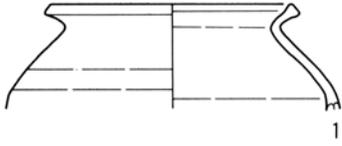
今回の調査では竪穴住居が25棟検出され、それにとまなう出土資料もいくつか得られた。この項では竪穴住居より出土した遺物を中心にしてその様相を述べる。

S B 401（第22図－2～14） この竪穴住居からは須恵器杯A⁽²⁾・B、杯蓋、椀A・D、盤B、高盤、鉢、甕や土師器杯、甕Cなどが出土した。

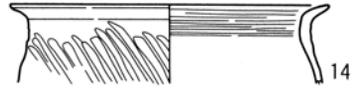
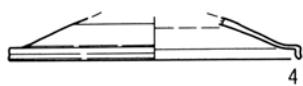
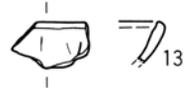
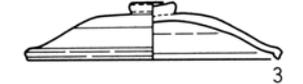
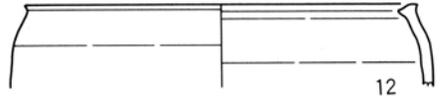
杯A（5・7）は底部外面を稜線を作りながら回転ヘラ削り調整するものである。杯B（8）は高台が外端面接地で高い高台を有するものである。盤Bは口縁端部が屈曲するものとそのまま引き上げるタイプがある。土師器は供膳形態が出土していることに注目したい。13は口縁端部を少しなかへ折り曲げるもので、内面には1段の放射状暗文を持つ。同じような土師器供膳具は包含層中からも数点出土しているが、おそらく畿内よりの搬入品であると思われる⁽³⁾。

時期的には5期に遡るもの（2・10）もあるが、基本的には6期であると思われる。

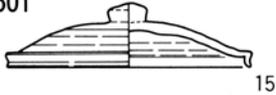
S B 507



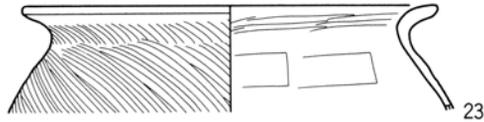
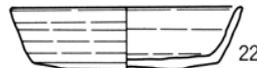
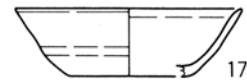
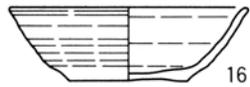
S B 401



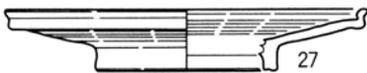
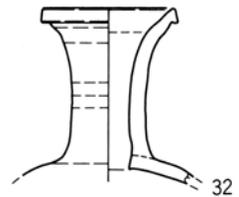
S B 501



S B 502



S B 402



S B 602



S B 404



第22図 遺物実測図(1) 古代：遺構出土遺物

S B 501 (第22図-15~19) S B 501から出土した遺物には須恵器杯A・B、蓋B、椀A、盤B、土師器甕C・Dなどがある。

椀A (16・17) は底部の回転糸切り痕がそのまま残るものである。

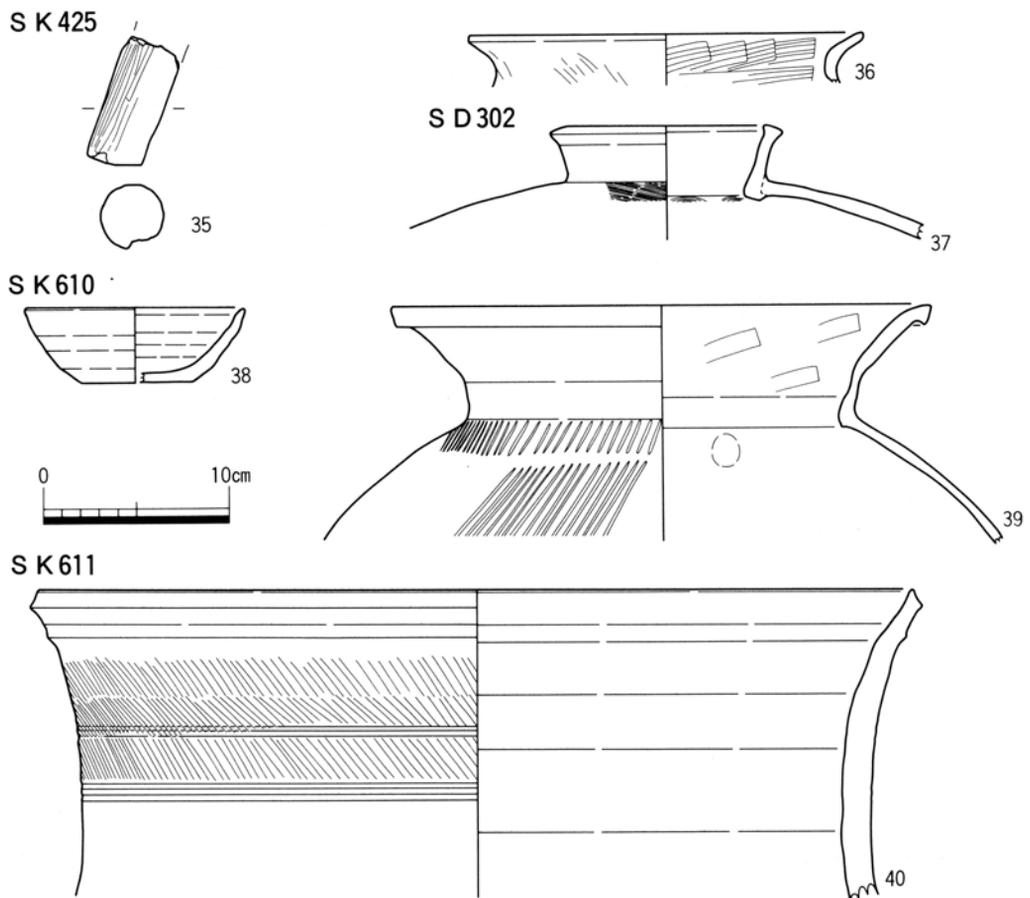
時期は6期であると思われる。

S B 502 (第22図-20~24) S B 502からは土師器甕の細片が多数出土している。須恵器は杯A・B、杯蓋、鉢、土師器甕Cなどが出土している。

杯蓋では20はつまみが剥離しているが、21はつまみのつかないタイプのもので天井部は回転糸切りの後、軽くナデ調整するのみである。21は、22の杯Aとセットになって出土しているが、両者ともほぼ完形である。土師器甕Cは口縁部がやや肥厚し、内面横方向、外面全体は斜め方向の荒いハケメ調整を施す。24は土師器の脚部である。このような形態の脚部は尾張周辺ではあまり類例がなく、釜のような器形が想定されるが全形を復元し得ない。胎土は土師器甕Cと同じ荒い砂粒を含むもので、タテ方向に荒いハケメ調整をする。包含層中からも数点出土しているが、いずれも体部近くにはススが付着している。

時期は6期であると思われる。

S B 402 (第22図-25~32) S B 402は今回の調査で初めて検出された9世紀中~後葉、猿投窯黒笹14号窯期に平行する時期の竪穴住居である。出土遺物は余り多いものではなく須恵器杯A・B、椀A、



第23図 遺物実測図(2) 古代：遺構出土遺物

盤B、甑、灰釉陶器皿、土師器甕などがある。

須恵器杯A(26)は完形で出土したもので、底部は回転ヘラ削り調整をする。椀A(25)もほぼ完形で出土している。底部は静止糸切り不調整である。盤B(27)は高台が高めで口縁部の屈曲が強い。30は甑の把手であると思われる。灰釉陶器皿(29)は灰白色の緻密な胎土に内面全面に灰釉を施す。底部は全面回転ヘラ削り調整をする。土師器甕は口縁部が肥厚するものである。

時期的には25・26と32の須恵器細頸瓶が時期的に遡るが、それ以外のものは7期に属するものと思われる。

S K 425 (第23図-35・36) S K 425から出土した遺物には土師器甕Cなどがある。35はS B 502出土のものと同じ形態である。時期的には6期であると思われる。

S K 610 (第23図-38・39) 38は須恵器椀Aである。底部は回転糸切り痕跡が明瞭である。

S K 611 (第23図-40) 40の須恵器甕は口縁端部に稜線を有する7世紀代のタイプである。

C、遺構外出土遺物(第24・25図-41~108)

包含層等から出土した古代・中世の遺物は7世紀から14世紀までのものが見られる。全体的には8世紀後半代の遺物が多い。特徴的なものについてのみ述べることとする。

須恵器(第24図-41~66) 須恵器のなかで最も古いものは41・42の須恵器杯Hである。これらは天井部のヘラ削り調整や稜などから1期後半、7世紀初頭のものと考えられる。60は高盤である。

61~62は椀Dである。椀Dは8世紀後半に特徴的にみられる器種で、口縁端部はそのまま丸くおさめる。整形・調整は比較的丁寧で、とくに62は胎土が灰色できわめて丁寧な回転ナデ調整を施す。64は大型の平瓶である。体部は肩の稜線が明瞭で体部外面全体に回転ヘラ削り調整をする。

灰釉陶器(第24図67~80) 灰釉陶器は量的にはあまり多いものではないが、調査区中央部を中心にみられる。出土したのはほとんど椀皿のみで、全体的に角高台を有する黒笹14号窯期のものが多い。

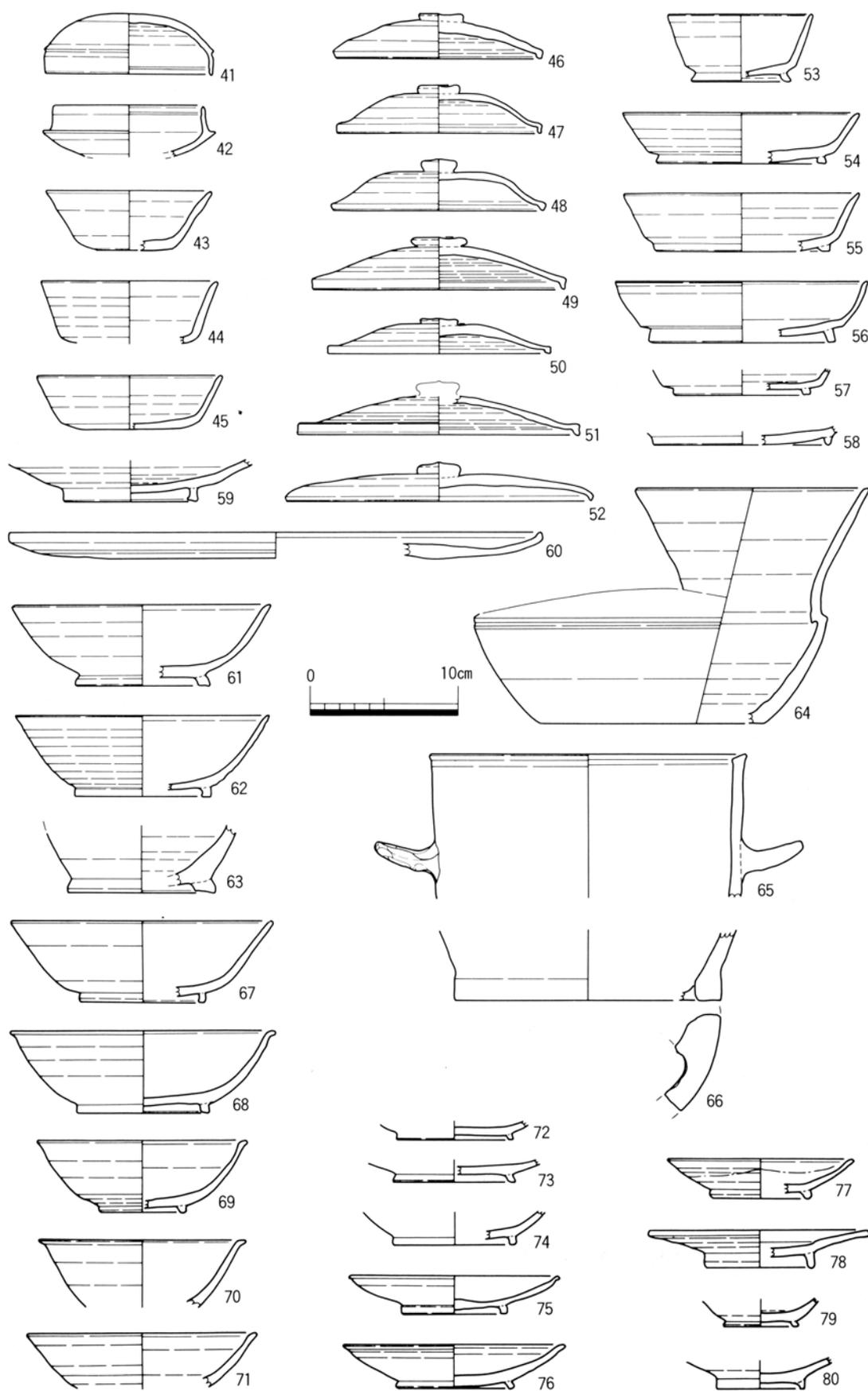
土師器(第25図-93~108) 土師器は93・94が杯である。これらは先にもふれたが搬入品の可能性がある。甕は95のような細かなハケメをもつものは少なく、荒いハケメを持つ平底のものが主体を占める。

中世土器(第25図-81~92) 中世土器は全調査区に散在的に見られる。ほとんどが山茶椀で南部系のB類(82・84・85)と北部系C類(83・86)であるが全体的にみると前者が多い。92は青磁蓮弁文椀である。(城ヶ谷和広)

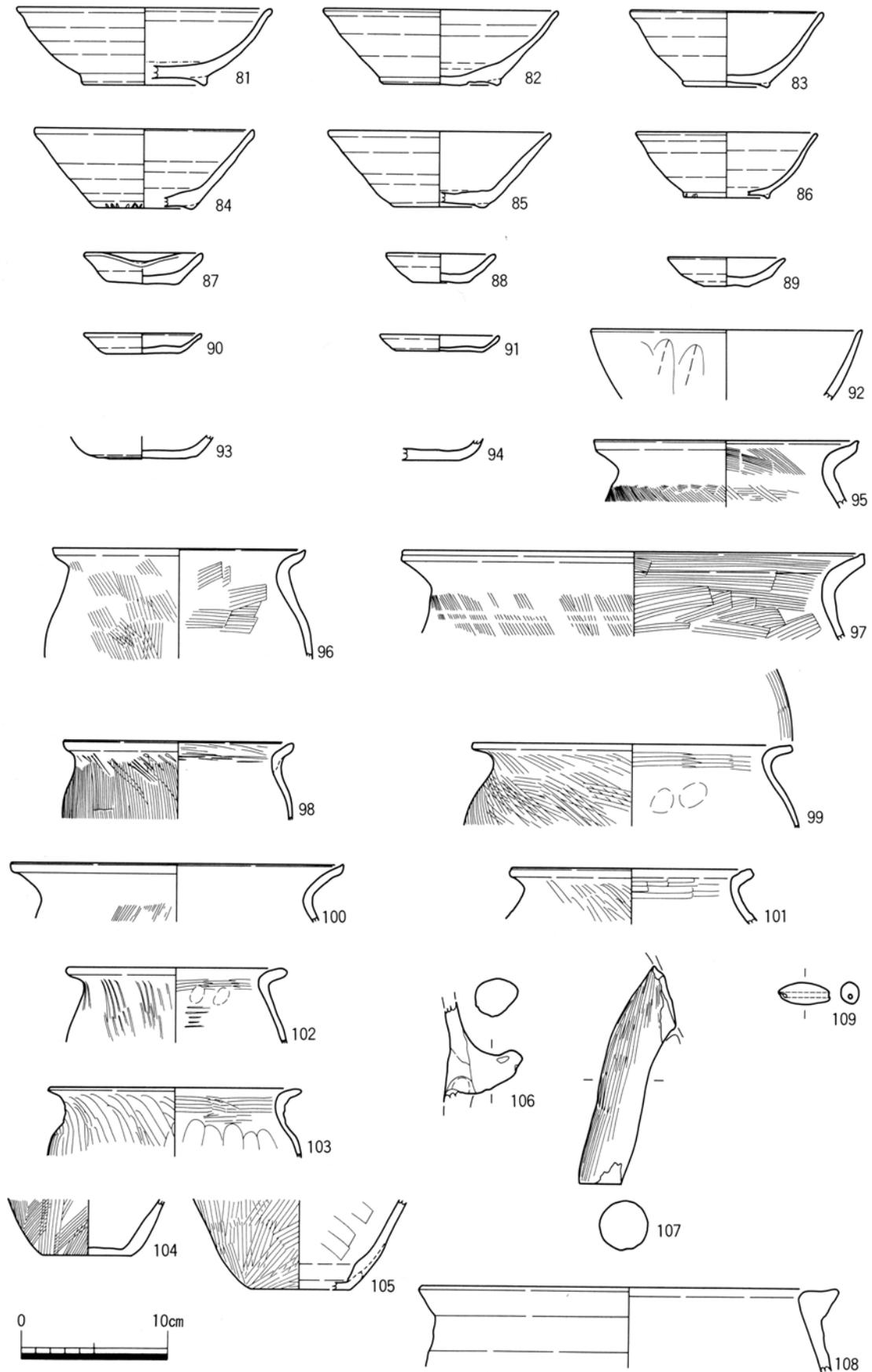
註(1)『清洲城下町遺跡』1990財愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第17集。なお、中世については、城ヶ谷和広1991「土田遺跡に於ける中世土器の様相」『土田遺跡Ⅱ』(財愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第23集によるものとする。

(2) 古代の遺物の器種分類については、清洲城下町遺跡の前の報告書(註(1)文献)で用いた分類によるが、基本的には供膳具では無台形態をA、有台形態をB、脚のついたものをC形態とする。

(3) 尾張における土師器のあり方については供膳具はほとんど出土せず、畿内を中心とした搬入品が8世紀前半を中心として見られる。(城ヶ谷和広1992「古代尾張の土師器-6世紀後半から11世紀の様相-」『年報平成3年度』(財愛知県埋蔵文化財センター)



第24図 遺物実測図(3) 古代：遺構外出土遺物



第25図 遺物実測図(4) 古代・中世：遺構外出土遺物

第2節 城下町期（戦国時代）の遺物

この時期の出土遺物には陶磁器・土器類、瓦類、木製品、石製品、金属製品などがある。本節では、材質別毎に項目を設定し、その中で遺構出土資料を中心に記述したい。

A、陶磁器・土器類

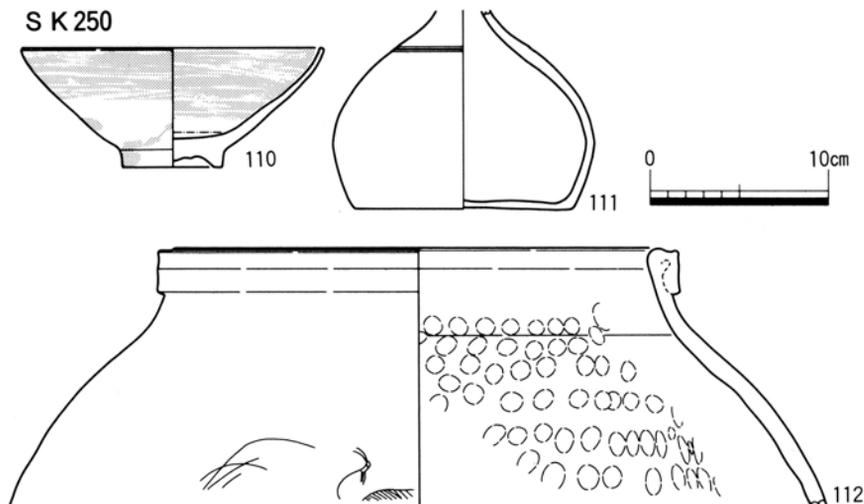
出土遺物の大半は陶磁器・土器類が占めている。この陶磁器・土器類の分類と分析方法は『清洲城下町遺跡Ⅳ』1994¹⁾に依拠したため、詳細は同書を参考されたい。

この調査で出土した陶磁器・土器類は、遺構・包含層などから総破片数14507点、口縁部計測法による個体数換算値で約600点が出土した。陶器類は、産地別にみると瀬戸美濃窯産・常滑窯産・備前窯産の陶器類が出土し、瀬戸美濃窯産の陶器が大多数を占める。器種としては椀・皿・浅鉢・播鉢等がある。土器類は土師器の皿・鍋・釜等があり、産地は特定し得ないが、尾張独特の形態からおそらく在地産のものと思われる。また、磁器類は全て中国窯産の青磁・白磁・青花であるが量的には非常に少ない。なお、各産地別組成・器種別組成については全出土遺物をカウントした第3表を参照されたい。

S K 250（第26～28図－110～139） この土坑からは、瀬戸美濃窯産の天目茶椀・縁釉皿・香炉・鉢・甕・壺や土師器の皿・鍋等の他、特異な遺物として刻絵のある常滑窯産の甕・朝鮮産の椀・瓶も出土している。一般に喫茶具と考えられる器種が比較的多く出土している。

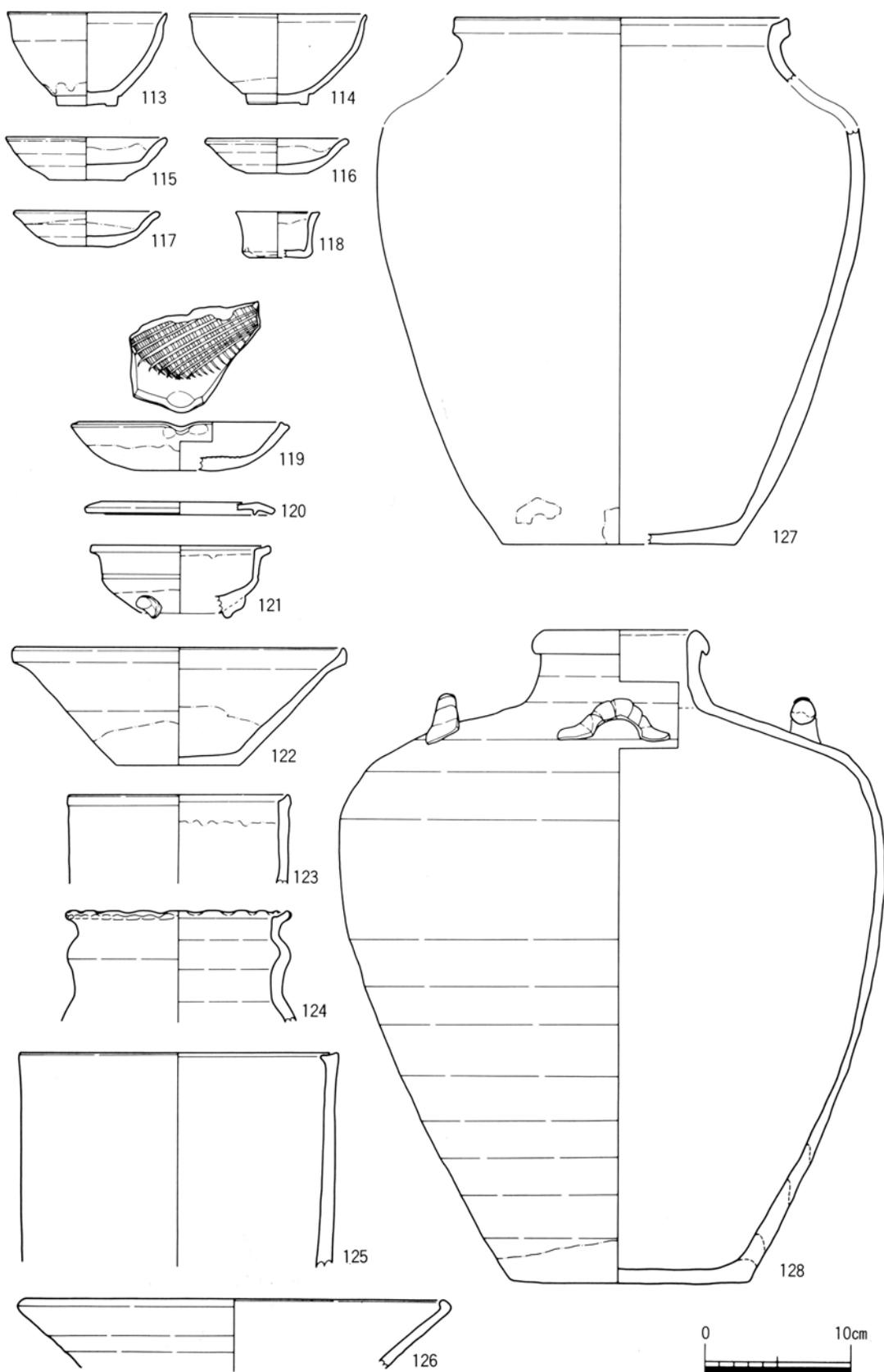
朝鮮産の椀（110）は黒灰色の胎土で、内面と体部外面に白泥をハケ塗りした粉青沙器刷毛目茶椀で、全面に透明な釉薬が施されている。見込み部と高台部に胎土目の痕跡が認められる。朝鮮産の瓶（111）は器壁が薄いどっしりとした船徳利形で、肩部に沈線が巡る。表面に透明な釉薬が施されたいわゆる雑釉徳利である。常滑窯産の甕（112）は、N字状折り返し口縁が頸部に張り付いた形態で、体部に鳥と草の紋様が線刻されている。

瀬戸美濃窯産の陶器は、化粧掛のある輪高台の天目茶椀（113・114）、縁釉皿（115～117・119）、断面が三角形の縁釉浅鉢（122）、口縁端部を上方につまみ上げる播鉢（126）などがあり、これらは窖窯後期末から大窯第1段階に位置づけられる²⁾遺物である。115・116は内面に赤色の付着物が認

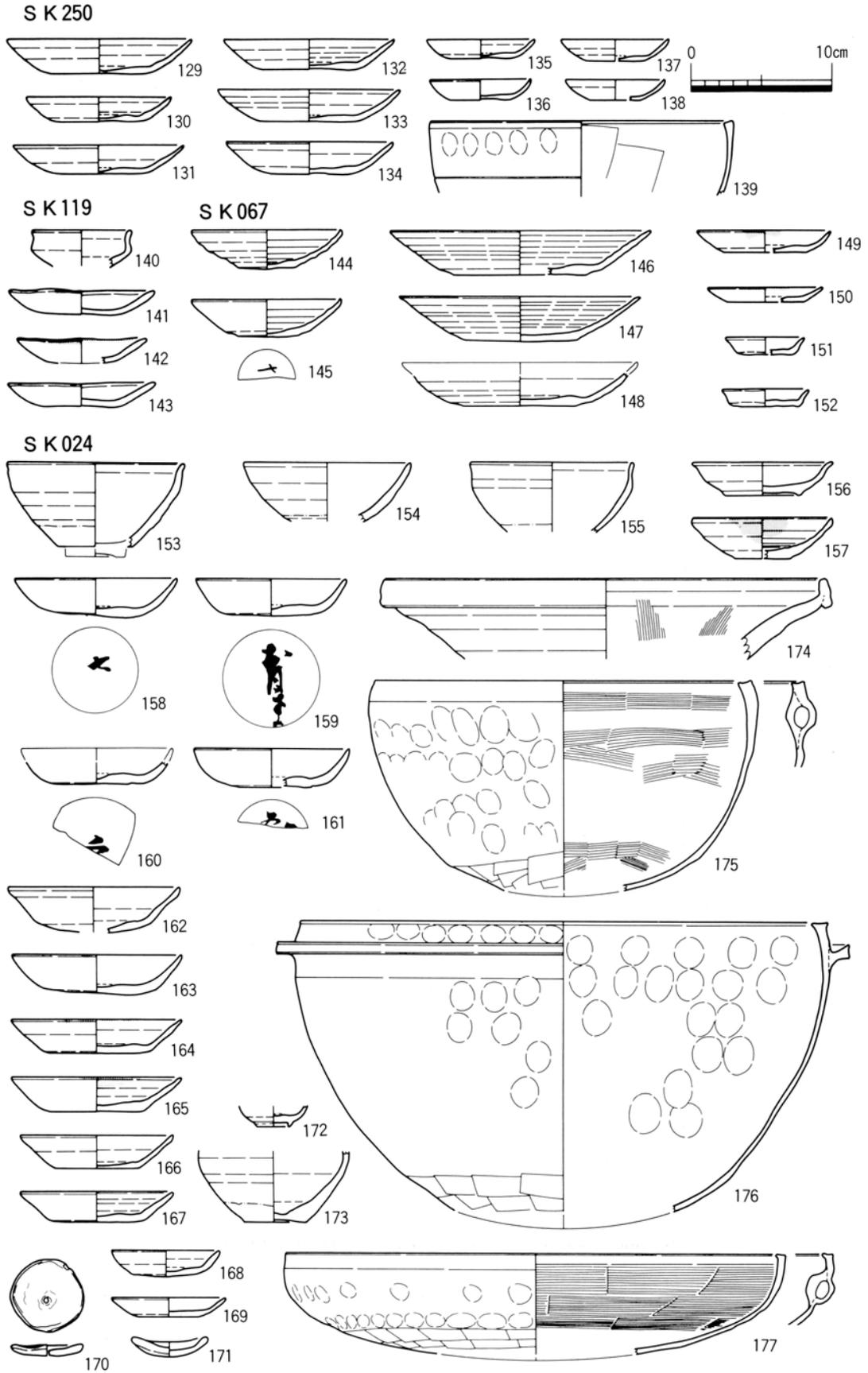


第26図 遺物実測図(5) 城下町期：陶磁器・土器(1)

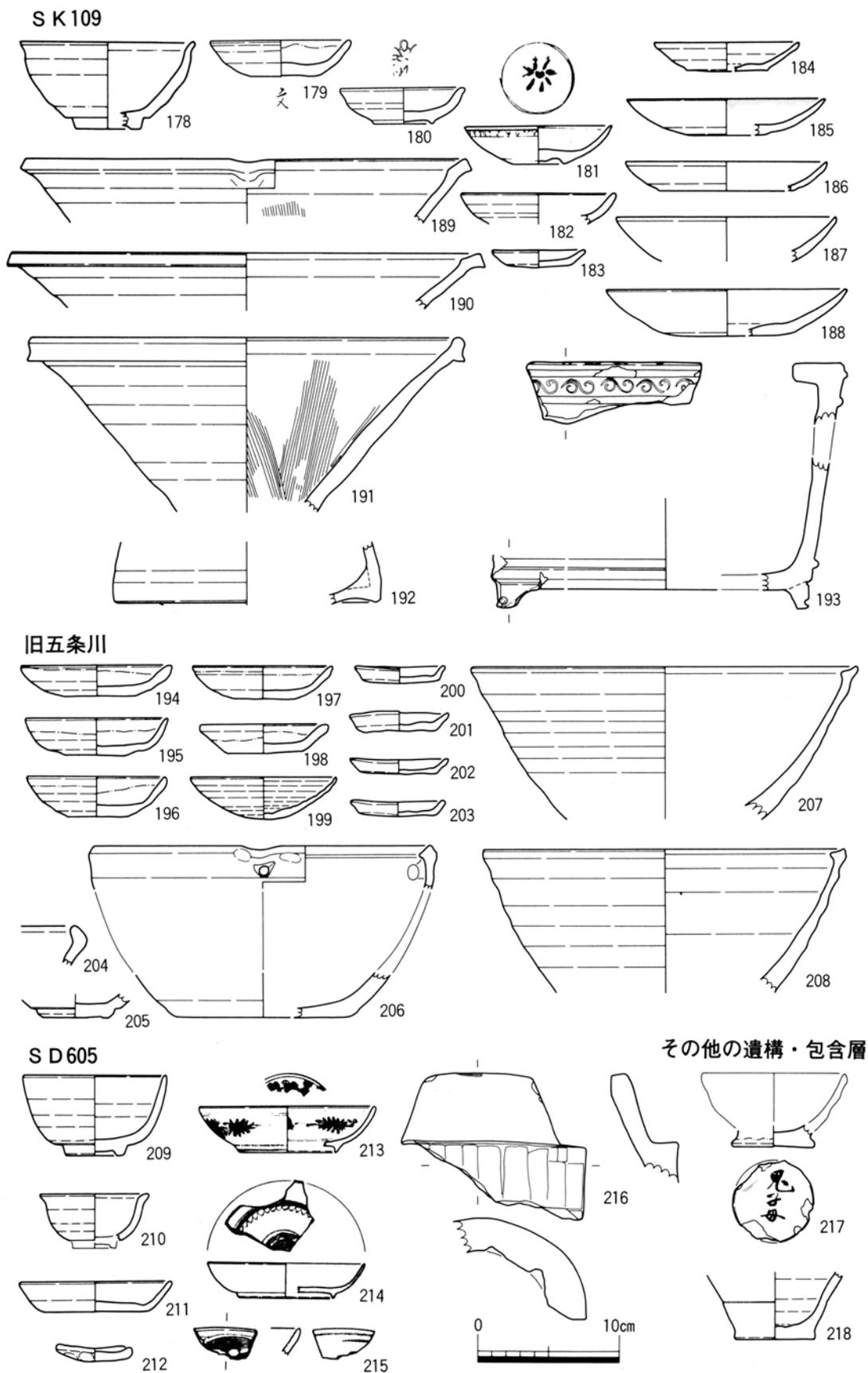
S K 250



第27図 遺物実測図(6) 城下町期：陶磁器・土器(2)



第28図 遺物実測図(7) 城下町期：陶磁器・土器(3)



第29図 遺物実測図(8) 城下町期：陶磁器・土器(4)

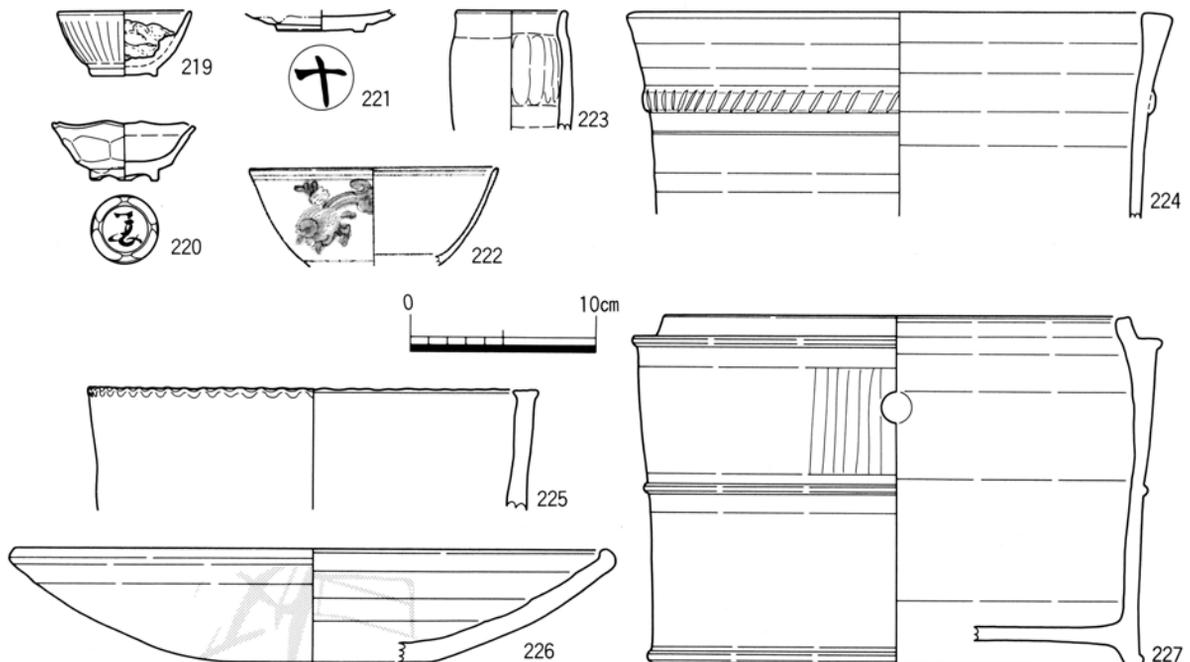
められる。土師器皿は口径が約12cmで体部が直線的に伸びるロクロ成形のものと、口径が約8cmで口縁端部がやや内彎するロクロ成形のもの2者がある。土師器鍋は体部が直立し、沈線が1条巡る半球型の内耳鍋である。時期的には15世紀末から16世紀初頭の良好な一括資料である。

S K 119 (第28図-140~143) 瀬戸美濃窯産の小椀(140)と手づくね成形の土師器皿(141~143)がある。後者は比較的精良な胎土を持ち、口縁端部を厚く作るもので、通常城下町期に認められる土師器皿とは形態が異なっている。口縁部にタールが付着している。

S K 024 (第28図-153~177) 瀬戸美濃窯産の天目茶椀(153~155)・灰釉端反皿(156)・同心円の圈線が内面に巡る重圈皿(157)・縁帯を持つ挿鉢(174)等の他は、大半が土師器の製品である。特に、土師器皿は墨書が存在するもの・穿孔されたものなど特殊な形態のものが認められ、土師器鍋の出土と考え合わせると地鎮めの祭具の可能性も指摘できる。

土師器皿はロクロ成形のものと非ロクロ成形のものがある。前者は体部が直線的に開くもの(Ⅰ類164~167)、体部が内彎するもの(Ⅱ類158~163)、口径が約8cmを測る小形のもの(Ⅲ類168・169)がある。後者は体部にヨコナデを施さない小形のもの(Ⅳ類170・171)である。墨書はⅡ類のみに認められ、数を表現したものが多い。また、穿孔はⅣ類に見られる。土師器鍋はほぼ完形の状態で3点出土した。半球型の内耳鍋(175)はやや厚手の口縁部が内彎するタイプで、内面にヨコハケを施す。羽付鍋(いわゆる羽釜176)は底部外面がヘラケズリされる。炮烙鍋は体部が丸みを持って立ち上がり、内面にヨコハケが残存している。また、173は土師器の小形壺の下半部で、底部外面に回転糸切り痕が認められる。時期は16世紀中葉~後葉に比定できる。

その他の遺構・包含層



第30図 遺物実測図(9) 城下町期：陶磁器・土器(5)

旧五条川（第29図-194~208） 瀬戸美濃窯産の緑釉皿（194~198）・螺旋状の圈線がある重圈皿（199）・口縁部をつまみだした播鉢（204）・内耳鍋（206~208）、ヨコナデを施した非ロクロ成形の土師器皿（200~203）等が出土した。陶器の内耳鍋（206~208）は、表面に薄い茶色の錆釉を塗布し、口縁端部を強くナデて内彎させている。外面には煤が付着している。206は内耳が剥離した後、穿孔して耳を作っている。15世紀後葉に位置づけられる。

S D 605（第29図-209~216） 柿経埋納遺構 S K 626を切る遺構で、長石釉を施した瀬戸美濃窯産の丸椀（209）や瓦（216）などが出土した。ヨコナデのない非ロクロ成形の土師器皿（212）等から16世紀末から17世紀初頭に所属するであろう。

その他の遺構・包含層（第29・30図-217~227） ここでは特徴のある遺物を個別に取り上げる。

217は瀬戸美濃窯産の台付椀（仏供）で底部の露胎部に「鬼子母」と墨書される。218は土師器の小形壺の下半部で、底部外面に回転糸切り痕が認められる。219は瀬戸美濃窯産の小椀で、全体に強く火を受けており、表面がただれている。外面に蓮弁を模倣した線刻があり、灰釉を掛けたものか。内面に緑色の溶解物が付着している。220は割高台の白磁の皿で底部に墨書がある。221は灰釉腰折皿で底部に「十」が墨書される。225は常滑窯産の筒形鉢で口縁部にひだが存在する。226は備前窯産の大皿で、内外面に火櫨の文様が存在する。227は筒形の瓦器で、体部に円形の孔があり、外面は丁寧に縦方向に磨かれている。時期は不明。

註（1）『清洲城下町遺跡Ⅳ』1994（財）愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第53集

（2）藤澤良祐1985「瀬戸大窯の編年的研究」『研究紀要Ⅴ』瀬戸市歴史民俗資料館

第3表 遺物集計表（破片数）

	89G区	90G区	90H区	90I区	91D区	91E区	92A区	92B区	総合計
瀬戸美濃窯産陶器	11	45	30	14	1176	911	1177	1104	4468
土師器	53	74	5	32	2207	2033	2380	1862	8646
瓦器	0	2	2	0	23	10	17	14	68
常滑窯産陶器	0	4	3	2	126	174	140	221	670
楽窯産陶器	0	0	0	0	1	1	1	1	4
信楽窯産陶器	0	0	0	0	0	2	0	0	2
備前窯産陶器	0	0	0	4	0	1	0	0	5
唐津窯産陶器	0	0	0	0	0	0	0	0	0
朝鮮窯産陶器	0	0	0	0	0	0	0	13	13
中国窯産陶磁器	0	2	1	7	27	29	34	20	120
瓦	1	3	3	0	75	26	22	22	152
その他	0	0	0	1	132	23	43	160	359
総合計	65	130	44	60	3767	3210	3814	3417	14507
瀬戸美濃									
椀	0	9	9	0	169	161	178	169	695
皿	2	17	3	6	462	242	406	259	1397
浅鉢	0	1	3	2	53	49	46	47	201
播鉢	6	8	8	4	282	218	293	323	1142
大形製品	3	9	3	1	185	191	199	264	855
小形製品	0	1	1	0	7	13	11	11	44
香炉	0	0	1	0	5	2	8	2	18
鍋・釜	0	0	0	0	3	19	9	6	37
その他	0	0	0	0	2	2	6	2	12
不明	0	0	2	1	8	14	21	21	67
土師器									
椀	0	0	0	0	0	0	0	3	3
皿	52	35	5	31	1910	1564	1714	1281	6592
（ロクロ成形）	52	26	5	25	1753	1457	1545	1141	6004
（非ロクロ成形）	0	9	0	6	145	107	157	127	551
大形製品	0	0	0	0	0	4	1	1	6
小形製品	0	0	0	0	0	3	0	0	3
鍋・釜	1	39	0	1	296	462	664	571	2034
（羽付鍋）	0	1	0	0	3	11	35	18	68
（内耳鍋）	0	18	0	0	78	87	138	154	475
（炮烙鍋）	0	0	0	0	0	2	48	0	50
（釜）	0	2	0	0	7	23	12	22	66
その他	0	0	0	0	0	0	1	3	4
不明	0	0	0	0	1	0	0	3	4
常滑									
真焼	0	4	0	2	88	63	88	133	378
赤物	0	0	3	0	38	111	52	88	292
中国									
青磁	0	2	0	2	8	13	11	9	45
白磁	0	0	0	0	11	5	12	3	31
青花	0	0	1	5	8	11	11	8	44

B、木製品

木製品は堆積状況により遺存率が異なるため、今回の調査では滞水状況を呈していたS K 626のみで確認され、その他の遺構からは全く出土しなかった。

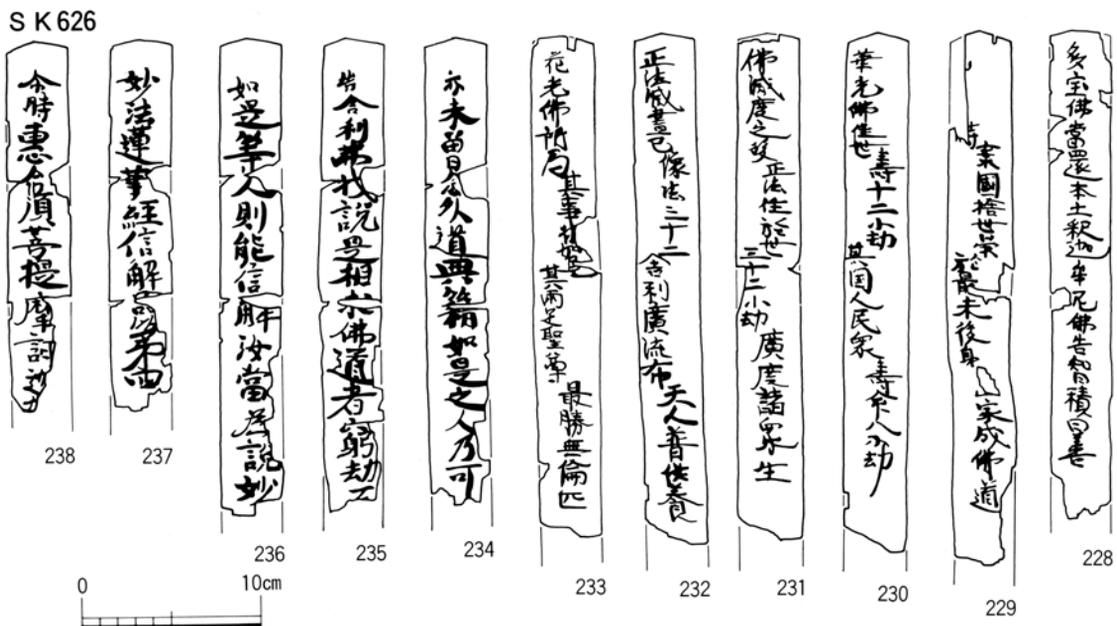
S K 626 (第31・32図-228~267) S K 626からは柿経が多数出土し、その他の遺物は全く出土しなかった。柿経は極めて薄い板を用いており、従って破損して全形をとどめないものが多かった。また、柿経は概ね20枚を一束として、重なった状態で出土しており、これらは経文の順に重ねられている。

柿経は幅約3.5cm、長さ約33.0cm、厚さ0.1cm以下を測る薄い柾目板を用い、片面だけに墨書で経文を記している。頭部の形態はややばらつきが見られるものの、基本的には圭頭状に加工している。最下部は特別な加工を施さず、短冊形となっている。経文の原典は、同定の結果、妙法蓮華経(法華経)八卷一部を書写したもので、出土したものはこの内のほんの一部分に過ぎない。書体は複数のものが認められ、書写は多人数で行われたと推定されるが、一束の中では同一の書体で統一されている。誤字・脱字等の誤謬や訂正が行われたものも見られる。

本柿経は小破片まで含めると千点に近い量が出土しているが、実際には取り上げ時に破損して復元できなくなったものが多い。従って、正確な出土点数は不明である。これまでに経文の同定が完了したものは186点を数え、第4表にその積文と経文の位置を表示した。この記載方法は『清洲城下町遺跡Ⅱ』(1992)の報告と同一である。以下にその概要を示す。

妙法蓮華経(法華経)は八巻で構成され、更に28の品に分かれている。また実際の内容は、本文に相当する「経文」と詩に相当する「偈頌」に区分される。通常、妙法蓮華経(法華経)を書写する場合、品毎に表題を付けて、経文の部分は1行17字・偈頌の部分は1行に16字もしくは20字で区切って、記載するのが一般的であり、本柿経もこの書式で記載されている。従って、各行に書かれる経文は固定されていることになり、行の位置を特定することで、経文のどの位置に相当するかが判別できる。表示の方法は、巻番号・品番号・行番号(各品に行番号を新たに付ける)¹⁾の順に示した。

註(1) 経文同定にあたっては次の文献を参考にした。『井相田C遺跡Ⅱ』1988福岡県教育委員会



第31図 遺物実測図(10) 城下町期：木製品(1)

S K 626



第32圖 遺物実測図(1) 城下町期：木製品(2)

第4表 S K 626 柿經積文一覽表

凡例

文頭のアルフアベットは出土した束を基準にした記号である。

(大文字は東記号・小文字は各々の束における記号である。)

積文は原則として復元したものを呈示した。

(積文中の()は欠損している部分である。)

(旧字体・異体字は通常文字に変換している。)

(誤字・脱字は積文中では本来の形で訂正している。ただし、余字は積文中に挿入した。)

文末の「」は経文の所在地を番号で表示したものであり、表示方法は本文に記載している。

Aa (羅) 三藐三(菩提者必以大乘而得度脫然我)	[2 . 3 . 10]	Cd (及見) 仏功德盡遍向仏道	[2 . 3 . 104]
Ab (等) 不解方便(隨宣所說初聞仏法遇便信受)	[2 . 3 . 11]	Ce 爾時舍利弗白言(世尊) 我今無復疑悔親	[2 . 3 . 105]
Ba (仏為王子) 時棄國捨世榮於最末後身出家成仏道	[2 . 3 . 81]	Cf 於仏前得受阿耨多羅三藐三菩提記是諸	[2 . 3 . 106]
Bb 華光仏住世壽十二小劫其國人民衆壽命八小劫	[2 . 3 . 82]	Da 聞不能(解亦勿為) 說若人不信(毀謗此經)	[2 . 3 . 341]
Bc 仏滅度之後正法住於世三十二小劫度諸衆生	[2 . 3 . 83]	Db 則斷一切世間(仏) 種或復瞶瞶而懷(疑惑)	[2 . 3 . 342]
Bd 正法滅盡已像法三十二舍利広流布天人普供養	[2 . 3 . 84]	Dc 汝當聽說此人罪報若仏在世若滅(度後)	[2 . 3 . 343]
Be 華光仏所為其事皆如其兩足聖尊最勝無倫匹	[2 . 3 . 85]	Dd 其有誹謗如斯經典見有讀誦書(持經者)	[2 . 3 . 344]
Bf (彼) 即是汝身宣(応自欣慶)	[2 . 3 . 86]	De 輕賤憎嫉而(懷結) 恨此人罪報汝今(復聽)	[2 . 3 . 345]
Bg (爾時) 四部衆比(丘比丘尼優婆塞優婆夷天)	[2 . 3 . 87]	Df 其人命終(入阿鼻獄具足) 一劫劫尽更(生)	[2 . 3 . 346]
Bh 龍夜叉乾闥(婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺)	[2 . 3 . 88]	Ea (捨惡知識親近善友如) 是之人乃可(為說)	[2 . 3 . 382]
Bi 羅伽等大衆見(舍利弗於仏前受阿耨多羅)	[2 . 3 . 89]	Eb 若見仏子(持戒) 清潔(如) 淨明珠求(大乘經)	[2 . 3 . 383]
Bj 三藐三菩提記心(大歡喜踊躍無量各各脫)	[2 . 3 . 90]	Ec 如是之人乃(可) 為說(若) 人無瞋質質(直柔軟)	[2 . 3 . 384]
Bk 身所著上衣以供(養仏積提桓因梵天王等)	[2 . 3 . 91]	Ed 常愍一切恭(敬) 諸仏如是之人乃可為說	[2 . 3 . 385]
Bl 与無數天子亦以(天妙衣天曼) 陀羅華摩訶	[2 . 3 . 92]	Ee 復有仏子於(大) 衆中以清淨心種種因縁	[2 . 3 . 386]
Bm 曼陀羅華等(供養於仏) 所散天衣住虛空(中)	[2 . 3 . 93]	Ef 譬喻言(辭) 說法無礙如是之人乃可為(說)	[2 . 3 . 387]
Bn 而自廻転諸天(伎樂百千万) 種於虛空中一	[2 . 3 . 94]	Eg 若(有) 比丘為一切知四方求法合掌頂(受)	[2 . 3 . 388]
Bo 時俱作雨衆天(華而作是言) 仏昔於波羅奈	[2 . 3 . 95]	Eh 但樂受持(大) 乘經典乃至不受余(經一偈)	[2 . 3 . 389]
Bp 初転法輪今乃復転(無上最大) 法輪爾時諸	[2 . 3 . 96]	Ei (如) 是之人乃可為說如人至心求仏(舍利)	[2 . 3 . 340]
Bq 天子欲重宣此義而(說偈言)	[2 . 3 . 97]	Ej 如是求経得已頂受其人不復志(求余経)	[2 . 3 . 341]
Br 昔於波羅(奈転四諦法輪分別說諸) 法五衆之生滅	[2 . 3 . 98]	Ek 亦未曾念外道典籍如是之人乃可(為說)	[2 . 3 . 342]
Ca (世尊說是) 法我等皆隨喜大智(舍利弗今得受尊記)	[2 . 3 . 101]	El 告舍利弗我說是相求仏道者窮劫不(盡)	[2 . 3 . 343]
Cb (我等亦如) 是必當得作仏於一切(世間最尊無有上)	[2 . 3 . 102]	Em 如是等人則能信解汝當為說妙(法華経)	[2 . 3 . 344]
Cc (仏道) 思議方便隨宣說我所(有福業今世若過世)	[2 . 3 . 103]	En 妙法蓮華経信解品第四	[2 . 4 . 1]
		Eo 爾時慧命須菩提摩訶迦旃延摩(詞迦葉摩)	[2 . 4 . 2]
		Ep 訶目捷連從仏所聞未曾(有法世尊授舍利)	[2 . 4 . 3]
		Eq 弗阿耨多羅三藐三(菩提記発希有心歡喜)	[2 . 4 . 4]
		Er (踊躍即從座起整衣服偏袒右肩右膝著地)	[2 . 4 . 5]
		Fa (某甲昔在) 本城懷憂推覓忽(於此間遇会得)	[2 . 4 . 87]
		Fb (之此実我子) 我実其父今吾所有(一切財物)	[2 . 4 . 88]
		Fc (皆是子有) 先所出内是子所知世(尊是時窮)	[2 . 4 . 89]
		Ga 勤加精進得(至涅槃一日之價既得此已心)	[2 . 4 . 96]
		Gb 大歡喜自以為足(便自謂言於仏法中勤精)	[2 . 4 . 97]
		Gc 進故所得弘多然世尊(先知我等心著幣欲)	[2 . 4 . 98]

「然」は誤字

Gd	樂於小法便見縱捨（不為分別汝等當有如）	〔 2・4・99 〕
Ge	來知見寶藏之分（世尊以方便力說如來智）	〔 2・4・100 〕
Gf	慧我等從得涅槃（一日之價以為大得於）	〔 2・4・101 〕
Gg	此大乘無有志求我（等又因如來智慧為語）	〔 2・4・102 〕
Gh	菩薩開示演說而（自於此無有志願所以者）	〔 2・4・103 〕
Gi	何何知我等心樂小法（以方便力隨我等說）	〔 2・4・104 〕
Gj	而我等不知真是（仏子今我等方知世尊於）	〔 2・4・105 〕
Ha	智勝（如來處于道場菩薩樹下坐師子座諸）	〔 3・7・103 〕
Hb	天竜王（乾闥）婆緊（那羅摩睺羅伽人非人等）	〔 3・7・104 〕
Hc	恭敬圍（邊及見一六王子請仏轉法輪時諸）	〔 3・7・105 〕
Hd	梵天王頭面礼仏遶百千即以天華（而散）	〔 3・7・106 〕
He	仏上所散之華如須弥山并以供養仏（菩提）	〔 3・7・107 〕
Hf	樹華供養已各以宮殿奉上彼仏而作是（言）	〔 3・7・108 〕
Hg	唯見哀愍饒益我等所獻宮殿願（垂納処爾）	〔 3・7・109 〕
Hh	時諸梵天王即於仏前一心同声以偈（頌曰）	〔 3・7・110 〕
Hi	聖主天中天迦陵頻伽声哀愍衆（生者我等今敬礼）	〔 3・7・111 〕
Hj	世尊甚希有久遠乃一現一百八十劫空（過無有仏）	〔 3・7・112 〕
Hk	三惡道充滿諸天衆減少今仏出於世（為衆生作眼）	〔 3・7・113 〕
Hi	世間所歸趣救護於一切為衆生之父（哀愍饒益者）	〔 3・7・114 〕
Hn	我等宿福慶今得值世尊	〔 3・7・115 〕
Hn	爾時諸梵天王偈讚仏已各作是言唯願（世）	〔 3・7・116 〕
Ho	尊哀愍一切転於法輪度脫衆生時諸（梵天）	〔 3・7・117 〕
Hp	王一心同声而說偈言	〔 3・7・118 〕
Hq	大聖転法輪顯示諸法相度苦惱衆（生令得大歡喜）	〔 3・7・119 〕
Hr	衆生聞此法得道若生天諸惡（道減少忍善者增益）	〔 3・7・120 〕
Hs	爾時大通智勝如來默然許之又諸比丘（南）	〔 3・7・121 〕
Ia	長子猶如今也是踏七宝華（仏国土莊嚴壽）	〔 4・9・48 〕
Ib	命劫數所化弟子正法像法亦如（山海慧自）	〔 4・9・49 〕
Ic	在通王如來無異亦為此仏而（作長子過）是	〔 4・9・50 〕
Id	已後當得阿耨多羅三藐三菩提爾時世（尊）	〔 4・9・51 〕
Ie	欲重宣此義而說偈言	〔 4・9・52 〕
If	我為太子時羅睺為長子我今成仏道受（法為法子）	〔 4・9・53 〕
Ig	於未來世中見無量億仏皆為其長子一心（求仏道）	〔 4・9・54 〕

260 259 258 257
 〔 260 259 258 257 〕
 「輪」は誤字

Ih	羅睺密行唯我能知之現為我長子以示諸（衆生）	〔 4・9・55 〕
Ii	無量億千万功德不可數安住於仏法以求（無上道）	〔 4・9・56 〕
Ij	爾時世尊見學無學二千人其意柔軟寂（然）	〔 4・9・57 〕
Ik	清淨一心觀仏告阿難汝見是學無學（二）	〔 4・9・58 〕
Il	千人不唯然已見阿難是諸人等當供養（五）	〔 4・9・59 〕
Im	十世界微塵數諸仏如來恭敬尊重護（持法）	〔 4・9・60 〕
In	藏末後同時於十方国各得成仏皆同一号	〔 4・9・61 〕
Io	名曰実相如來應供正遍（知明）行足善（逝世）	〔 4・9・62 〕
Ip	問解無上士調御丈夫天人師仏世尊（寿命）	〔 4・9・63 〕
Iq	一劫国土莊嚴声聞菩薩（正法像法皆悉同）	〔 4・9・64 〕
Ir	等爾時世尊欲重宣此義而（說偈言）	〔 4・9・65 〕
Is	是二千声聞今於我前住悉皆（与授記未來当成仏）	〔 4・9・66 〕
Ia	（有如來）全身乃往過去東方無量千万億（阿）	〔 4・11・22 〕
Ib	（僧祇世）界国名宝淨彼中有仏号曰多宝（其）	〔 4・11・23 〕
Ic	（仏）本行菩薩道時作大誓願若我成仏滅度	〔 4・11・24 〕
Id	之後於十方国土有說法華經処我之塔廟	〔 4・11・25 〕
Ie	為聽是經故涌現其前為作証明讚言善哉	〔 4・11・26 〕
If	彼仏成道已臨滅度時於天人大衆中告諸	〔 4・11・27 〕
Ig	比丘我滅度後欲供養我全身者起一大	〔 4・11・28 〕
Ih	塔其仏以神通願力十方世界在在処処若	〔 4・11・29 〕
Ii	有說法華經者彼之宝塔皆涌出其前全身	〔 4・11・30 〕
Ij	在於塔中讚言善哉善哉大衆說今多宝如	〔 4・11・31 〕
Ik	來塔聞說法華經故從地涌出讚言善哉善	〔 4・11・32 〕
Il	哉是時大衆說菩薩以如來神力故白仏言	〔 4・11・33 〕
Im	世尊我等願欲見此仏身仏告大衆說菩薩	〔 4・11・34 〕
Ka	大海江河及目真鄰陀山摩訶目（真鄰陀山）	〔 4・11・68 〕
Kb	鉄閉山大鉄閉山須弥山等諸山王（通為一）	〔 4・11・69 〕
Kc	仏国土宝地平正宝交露幔遍覆其（上懸諸）	〔 4・11・70 〕
La	議衆（生發）善（提心至不退転仏告諸比丘未）	〔 5・12・41 〕
Lb	來世（中若有善男子善女人聞妙法華）經提	〔 5・12・42 〕
Lc	婆達（多品淨）心信敬（不生）疑惑者不墮地獄	〔 5・12・43 〕
Ld	餓鬼畜（生）生十方仏前所生之処常聞此經	〔 5・12・44 〕
Le	若生人天中（受）勝妙（樂）若在仏前蓮華化生	〔 5・12・45 〕

〔 4・9・55 〕「能」は脱字
 〔 4・9・56 〕 262
 〔 4・9・58 〕「仏」は脱字
 〔 4・9・65 〕「義」善と併記

- Lf 於時下方多宝世尊所從菩薩名曰智積啓 [5・12・46]
- Lg 多宝仏当還本土釈迦牟尼仏告智積曰善 [5・12・47]
- Lh 男子且待須臾此有菩薩名文殊師利可與 [5・12・48]
- Li 相見論說妙法可還本土爾時文殊師利坐 [5・12・49]
- Lj 千葉蓮華大如車輪俱來菩薩亦坐蓮華 [5・12・50]
- Lk 從於大海婆竭羅電宮自然涌出住虛空中 [5・12・51]
- Ll 諸靈鷲山從蓮華下(至)於仏前頭面敬禮二 [5・12・52]
- Ln 世尊足修敬已畢往智積所共相慰問却坐 [5・12・53]
- Lo (衆) 生其數幾何文殊師利言其數無量不(可) [5・12・55]
- Lp (稱) 計非口所宣非心所測且待須臾自有 [5・12・56]
- Lq (証所言) 未竟無數菩薩坐蓮華從海(涌出) [5・12・57]
- Lr 諸靈(鷲)山(住在虛空)此諸菩薩皆(是文殊師) [5・12・58]
- Ma (諸比丘尼說是偈已白言世) 尊我等亦能 [5・13・37]
- Mb (於他方国土廣宣此經) [5・13・38]
- Mc (爾時世尊視八十萬億那由他) 諸菩薩摩訶 [5・13・39]
- Md (薩是諸菩薩皆是阿惟越致轉不) 退法輪得 [5・13・40]
- Me (諸陀羅尼即從座起至於仏前) 一心合掌而 [5・13・41]
- Mf (作是念若世尊告勸我等持說) 此經者當如 [5・13・42]
- Mg (仏教廣宣斯法復作是念仏今) 默然不見告 [5・13・43]
- Mh (勸我當云何時諸菩薩敬順仏意) 并欲自滿 [5・13・44]
- Mi (本願便於仏前作師子吼而發) 誓言世尊我 [5・13・45]
- Mj (等於如來滅後周旋往返十方世界) 能令衆 [5・13・46]
- Mk (生書寫此經受持誦誦解說其) 義如法修行 [5・13・47]
- Ml (正憶念皆是仏之威力唯願世尊) 在於他方 [5・13・48]
- Mn (遙見守護即時諸菩薩俱同發) 声而說偈言 [5・13・49]
- Mo (唯願不為慮於仏滅度後恐怖惡世中) 我等當廣說 [5・13・50]
- Mp (有諸無智人惡口罵詈等及加刀杖者) 我等皆當忍 [5・13・51]
- Mq (惡世中比丘邪智心詭曲未得謂為得) 我慢心充滿 [5・13・52]
- Mr (或有阿練若納衣在空閑自謂行真道) 輕賤人間者 [5・13・53]
- Ms (貪著利養故与白衣說法為世所恭敬如六通) 羅漢 [5・13・54]
- Mt (是人懷惡心常念世俗事假名阿練若好出我) 等過過 [5・13・55]
- Mu (而作如是言此諸比丘等為貪利養故分別) 說是經 [5・13・56]
- Mu (常在大衆中欲毀我等故向国王大臣) 婆羅門居士 [5・13・57]
- Na 菩薩常乘(安穩說法於) 清淨地而起施(牀座) [5・14・74]
- Nb 以油漆身深(浴) 塵穢著新淨衣内外俱淨 [5・14・75]
- Nc 安妙法座隨(問) 為說若有比丘及比丘尼 [5・14・76]
- Nd 諸優婆塞(及) 優婆夷国王王子群臣士民 [5・14・77]
- Ne 以微妙義(和顔) 為說若有難(問) 隨義而答 [5・14・78]
- Nf 因緣譬(喻) 敷演分別以是方便皆使發心 [5・14・79]
- Ng 漸漸增益入於仏道除憍憍意及懈怠想 [5・14・80]
- Nh 離諸憂惱慈心說法昼夜常說無上道教 [5・14・81]
- Ni 以諸因緣無量華鬘喻開示衆生咸令歡喜 [5・14・82]
- Nj 衣服臥具飲食醫藥而於其中無所怖望 [5・14・83]
- Nk 但一心念說法因緣願(成仏道) 令衆亦爾 [5・14・84]
- Nl 是則大利安樂供養我滅(度後) 若有比丘 [5・14・85]
- Nm 能演說斯妙法華經心(無嫉恚) 諸惱障礙 [5・14・86]
- Nn 亦無憂愁及罵詈者(又) 無怖畏加刀杖等 [5・14・87]
- No 亦無擯出安住忍故智者如(是善) 修其心 [5・14・88]
- Np 能住安樂如我上說其人功(德千) 万億劫 [5・14・89]
- Nq 算數譬喻說(不能) 盡 [5・14・90]
- Nr 又文殊(師利善) 薩摩訶薩於後(末世) 法欲滅 [5・14・91]
- Oa (何此經是一切過) 去未(來現在) 諸仏神力(所) [5・14・129]
- Ob 護故文殊師利是法(華經) 於無量国(中) 乃(至) [5・14・130]
- Oc 名字不可得聞何況得見受持誦誦文殊(師) [5・14・131]
- Od 利譬如強力轉輪聖王欲以威勢降伏諸国 [5・14・132]
- Oe 而諸小王不順其命時轉輪王起種種兵而 [5・14・133]
- Of 往討罰王見兵衆戰有功者即大歡喜隨功 [5・14・134]
- Og 賞賜或与田宅聚落城邑或与衣服嚴身之 [5・14・135]
- Oh 具或与種種珍宝金銀琉璃磚磑碼碼珊瑚 [5・14・136]
- Oi 与之所以者何獨王頂上有此一珠若以与 [5・14・137]
- Oj 之王諸眷屬必大驚怪文殊師利如來(亦復) [5・14・138]
- Ok 如是以禪定智慧力得法国土王於三界而 [5・14・139]
- Oj 諸魔王不肯順伏如來賢聖諸將与之共戰 [5・14・140]

C、石製品（第33図）

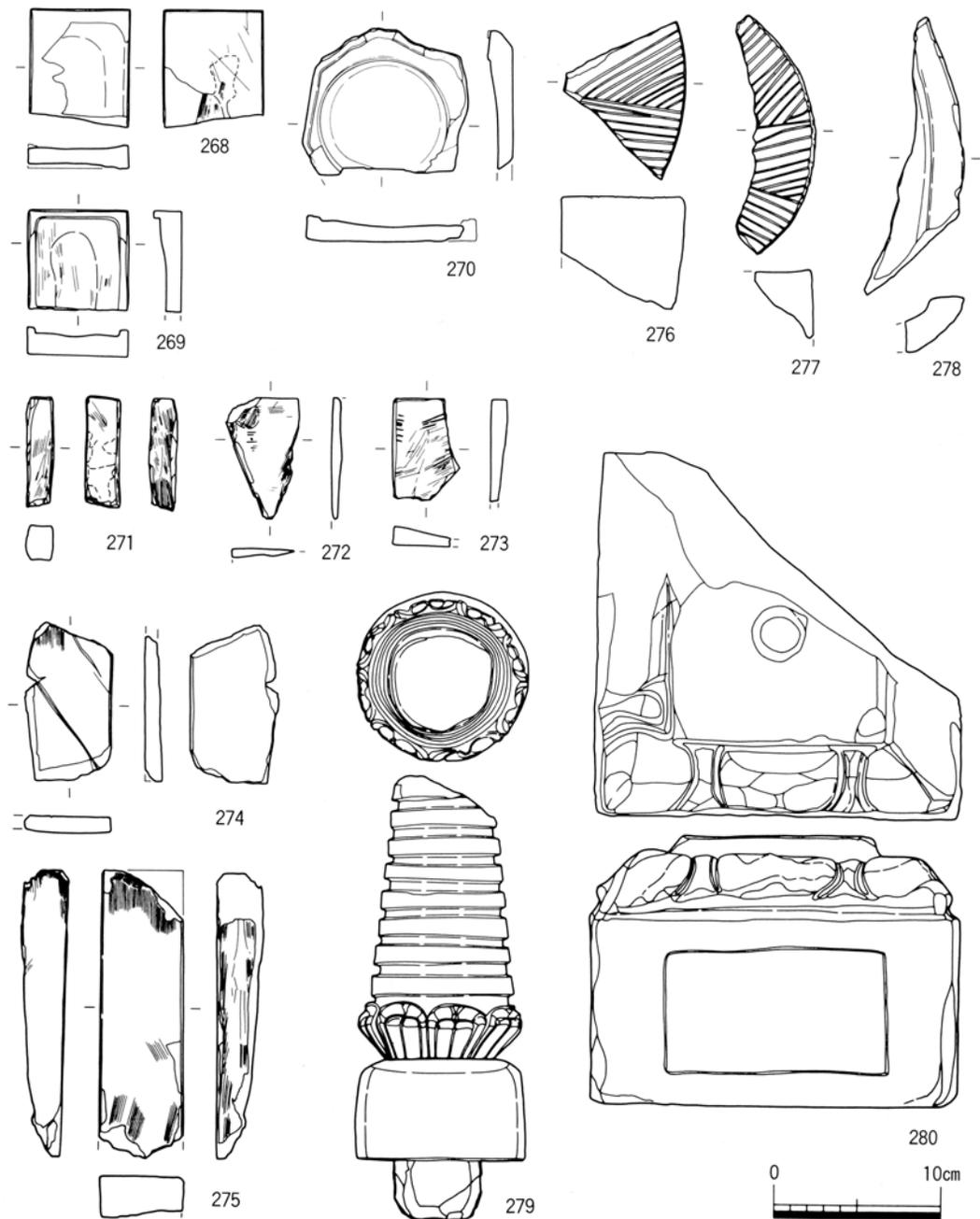
石製品には、硯、砥石、臼、墓塔類がある。ここでは出土量が少ないため、種別に記載する。

硯 硯は長方硯（268・269）と不定形硯（270）がある。268の裏面には微細な傷が存在する。

砥石 砥石はいずれも石材が精良な仕上砥石と思われる。271は平面形が長方形・断面形が方形を呈する小形のものである。272～274は薄い板状の砥石である。275は細長い長方形のやや大形の砥石である。

臼 臼は花崗岩製の挽臼の他、茶臼と呼ばれる比較的精良なものが出土した。276・277は上臼か下臼かは不明である。278は茶臼の下臼で受け皿の部分である。

墓塔類 墓塔類は宝篋印塔の台部と九輪部が存在する。特に279はS K 110の底部から単独で出土した宝篋印塔の九輪部である。280は上部に蓮弁紋を施したものである。（鈴木正貴）



第33図 遺物実測図(12) 城下町期：石製品

第3節 近世の遺物

A、概要

近世の出土遺物は、陶磁器類を主体に土器類・瓦類・石製品・金属製品が出土している。表土や包含層ばかりではなく、井戸や土坑などから一括して出土する場合も多数認められた。ここでは遺構毎に、陶磁器類と土器類を中心に紹介し、その概要を記述する。なお、石製品・金属製品は近世に所属するものもあると思われるが、城下町期と区分が難しく遺構に伴わない場合も多いため、近世の石製品・金属製品としてはあえて報告しないこととした。また、木製品は遺存状況が不良であったためか、全く出土しなかった。

陶磁器類は肥前窯産の磁器・瀬戸美濃窯産の磁器や陶器・常滑窯産のいわゆる赤物と呼ばれる陶器・土師器の鍋類などがある。統計的な分析は行っていないが、おそらく、瀬戸美濃窯産の陶器類が量的に多く出土していると思われる。また、時期的には17世紀後半から18世紀に属する遺物も一定量が見られるが、瀬戸美濃窯産の磁器等の19世紀に所属する遺物も多数見られること等から、この調査区の近世における主体は、近世後期にあるものと考えられよう。

また、近世の遺物の分布状況であるが、調査区によって顕著な差が認められる。91D区・91E区・92A区・92B区では近世の遺物が比較的多く出土しているのに対し、逆に89G区・90G区・90H区・90I区といった美濃街道から離れた現在水田や畑となっている地点では、それほど多くの遺物は出土していない。

B、遺構出土遺物

S K 055 (第34図-281~289) 肥前窯産の磁器類や瀬戸美濃窯産の陶器類・土師器の炮烙鍋が出土した。281・282は見込み部に五弁花紋が描かれた外面に青磁釉を施した磁器碗である。283・284は呉須を掛けた瀬戸美濃窯産の小碗(湯呑)である。289は底部にスタンプを押印した土師器の炮烙鍋で外面の下半部にヘラケズリが施されている。時期は18世紀末から19世紀前半と考えられよう。

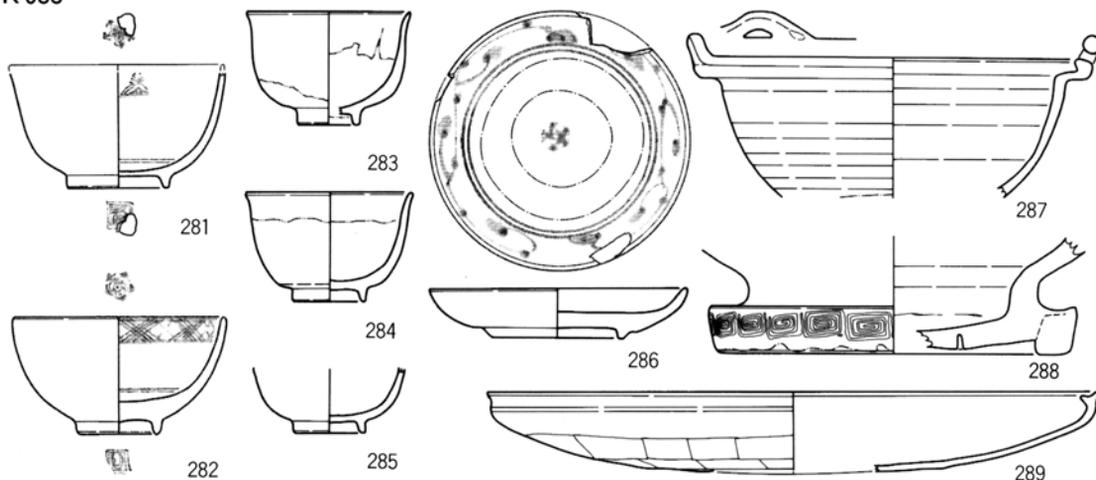
S E 001 (第34図-290~302) 肥前窯産の磁器類や瀬戸美濃窯産の磁器類・陶器類が出土している。器種的には碗・皿が主体を占めるが、瓶(301)、土瓶(300)、花瓶(302)、仏飯具(299)、蛸唐草紋を施した肥前窯産の蓋(297・298)なども存在している。碗は丸碗が多数を占めるが、筒形碗(294)も認められる。コバルトを用いた摺絵が施された瀬戸美濃窯産の磁器碗(290)などから、19世紀後半に位置づけられよう。

S E 003 (第34図-307) 307は口紅を施した肥前窯産の磁器杯で、高台内に成化年製と記されている。

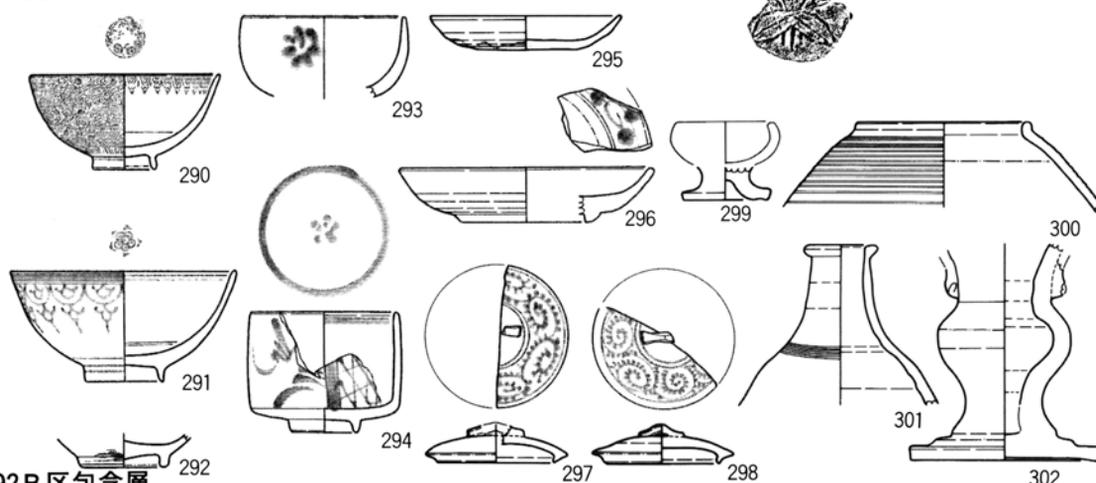
S D 005 (第34図-308・309) 瀬戸美濃窯産の陶器が少量出土した。香炉(308)や汁次(309)等の器種がある。

S K 042 (第34図-310) 瀬戸美濃窯産の陶器播鉢(310)が出土し、口縁部の形態から18世紀前半に位置づけられる遺物である。 (鈴木正貴)

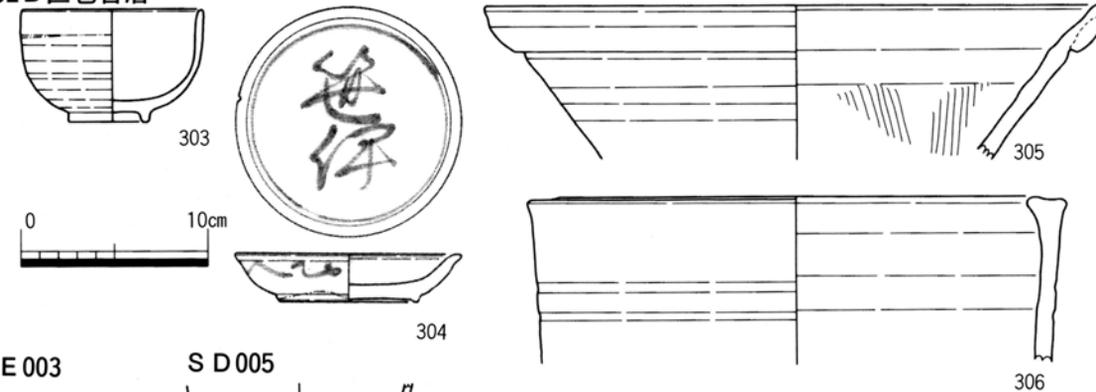
S K 055



S E 001



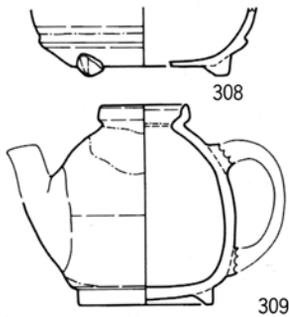
92B区包含層



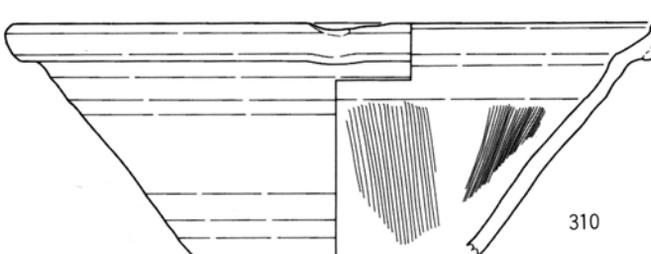
S E 003



S D 005



S K 042



第34図 遺物実測図(13) 近世

第Ⅳ章 　　まとめ



第IV章 まとめ 目次

第1節	古代集落の変遷 ……………	39
第2節	城下町期以降の遺構変遷 ……	40
第3節	まとめ ……………	40

第1節 古代集落の変遷

今回の調査では主として古代と城下町期で大きな成果を得た。本章ではこの2時期について取り上げ、遺構の変遷を概観し、まとめとしたい。

今回の調査区で検出された古代の主な遺構・遺物を列挙すると、以下の3点があげられる。

- ①古墳時代後期以降（7世紀代）の溝を追認した。
- ②8世紀を中心とする竪穴住居群が91E区・92B区で検出され、集落の西の範囲が確定された。
- ③これまで確認されなかった9世紀中葉から後葉の資料を得た。

これらに報告書が既に完了している『清洲城下町遺跡Ⅰ』1987清洲町教育委員会と『清洲城下町遺跡』1990(財)愛知県埋蔵文化財センターの成果を加えて、各時期の遺構分布の変遷を概観したい。

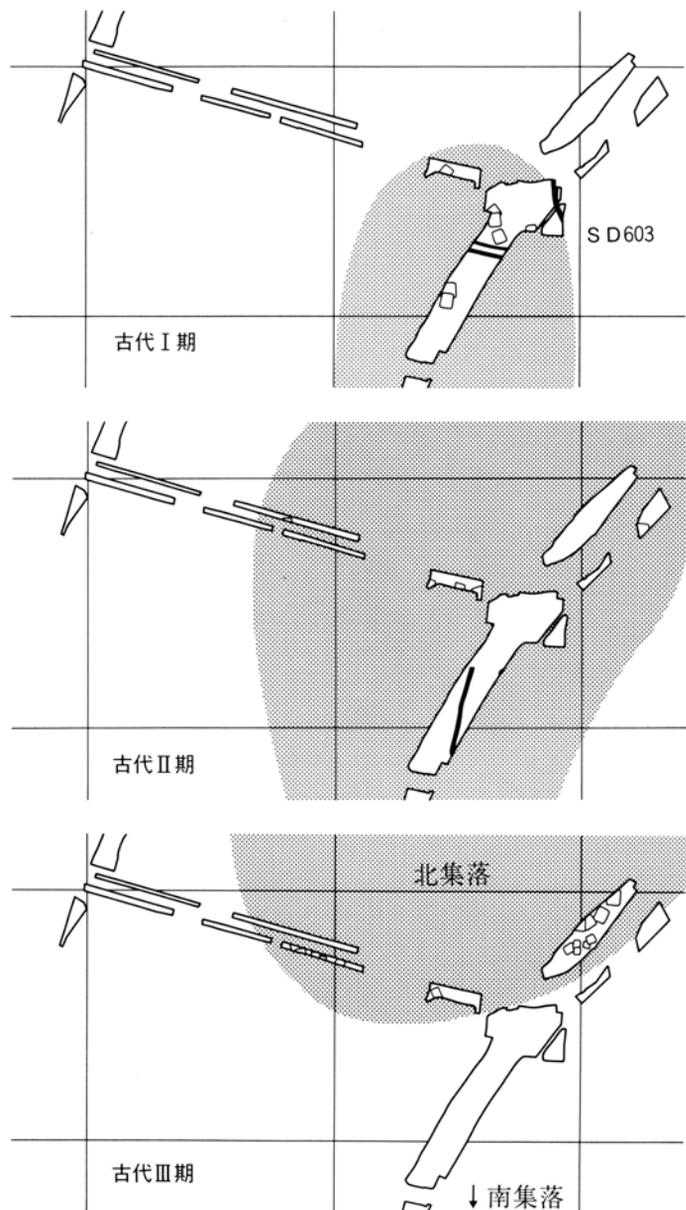
『清洲城下町遺跡』1990では、遺構の時期区分をⅠ期（遺物の1期・2期）・Ⅱ期（遺物の3期～5期）・Ⅲ期（遺物の6期）とした。今回の調査で新たに遺物の時期区分で7期を追加したため、これをⅢ期に含めて検討する（第35図）。

Ⅰ期は居住域を画するS D 603を検出したのみで、91E区・92B区以西で遺構が存在しないことから、この時期の遺構分布は62E区を限りとしていたと考えられる。

Ⅱ期は91E区・92B区で竪穴住居が検出され、Ⅰ期に比べ集落は北へ拡大していたことが追認された。こうした状況は『清洲城下町遺跡』1990で明らかなように、Ⅱ-2期で顕著であった。

Ⅲ期は集落が二分された時期である。91E区で遺物の7期の遺構を確認したこと等から、今回の調査区は、北集落の南端部に該当し、集落の存続期間も10世紀前葉まで継続していたことが明らかとなった。

（鈴木正貴）



第35図 遺構変遷図(1) 古代集落の変遷

第2節 城下町期以降の遺構変遷

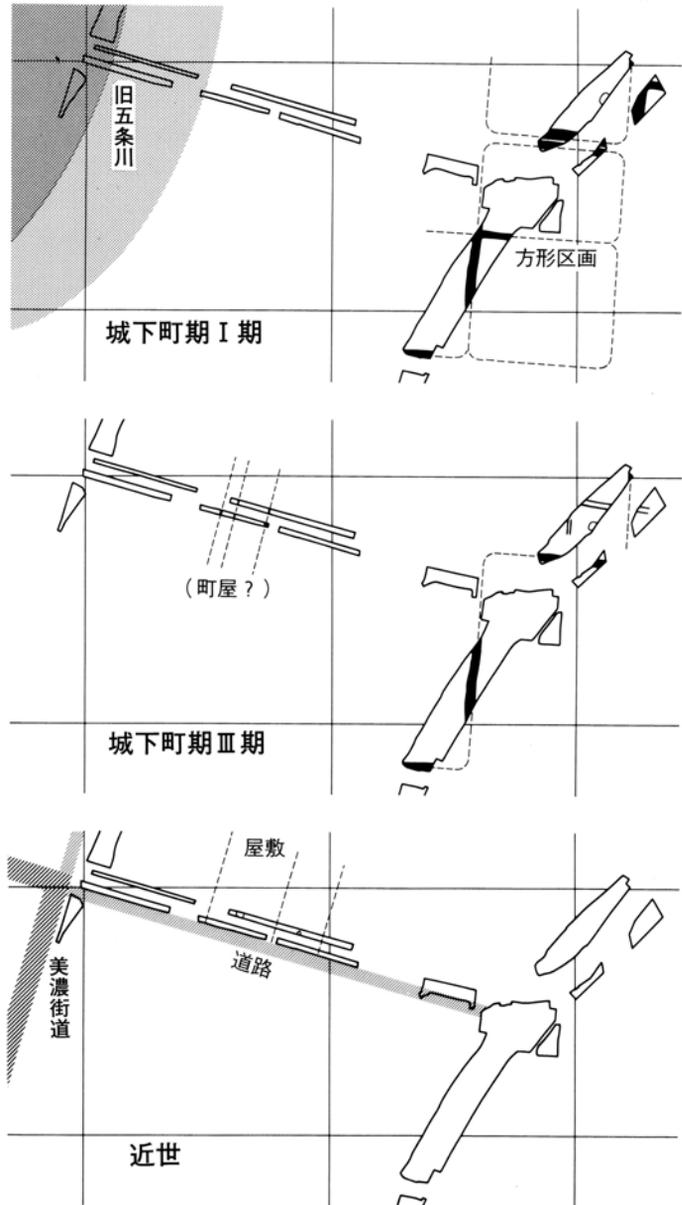
城下町期はこれまで前期（1478～1586）と後期（1586～1613）に区分されてきた。この他に『清洲城下町遺跡Ⅳ』1994では遺物の検討から前期を二分してⅢ期区分を呈示している。ここでは、後者の時期区分を踏襲し、近世の状況も併せて記述する。

城下町期Ⅰ期は、西部が旧五条川、東部は居住域であったと言える。調査区東部の遺構展開は、以前の調査で幅3～5mの区画溝で囲まれた約40m四方の方形屋敷があったと考えられる。今回の調査では、調査不能地点に遺構存在が予想されるものの、区画溝や建物等の明確な遺構が発見されなかった。

旧五条川と方形屋敷群の間は空白地が広がっていたかもしれない。

城下町期Ⅱ期には旧五条川が埋積し、城下町期Ⅲ期になると比較的規模の小さな溝や建物が検出されている。溝の規模・遺構の配置等から推定すると、町屋に相当する屋敷が考えられよう。

清須越以降はしばらく遺構・遺物が希薄になる。19世紀になると井戸などが作られ屋敷が展開した事が判明している。井戸は現道に並行して点在しており、美濃街道が屈曲する延長線上の道路に面して短冊型地割の屋敷が展開したと考えられる。このことは清洲宿場町の拡大を示していると思われる。（鈴木正貴）



第36図 遺構変遷図(2) 城下町期以降の変遷

第3節 まとめ

今回の調査区は狭小な面積であったが、得られた成果は古代集落や戦国城下町の研究に対しての資料を追加したといえる。また『清洲城下町遺跡』1990地点と五条川関連地点との成果をつなぐ意味で重要な意義を持っている。この重要性を十分に記述できなかったが、今後の研究の深化を期待したい。

付 表

清洲城下町遺跡

1. 遺構一覧表

凡例 1. 計測値はmで表示し、頭に「残」と記したものは残存した部分の数値を示す。

2. 時期は古代を「古」、中世を「中」、城下町期を「城」、近世を「近」と略した。

遺構番号	調査区	旧遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期
Pit001	92A	Pit54	IVG20e	0.19	0.17	0.06	—
Pit002	92A	Pit53	VG1g	残0.35	0.27	0.06	—
Pit003	92A	Pit51	VG2i	残0.33	残0.22	残0.04	—
Pit004	92B	—	VG3n	0.29	0.27	?	—
Pit005	92B	Pit10	VG3-4p	0.33	0.31	0.31	城
Pit006	92B	—	VG4p	0.37	0.35	0.05	—
Pit007	92B	Pit09	VG4q	0.35	0.27	0.26	城Ⅰ2
Pit008	92B	Pit08	VG4q	0.31	0.30	0.20	城Ⅱ2
Pit009	92B	Pit07	VG4r	残0.33	残0.28	残0.22	城Ⅰ
Pit010	92B	—	VG4r	残0.36	残0.30	残*0.28	—
Pit011	92B	Pit06	VG4r	残0.37	残0.21	残0.08	城
Pit012	92B	Pit05	VG4r	残0.37	残0.18	残*0.39	城
Pit013	92B	Pit02	VG4r	0.30	0.21	0.50	城
Pit014	92B	Pit45	VG5t	0.39	0.34	0.07	—
Pit015	91D	—	VG2g	残0.32	残0.15	残0.06	—
Pit016	91E	—	VG4l	0.22	0.21	?	—
Pit017	91E	—	VG4l	0.34	0.30	?	—
Pit018	91E	—	VG5r	残0.33	残0.31	残0.11	—
Pit019	91E	—	VG5r	残0.31	残0.22	?	—
Pit020	91E	SK33	VG5rs	残0.35	残0.27	残0.09	城
Pit021	91E	—	VG6t	残0.30	残0.25	残0.08	—
Pit022	91E	—	VG6t	0.21	0.21	0.01	—
Pit023	91E	—	VH6a	0.15	残0.09	0.06	—
Pit024	91E	—	VH6a	0.26	0.20	0.29	—
Pit025	91E	—	VH6a	残0.16	残0.14	?	—
Pit026	91E	—	VH6a	残0.15	残0.15	?	—
Pit027	91E	—	VH6ab	0.30	残0.24	残0.13	—
Pit028	91E	—	VH6-7a	0.29	0.24	0.08	—
Pit029	91E	—	VH6b	残0.31	残0.12	残0.06	—
Pit030	91E	—	VH6b	0.32	0.27	0.17	—
Pit031	91E	—	VH6b	残0.29	0.21	?	—
Pit032	91E	—	VH6b	残0.27	0.23	残0.08	—
Pit033	91E	—	VH6b	残0.37	残0.31	?	—
Pit034	91E	—	VH6b	残0.24	残0.10	?	—
Pit035	91E	—	VH7b	0.31	0.22	0.10	—
Pit036	91E	—	VH7b	残0.30	0.24	残0.09	—
Pit037	91E	Pit05	VH7b	0.33	0.28	0.12	—
Pit038	91E	Pit03	VH7b	0.26	0.22	0.13	城
Pit039	91E	Pit02	VH7b	0.38	0.23	0.22	—
Pit040	91E	—	VH7b	0.30	0.18	0.03	—
Pit041	91E	—	VH7b	残0.36	0.21	?	—
Pit042	91E	—	VH7b	0.36	0.27	0.12	—
Pit043	91E	—	VH7b	0.33	残0.17	残0.11	—
Pit044	91E	—	VH7b	0.27	0.24	0.15	—
Pit045	91E	—	VH7b	残0.30	残0.25	残0.09	—
Pit046	91E	—	VH7b	0.20	0.17	0.07	—
Pit047	91E	—	VH7b	0.31	0.31	0.17	—
Pit048	91E	—	VH7b	0.27	0.23	0.09	—
Pit049	91E	—	VH7b	残0.22	残0.19	残0.11	—
Pit050	91E	—	VH7b	0.25	0.20	0.12	—
Pit051	91E	—	VH7b	残0.38	残0.25	残0.07	—
Pit052	91E	—	VH7b	0.20	残0.19	残0.11	—
Pit053	91E	SK26	VH7bc	残0.38	残0.16	残0.18	古
Pit054	91E	—	VH7b	残0.31	残0.17	残0.08	—
Pit055	91E	—	VH7b	残0.21	残0.09	残0.13	—
Pit056	91E	—	VH7bc	残0.24	0.21	残0.04	—
Pit201	92A	Pit81	IVG19a	0.33	0.32	0.23	—
Pit202	92A	Pit74	VG1f	0.20	0.18	0.08	城
Pit203	92A	—	VG1gh	0.37	0.32	0.07	—
Pit204	92B	Pit37	VG2l	0.37	0.35	0.11	—

遺構番号	調査区	旧遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期
Pit205	92B	Pit34	VG3l	残0.31	0.16	残0.09	城
Pit206	92B	Pit33	VG3l	0.27	0.23	0.30	城Ⅰ
Pit207	92B	Pit32	VG3l	0.35	0.25	0.19	城
Pit208	92B	Pit49	VG3l	0.33	0.32	0.24	城
Pit209	92B	Pit35	VG3l	0.16	0.12	0.20	—
Pit210	92B	Pit31	VG3l	残0.22	0.17	残0.14	城
Pit211	92B	Pit39	VG2-3m	残*0.50	残0.09	残*0.46	—
Pit212	92B	Pit40	VG3m	0.20	0.17	0.17	城
Pit213	92B	Pit41	VG3m	残0.23	残0.22	残0.25	城
Pit214	92B	Pit59	VG3p	0.29	0.22	?	中
Pit215	92B	Pit61	VG3p	残*0.34	残0.19	残*0.36	—
Pit216	92B	Pit30	VG3p	0.27	0.25	0.22	—
Pit217	92B	Pit29	VG4q	残0.28	0.23	残*0.28	—
Pit218	92B	Pit28	VG4q	残0.27	残0.19	残0.26	—
Pit219	92B	Pit26	VG4q	残0.34	残0.18	残0.10	城
Pit220	92B	Pit62 Pit70	VG4q	0.28	0.22	0.22	城
Pit221	92B	Pit24 Pit63	VG4r	0.28	0.24	0.29	城Ⅰ-Ⅱ
Pit222	92B	—	VG4r	残0.39	残0.26	?	—
Pit223	92B	Pit22	VG4r	0.20	0.20	0.22	城
Pit224	92B	Pit23 Pit72	VG4r	0.33	0.31	0.25?	城
Pit225	92B	Pit21	VG4r	残0.39	残0.29	残0.11	—
Pit226	92B	Pit20	VG4r	0.31	0.27	0.22	城
Pit227	92B	Pit19	VG4s	0.25	0.21	0.22	—
Pit228	92B	Pit18	VG4s	残0.36	残0.16	残0.10	—
Pit229	92B	Pit47	VG5t	残0.28	残0.23	0.05	—
Pit230	91E	—	VG4l	残0.39	残0.24	残0.10	—
Pit231	91E	Pit01	VG4l	0.14	0.13	0.08	—
Pit232	91E	—	VG4l	残0.25	残0.24	残0.21	—
Pit233	91E	SK107	VG4l	0.38	0.28	0.28	城
Pit234	91E	—	VG4l	0.10	0.10	0.20	—
Pit235	91E	SK110	VG4m	残0.37	残0.22	残*0.51	城
Pit236	91E	—	VG4n	0.26	0.26	0.19	—
Pit237	91E	—	VG4o	0.33	0.30	0.07	—
Pit238	91E	—	VG4o	残0.30	残0.20	残0.14	—
Pit239	91E	—	VG6s	0.27	0.25	0.09	—
Pit240	91E	—	VG6s	0.27	0.20	0.08	—
Pit241	91E	—	VG6s	残0.32	残0.27	残0.16	—
Pit242	91E	—	VG6s	0.13	0.13	0.06	—
Pit243	91E	—	VG6t	0.29	0.25	0.12	—
Pit244	91E	—	VG6t	0.23	残0.15	0.13	—
Pit245	91E	—	VG6t	0.26	0.25	0.89?	—
Pit246	91E	—	VH6a	残0.36	残0.25	?	—
Pit247	91E	—	VH6a	0.21	0.18	?	—
Pit248	91E	—	VH6a	残0.24	残0.14	?	—
Pit249	91E	—	VH6a	残0.33	残0.24	?	—
Pit250	91E	—	VH6a	残0.31	残0.21	?	—
Pit401	92A	Pit88	IVG20e	0.36	0.33	0.10	—
Pit402	92A	Pit89	VG1g	0.15	0.09	0.11	—
Pit403	92A	Pit90	VG1h	残*0.33	0.25	残*0.33	城Ⅰ2
Pit404	92B	—	VG4p	残0.36	残0.30	残0.07	—
Pit405	92B	Pit69	VG4q	0.22	0.14	0.10	古
Pit406	92B	Pit71	VG4r	0.27	0.26	0.05	古
Pit407	92B	Pit77	VG4r	残0.39	残0.21	?	—
Pit408	92B	Pit75	VG4r	残0.37	残0.17	残0.12	—
Pit409	91E	Pit202	VG3k	0.29	0.21	?	城
Pit410	91E	—	VG6s	0.35	0.35	0.08	—
Pit411	91E	SK203	VG6s	残0.39	残0.35	残0.27	古

遺構番号	調査区	旧遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期
Pit412	91E	—	V G6t	0.30	0.29	0.16	—
Pit502	91E	—	V G6t	残0.35	0.29	0.11	—
Pit502	91E	—	V H6b	0.20	0.19	0.09	—
Pit601	90H	—	V H14s	0.32	0.30	?	—
Pit602	89G	Pit02	V H19-20e	残0.36	0.36	残0.12	—
Pit603	89G	Pit01	V H20e	残0.30	0.30	残0.17	城
Pit604	89G	Pit05	V H20e	0.26	0.23	?	—
SA001	91E	—	V G4klm	8.62			城
SB401	92B	SB01	V G4pq	3.63	残1.76	*0.46	古7
SB402	91E	SB205	V G5qr, 6r	残1.95	?	*0.39	古7
SB403	91E	SB201	V G5-6s	3.50	残2.40	*0.32	古6
SB404	91E	SB202	V G6st	残2.74	残0.85	0.16	古6
SB405	91E	SB203	V G6st	残3.77	残1.14	*0.42	—
SB406	91E	SB204	V G6t, V H6a	残1.27	?	0.11	古5~6
SB407	91E	SK206	V H7b	残2.40	残1.55	残0.28	—
SB501	91E	SB301	V G5pq	残3.09	残2.85	*0.50	古6
SB502	91E	SB302	V G5q, 5-6r	残4.33	残2.68	*0.56	古6
SB503	91E	SB401	V G5-6s, 6t	残2.47	残1.68	*0.17	—
SB504	91E	SB402	V G6st	残3.23	残2.51	*0.24	—
SB505	91E	SB303	V G6st	残3.39	残2.20	0.06	古5
SB506	91E	SB304	V G6t	残1.02	残1.01	0.17?	古6
SB507	91E	SB403	V G6t, V H6a	残2.72	残0.98	0.13	古4
SB508	91E	SB404	V H6-7b	残3.74	残1.04	*0.35	—
SB601	90G	SB01	V H9hi	残3.75	残3.56	?	古3
SB602	90G	SB02	V H9hi	推4.38	3.61	*0.34	古6
SB603	90G	SB03	V H9ij	推4.38	残3.59	残*0.38	古2
SB604	90G	SB04	V H9jk	残2.84	残1.85	0.11	古4
SB605	90G	SB05	V H9k	2.67	残2.02	0.13	古
SB606	90G	SB06	V H9-10kl	残5.98	5.08	0.17	古3
SB607	90H	SB01	V H12s	残1.35	残1.31	0.18	古
SB608	90H	SB02	V H14rs	残2.92	残1.37	0.21	—
SB609	90H	SB03	V H13-14r	残5.49	残3.33	0.23	—
SB610	89G	SB01	V H20de	残2.39	残1.06	*0.27	—
SD001	92B	—	V G3op	残1.32	0.59	*0.49	—
SD002	92B	SD04	V G3p, 4pq	残6.92	0.62	*0.27	城
SD003	92B	SD03	V G4rs	残4.76	残1.02	0.34	城ⅠⅠ
SD004	91D	SD02	V G2ef	2.24	0.26	0.13	城
SD005	91D	SD01	V G2f	残2.19	0.57	*0.43	城
SD006	91D	SD03	V G2fg	残6.85	残0.28	残0.33	城ⅢⅠ
SD007	91E	SD02	V G3-4k, 3l	残1.85	*1.29	*0.60	城
SD008	91E	SD05	V G4lm	残1.68	0.78	*0.23	城
SD009	91E	SD03	V G4-5o	残1.64	*1.45	*0.76	近
SD201	92B	SD05	V G4rs, 5s	残2.28	残0.48	残0.18	—
SD202	91E	SD101	V G3-4kl	残1.72	*1.37	*0.52	城ⅡⅠ
SD203	91E	SD102	V G6s	残1.51	残*2.97	残*0.18	古6
SD401	92B	SD08	V G4q	残1.53	残0.75	残*0.20	城ⅡⅠ
SD402	91E	SD201	V G5q	残1.58	残2.00	*0.55	—
SD501	91E	SD302	V G6t, V H6-7ab	残1.36	推5.00	*0.52	—
SD502	91E	SD301	V H7bc	残1.29	残1.75	0.37	古5~6
SD601	90G	SD01	V H9i	残1.29	0.56	*0.39	—
SD602	90G	SD02	V H9i	残0.67	0.51	0.07	—
SD603	90H	SD01	V H12-13s	残4.66	1.92	*0.54	古2
SD604	90I	SD01	V H19fg	残5.52	0.65	0.17	城ⅡⅠ
SD605	89G	SD01	V H19-20ef	残3.22	4.60	0.19	城
SD606	89G	SD02	V H20e	残1.15	0.33	0.10	—
SE001	92B	SE02	V G3mn	残*5.25	残1.93		近
SE002	92B	SK01	V G4r	残2.09	残2.07	?	近
SE003	92B	SE01	V G4-5s	残3.30	残2.55		近
SK001	92A	SK46	V G19a	残*1.00	残0.36	残*0.48	城
SK002	92A	Pit64	V G19a	残0.53	残0.51	0.26	城
SK003	92A	SK45	V G19ab	残*1.53	残0.41	残*0.57	城ⅠⅡ
SK004	92A	SK44	V G19b	残*1.34	残0.42	残*0.79	城Ⅰ
SK005	92A	Pit67	V G19b	残*1.52	残0.20	残*0.70	城
SK006	92A	SK47	V G20b	残1.60	残0.25	残0.39	—
SK007	92A	SK68	V G20c	残*1.32	残0.41	残*0.52	城ⅠⅡ
SK008	92A	SK67	V G20cd	残1.54	残0.45	0.11	—
SK009	92A	SK66	V G20d	残1.51	1.08	残*0.41	城
SK010	92A	SK65	V G20de	残*3.19	残0.31	残*0.75	城ⅠⅠ

遺構番号	調査区	旧遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期
SK011	92A	SK64	V G20e	残*1.68	残0.49	残*0.68	城
SK012	92A	SK63	V G20e, V G1e	1.37	0.67	0.14	城Ⅲ
SK013	92A	SK61	V G20ef, V G1ef	残*1.36	残0.67	残*0.56	城ⅠⅠ
SK014	92A	SK62	V G20e, V G1e	残2.81	残0.17	残0.18	城
SK015	92A	SK60	V G20f, V G1f	残0.73	残0.34	残0.08	城
SK016	92A	SK59	V G1f	残0.70	残0.35	残0.16	城
SK017	92A	Pit52	V G1g	残*1.85	残0.27	残*0.78	城ⅠⅡ
SK018	92A	SK72	V G1h	残*1.60	残2.07	残*1.06	城ⅠⅡ
SK019	92A	SK58	V G1h	残1.45	残0.80	残0.16	城
SK020	92A	SK57	V G1h	残1.14	残0.98	残0.70	城ⅡⅠ
SK021	92A	SK55	V G1h	残1.30	残0.47	残*0.34	城ⅡⅠ
SK022	92A	SK54	V G1h	残1.11	残0.67	残*0.38	城ⅠⅠ
SK023	92A	SK56	V G1h	残0.75	残0.64	残0.12	城
SK024	92A	SK53	V G1-2i	*1.45	残0.68	残*0.93	城Ⅲ
SK025	92A	SK52	V G1-2i	0.92	0.46	0.41	城ⅡⅠ
SK026	92A	SK43	V G2i	残*0.86	残0.56	残*0.35	城ⅠⅡ
SK027	92A	Pit50	V G2i	残*0.61	残0.26	残*0.24	城ⅡⅠ
SK028	92A	SK42	V G2i	残1.70	残0.85	残0.20	城ⅠⅡ
SK029	92B	Pit15	V G2i	残1.39	残0.23	残*0.63	城
SK030	92B	Pit14	V G2i	0.42	0.30	残*0.66	城
SK031	92B	SK20	V G2i	残*0.86	残0.55	残*0.67	城ⅢⅠ
SK032	92B	SK18	V G2-3lm	残1.26	残0.61	残*0.48	城ⅡⅠ
SK033	92B	SK21	V G2-3i	残0.49	残0.31	残0.26	城ⅢⅠ
SK034	92B	Pit16	V G2-3i	0.43	0.40	0.28	城
SK035	92B	Pit17	V G3i	残0.50	残0.45	0.27	城
SK036	92B	SK22	V G3i	残0.81	残0.52	残0.41	城ⅠⅡ
SK037	92B	Pit12	V G3i	残0.50	残0.47	残0.63	城ⅠⅡ
SK038	92B	SK14	V G3lm	残1.81	残1.49	残0.45	城Ⅱ
SK039	92B	Pit13	V G2-3m	0.41	0.34	残*0.30	城
SK040	92B	SK17	V G3m	0.60	残0.38	残0.22	城
SK041	92B	SK09	V G3m	残1.07	残0.19	残0.21	城Ⅱ
SK042	92B	SK08	V G3n	残2.03	残1.81	残0.32	城Ⅱ
SK043	92B	SK06	V G3no	残3.80	残1.15	残0.33	城Ⅱ-Ⅲ
SK044	92B	SK19	V G3o	0.67	0.44	0.22	城Ⅱ
SK045	92B	SK12	V G3o	残1.49	残1.31	残*1.42	城Ⅰ
SK046	92B	SK16	V G3o	残0.57	残0.48	残0.45	城Ⅲ
SK047	92B	SK05	V G3o	残1.70	残1.62	残*0.44	城ⅡⅡ
SK048	92B	SK11	V G4op	2.10	残0.73	残0.14	城Ⅱ
SK049	92B	SK07	V G3p	残*1.32	残0.24	残*0.58	—
SK050	92B	Pit01	V G4p	0.59	0.52	0.37	城Ⅱ
SK051	92B	Pit11	V G4q	0.47	0.47	0.25	—
SK052	92B	—	V G4q	0.40	0.40	0.02	—
SK053	92B	SK15	V G4q	1.06	0.96	0.47	城ⅢⅠ
SK054	92B	—	V G4q	0.43	0.43	?	—
SK055	92B	SK02	V G4qr	残2.49	残2.29	残0.31	近
SK056	92B	SK04	V G4-5rs	残2.06	残0.78	残0.17	城ⅠⅡ
SK057	92B	Pit03	V G4s	残0.46	残0.33	残0.09	—
SK058	92B	—	V G5t	0.44	0.21	0.08	—
SK059	92B	—	V G5t	0.85	0.21	0.06	—
SK060	92B	SK03	V G5t	残1.70	残1.26	残0.14	城
SK061	92B	SK37	V G5t	残*0.91	残0.21	残*0.75	—
SK062	92B	Pit04	V G5t	0.62	0.58	0.10	—
SK063	91D	SK05	V F1t, V G1a	残1.45	残0.70	残0.14	城ⅢⅠ
SK064	91D	SK06	V G1a	1.04	1.01	0.75	城
SK065	91D	SK08	V G1b	残1.68	残1.38	残0.14	城
SK066	91D	—	V G1c	残0.68	0.53	?	—
SK067	91D	SK02	V G1c	残1.72	残1.64	残0.25	城ⅠⅡ
SK068	91D	SK09	V G1c	残1.07	残0.99	残0.32	城
SK069	91D	SK03	V G1-2de	残*5.49	残2.34	残*1.08	城ⅡⅠ
SK070	91D	SK07	V G2e	残0.97	残0.80	残0.29	城
SK071	91D	SK01	V G2fg	残1.45	残0.79	残*0.96	城ⅠⅡ
SK072	91D	—	V G2fg	残0.89	残0.46	残0.15	—
SK073	91D	SK17	V G2g	残0.54	残0.24	残0.22	城
SK074	91D	SE01	V G2g	残2.06	0.99		城ⅠⅡ
SK075	91D	SK04	V G2g	残2.50	残1.42	残*0.97	城
SK076	91D	SK16	V G2g	残0.51	残0.39	残0.33	城
SK077	91E	SK61	V G3j	残2.19	残1.68	?	城Ⅱ-Ⅲ
SK078	91E	SK62	V G3j	残1.82	残1.05	残0.02	城ⅠⅡ
SK079	91E	SK10	V G3-4k	残0.92	残0.66	残0.15	城

清洲城下町遺跡

遺構番号	調査区	旧遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期
SK080	91E	SK11	V G3-4kl	0.76	0.60	0.23	城
SK081	91E	SK09	V G4k	残0.44	残0.21	残0.12	中
SK082	91E	SK08	V G4k	残0.60	残0.36	?	城
SK083	91E	SK57	V G3l	残*0.90	残0.38	残*1.23	城
		SK104					
SK084	91E	SK58	V G3-4l	残*0.80	残0.27	残*0.95	城
SK085	91E	SK20	V G3-4l	0.65	0.51	0.40	—
SK086	91E	SK36	V G4l	残*1.13	残0.49	残*0.80	城Ⅱ2
SK087	91E	SK13	V G4l	残0.93	残0.83	残0.27	—
SK088	91E	SK12	V G4l	0.44	0.38	0.34	城
SK089	91E	SK19	V G4l	0.58	0.41	0.28	城
SK090	91E	SK28	V G4l	0.53	0.52	0.52	城
SK091	91E	SK29	V G4l	残2.67	残0.58	残0.41	城Ⅱ2
SK092	91E	SK59	V G4l	残0.78	残0.60	?	城Ⅱ1
SK093	91E	SK14	V G4l	残0.91	残0.73	残0.19	—
SK094	91E	SK15	V G4l	0.51	0.48	0.11	城
SK095	91E	SK40	V G4l	0.72	0.62	0.20	城
SK096	91E	SK49	V G4lm	0.67	0.62	0.33	城
SK097	91E	SK56	V G4m	0.43	0.36	0.10	—
SK098	91E	SE01	V G4m	残4.23	残1.95	残*1.70	城Ⅱ
		SK50					
SK099	91E	SK51	V G4n	*0.50	残0.39	残*0.65	城
SK100	91E	SK52	V G4n	残0.46	0.45	残0.10	—
SK101	91E	SK53	V G4n	残*1.81	残0.54	残*0.51	城Ⅱ2
SK102	91E	—	V G4no	残*1.45	残0.34	残*0.57	—
SK103	91E	SK45	V G4-5n	残2.90	残1.28	残*0.68	城Ⅱ
SK104	91E	SK39	V G4-5no	残1.44	残0.97	残0.40	城Ⅱ2
SK105	91E	—	V G4o	残*1.45	残0.70	残*0.40	—
SK106	91E	SK54	V G4o	残0.76	残0.26	残0.14	城Ⅱ1
SK107	91E	SK55	V G4-5o	残0.93	残0.49	残0.20	城Ⅲ
SK108	91E	—	V G5o	残0.50	残0.36	?	—
SK109	91E	SK21	V G5p	残2.50	残1.84	残*1.13	近
SK110	91E	SK04	V G5pq	残2.67	残1.73	残*0.80	城Ⅱ1
SK111	91E	SK127	V G5q	0.41	0.38	0.28	—
SK112	91E	—	V G5q	残0.65	残0.21	?	—
SK113	91E	SK22	V G5q	残2.09	残1.69	残0.28	城Ⅲ
SK114	91E	SK35	V G5q	残0.68	0.45	残*0.49	城
SK115	91E	SK47	V G5q	残0.41	残0.19	残0.06	城
SK116	91E	SK46	V G5q	残0.63	残0.21	残0.11	城
SK117	91E	SK41	V G5qr	残*1.44	残0.99	残*0.72	—
SK118	91E	SK42	V G5qr	残1.26	残0.92	残0.34	城
SK119	91E	SK16	V G5r	残2.93	残0.61	残*0.76	城Ⅱ2
		SK128					
SK120	91E	SK37	V G5r	残0.51	残0.47	残0.27	城
SK121	91E	SK23	V G5r	0.49	0.40	0.34	城
SK122	91E	SK32	V G5r	残0.39	0.39	0.14	—
SK123	91E	SK38	V G5-6r	0.49	0.44	0.44	城
SK123	91E	SK38	V G5-6r	0.49	0.44	0.44	城
SK125	91E	SK31	V G5r	0.42	0.39	0.24	城
SK126	91E	SK30	V G5-6r	残0.45	残0.29	残0.07	城
SK127	91E	—	V G6s	0.48	0.43	0.15	—
SK128	91E	SK17	V G6s	残0.50	残0.25	残0.10	古
SK129	91E	—	V G6s	0.56	0.40	0.07	—
SK130	91E	SK18	V G6s	0.48	0.47	0.56	城
SK131	91E	SK07	V G6st	残3.18	残1.35	残0.16	城
SK132	91E	SK25	V G6t	0.65	0.43	0.10	城
SK133	91E	—	V G6t	0.47	0.46	?	—
SK134	91E	SK05	V G6t	残1.05	残0.70	残*0.34	—
SK135	91E	SK06	V G6t, V H6a	残1.67	残0.90	残0.41	城Ⅱ2
SK136	91E	SD01	V H6a	残0.73	0.49	0.22	近
SK137	91E	SK03	V H6a	1.00	0.43	0.36	城
SK138	91E	—	V H6a	残0.78	残0.32	残0.09	—
SK139	91E	—	V H6a	残0.64	残0.41	残0.07	—
SK140	91E	—	V H7a	残0.50	残0.15	残0.11	—
SK141	91E	SK48	V H6a	0.64	0.54	0.26	城
SK142	91E	SK43	V H6a	0.47	0.46	0.16	—
SK143	91E	—	V H6a	0.45	0.34	0.10	—
SK144	91E	—	V H6a	0.41	0.16	0.07	—
SK145	91E	—	V H6a	0.40	0.31	0.07	—
SK146	91E	SK34	V H6a	残0.68	残0.68	0.18	城

遺構番号	調査区	旧遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期
SK147	91E	Pit06	V H6b	残0.45	0.30	0.24	—
SK148	91E	Pit04	V H6-7b	残0.41	0.36	0.36	—
SK149	91E	SK02	V H7b	0.55	0.55	0.39	城
SK150	91E	SK27	V H7b	0.50	0.21	0.12	城
SK151	91E	—	V H7b	残1.44	残0.43	残0.12	—
SK152	91E	SK01	V H7bc	残1.68	残1.63	?	城
SK201	92A	—	V G19a	残0.54	残0.27	残0.10	—
SK202	92A	—	V G19a	残0.53	残0.41	残0.28	—
SK203	92A	Pit79	V G19a	残0.65	残0.42	残0.29	城
SK204	92A	Pit80	V G19a	残0.60	残0.44	残0.11	—
SK205	92A	SK89	V G19ab	*0.90	残0.48	残*0.63	城
SK206	92A	Pit82	V G19ab	0.45	0.38	0.18	城
SK207	92A	SK99	V G19ab, 20b	残1.90	残0.37	残0.20	—
SK208	92A	Pit78	V G19b	0.48	0.42	0.13	城
SK209	92A	Pit83	V G19-20b	残0.54	残0.40	残0.23	—
SK210	92A	Pit84	V G19-20b	残0.46	残0.41	残0.14	城
SK211	92A	SK90	V G20b	残2.01	残0.63	残0.20	—
SK212	92A	SK87	V G20b	0.78	残0.55	残0.19	—
SK213	92A	SK91	V G20cd	残*6.40	残0.85	残*1.16	城Ⅱ
SK214	92A	SK98	V G20d	残*2.12	0.65	残*0.40	城
SK215	92A	SK93	V G20e	残0.69	残0.37	残0.06	城
SK216	92A	SK92	V G20ef, V G1ef	残*1.92	残0.66	残*0.60	城Ⅱ1
SK217	92A	SK83	V G1f	残0.80	残0.40	残0.44	城Ⅱ1
SK218	92A	SK82	V G1fg	残0.72	残0.36	残0.16	城Ⅱ1-Ⅱ
SK219	92A	SK81	V G1fg	残2.59	残0.62	残0.49	城Ⅱ2
SK220	92A	SK104	V G1g	残1.14	残0.45	残0.07	城Ⅱ2
SK221	92A	SK96	V G1h	残2.31	残0.93	残*0.64	城Ⅱ2
SK222	92A	SK86	V G1h	0.75	0.69	0.11	城
SK223	92A	SK80	V G1h	残0.63	残0.61	残*0.32	城
SK224	92A	Pit85	V G1h	残0.63	残0.30	残0.42	城Ⅱ2
		SK85					
SK225	92A	—	V G1-2hi	3.33	2.34	残*1.05?	—
SK226	92A	SK100	V G1-2hi	残0.99	残0.39	残0.27	城
SK227	92A	SK103	V G1-2i	残1.12	残0.77	残*0.41	城
SK228	92A	SK101	V G1-2i	残*0.76	残0.50	残*0.50	城
SK229	92A	SK79	V G1-2i	残0.73	0.48	0.16	城
SK230	92A	SK78	V G1-2i	0.54	0.48	0.21	城Ⅱ1
SK231	92A	SK97	V G2i	残0.86	残0.29	残0.12	城Ⅱ
SK232	92A	Pit87	V G2i	残0.43	残0.22	残0.22	—
SK233	92A	SK102	V G2i	残*0.96	残0.47	残*0.52	城Ⅱ1
SK234	92A	SK77	V G2i	残0.92	残0.70	残0.31	城Ⅱ
SK235	92A	Pit86	V G2i	残*0.60	残0.32	残*0.59	城Ⅱ1-Ⅱ
SK236	92B	Pit36	V G2-3l	残0.49	残0.27	残0.15	城
SK237	92B	SK48	V G2-3l	残0.71	残0.68	残0.04	—
SK238	92B	SK41	V G2-3lm	残*1.49	残0.46	残*0.30	—
SK239	92B	Pit38	V G2m	残*0.45	残0.27	残*0.42	城
SK240	92B	SK40	V G2-3m	残1.25	?	残0.07	城
SK241	92B	SK35	V G3m	残0.92	?	残0.14	城
SK242	92B	—	V G3m	0.74	0.37	0.14	—
SK243	92B	SK33	V G3mn	残*1.40	残0.45	残*0.37	—
SK244	92B	SK34	V G3mn	残0.51	残0.20	残0.15	城Ⅱ1
SK245	92B	SK71	V G3mn	残*2.50	残0.45	残*0.87	城Ⅱ1-Ⅱ
SK246	92B	SK32	V G3mn	残*1.62	残1.23	残*0.81	城Ⅱ2
SK247	92B	SK50	V G3mn	残1.43	残1.10	残0.13	城Ⅱ2
SK248	92B	SK49	V G3n	残0.82	残0.33	残*0.37	—
SK249	92B	SK30	V G3n	残*3.96	残0.75	残*0.67	城
SK250	92B	SK39	V G3n	残*4.03	?	残*1.05	城Ⅱ2
SK251	92B	SK38	V G3n	残0.83	残0.57	残0.10	城Ⅱ2
SK252	92B	SK84	V G3n	残*0.93	?	残*0.37	—
SK253	92B	SK69	V G3no	残1.43	残1.14	残0.50	城Ⅱ1
SK254	92B	Pit57	V G3o	0.42	0.41	0.17	城Ⅲ
SK255	92B	Pit58	V G3o	0.51	残0.41	0.13	城
SK256	92B	Pit43	V G3o	残0.40	0.37	0.42	城Ⅱ1
SK257	92B	Pit42	V G3o	0.41	0.37	0.05	城
SK258	92B	SK29	V G3op	残*0.81	残0.42	残*0.25	—
SK259	92B	Pit44	V G4o	残0.48	残0.19	?	古
SK260	92B	SK26	V G4op	残3.28	残0.21	残0.18	—
SK261	92B	SK27	V G3p	残0.66	残0.21	残*0.76	城Ⅱ1
SK262	92B	Pit60	V G3-4p	0.77	0.65	0.16	古5-6
SK263	92B	SK25	V G4p	残1.45	残0.27	残0.18	—

遺構番号	調査区	旧遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期
SK264	92B	SK24	V G4p	残0.50	残0.36	残0.12	—
SK265	92B	SK23	V G4q	残1.24	残1.15	残*0.50	城
SK266	92B	Pit25	V G4q	残0.49	残0.42	残0.16	—
SK267	92B	Pit27	V G4q	残0.45	残0.23	残0.12	—
SK268	92B	SK70	V G4r	0.62	残0.51	0.07	城
SK269	92B	Pit46	V G5t	0.43	0.42	0.06	—
SK270	91D	SE02	ⅡF20t, ⅡG20a, V G1a	残1.33	残0.40		城Ⅱ2
SK271	91D	SK11	ⅡG20a, V G1a	0.74	0.47	0.27	城Ⅰ1
SK272	91D	SK12	ⅡG20a, V G1a	0.41	0.41	0.34	城
SK273	91D	SK13	ⅡG20a, V G1a	残1.20	残1.05	残0.28	城Ⅰ2
SK274	91D	SK10	ⅡG20a, V G1a	残1.02	残0.79	残*0.60	城Ⅰ2
SK275	91D	SK14	V G1a	残0.85	残0.68	残0.17	城
SK276	91D	—	V G1c	残1.50	残0.63	残0.26	—
SK277	91D	—	V G2e	残0.42	残0.40	残0.55	—
SK278	91D	SK18	V G2e	残0.71	残0.26	残0.21	城
SK279	91D	SK101	V G2e	残*1.20	?	残*0.72	城
SK280	91D	SK201	V G2ef	残*1.65	?	残*0.20	城
SK281	91D	—	V G2f	0.53	0.27	0.15	—
SK282	91D	SK202	V G2f	残*0.86	?	残*0.30	城
SK283	91D	SK203	V G2f	残*0.63	?	残*0.28	—
SK284	91D	SK204	V G2f	残*1.26	?	残*0.70	城
SK285	91D	SK102	V G2f	残*0.68	?	残*0.40	城Ⅰ
SK286	91D	SK205	V G2g	残*1.28	?	残*1.41	城Ⅰ
SK287	91E	SK101	V G3-4k	0.74	0.40	0.46	城
SK288	91E	SK102	V G4k	残1.00	残0.70	残0.44	城
SK289	91E	SK103	V G4kl	0.73	残0.52	残0.56	城
SK290	91E	—	V G3l	残*0.57	残0.22	残*0.66	—
SK291	91E	SK105	V G3-4l	0.59	残0.31	残0.43	城Ⅱ2
SK292	91E	SK106	V G4l	0.56	残0.34	残0.25	城
SK293	91E	—	V G4l	残0.46	残0.23	残0.15	—
SK294	91E	—	V G4l	残0.50	残0.35	残0.14	—
SK295	91E	—	V G4l	残0.45	残0.24	残0.37	—
SK296	91E	SK109	V G4l	残0.44	残0.30	残*0.66	城Ⅱ1
SK297	91E	SK108	V G4l	残0.69	残0.54	残*0.91	城
SK298	91E	SK111	V G4lm	残0.67	残0.40	残*0.41	城Ⅱ1
SK299	91E	—	V G4lm	残0.44	残0.24	残0.24	—
SK300	91E	SK132	V G4n	残1.01	残0.70	残*0.28	中
SK301	91E	SK131	V G4n	0.49	0.35	0.18	—
SK302	91E	—	V G4-5o	残1.48	?	残*0.92	—
SK303	91E	SK130	V G5q	残0.50	残0.30	残0.28	城
SK304	91E	—	V G5q	残1.55	0.43	残0.09	—
SK305	91E	—	V G5q	0.49	0.46	0.35	—
SK306	91E	SK129	V G5q	残1.06	残0.83	残0.44	城
SK307	91E	—	V G5r	残*1.05	残0.25	残*0.57	—
SK308	91E	—	V G5r	残0.50	残0.38	残0.16	—
SK309	91E	SK112	V G5-6r	0.79	0.70	0.44	古4~6
SK310	91E	SK113	V G6r	残0.78	残0.45	残0.57	古4~6
SK311	91E	SK114	V G6s	残0.80	残0.27	残0.09	中
SK312	91E	SK120	V G6s	0.54	0.44	0.33	—
SK313	91E	SK116	V G6s	0.60	0.43	0.38	古5~6
SK314	91E	—	V G6s	0.50	0.43	?	—
SK315	91E	SK117	V G6s	残0.71	残0.42	残0.18	中
SK316	91E	—	V G6st	残0.44	残0.29	0.09	—
SK317	91E	SK118	V G6st	残0.58	残0.30	残0.17	古
SK318	91E	SK119	V G6t	残0.45	残0.38	残0.06	古
SK319	91E	SK123	V G6t	残1.19	残0.71	残0.29	古6
SK320	91E	SK124	V G6t	残1.11	残0.59	残0.20	—
SK321	91E	SK121	V G6t	残0.76	残0.47	残0.17	中
SK322	91E	SK134	V G6t	残1.89	残1.16	?	古5~6
SK323	91E	SK125	V G6t, V H6a	残0.79	残0.54	残0.23	中
SK324	91E	SK126	V H6a	残0.38	0.21	?	古
SK401	92A	SK105	ⅡG19a	残0.51	残0.41	残0.35	—
SK402	92A	SK106	ⅡG19a	0.48	0.34	0.35	—
SK403	92A	SK107	ⅡG19a	残0.64	0.46	0.33	—
SK404	92A	SK108	ⅡG19-20b	0.60	残0.42	0.35	—
SK405	92A	SK113	V G1f	残*1.23	残0.49	残*0.49	中
SK406	92A	SK112	V G1f	残*4.67	残0.73	残*1.11	中
SK407	92A	SK110	V G1g	残*0.86	残0.24	残*0.46	—
SK408	92A	SK111	V G1gh	残*3.82	残0.80	残*0.92	城Ⅱ1
SK409	92A	SK109	V G2i	残0.50	残0.41	残0.24	城

遺構番号	調査区	旧遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期
SK410	92B	—	V G3mn	残0.73	残*3.43	残*0.48	—
SK411	92B	SK73	V G3-4p	残0.63	残0.61	残*0.16	城
SK412	92B	SK74	V G4p	残*1.30	残0.38	残*0.29	城
SK413	92B	SK75	V G4q	残0.94	残0.61	0.22	城
SK414	92B	SK95	V G4r	残*0.92	残0.46	残*0.50	—
SK415	92B	Pit76	V G4r	0.42	0.41	0.07	—
SK416	92B	SK76	V G5t, V H5a	残2.15	残1.41	残*0.73	城Ⅰ1
SK417	91E	SK209	V G3j	残2.31	残0.92	残*0.51	城Ⅱ1
SK418	91E	SK210	V G3jk	残*1.72	残0.74	残*1.00	城Ⅰ2
SK419	91E	SK211	V G3k	残1.49	残0.28	残*0.69	城Ⅱ1
SK420	91E	Pit201	V G3k	残0.45	残0.30	?	城
SK421	91E	SK208	V G3-4k	残2.75	残1.30	残0.74	近
SK422	91E	SK204	V G5pq	残*2.14	残1.10	残*0.83	古6
SK423	91E	SK207	V G5q	残*1.60	残1.58	残*0.61	古7
SK424	91E	—	V G5qr	残0.89	残0.25	残0.34	—
SK425	91E	SK201	V G5r	残1.93	残0.40	残*0.61	古7
SK426	91E	SK205	V G6t	残0.77	残0.63	残0.10	古6
SK427	91E	SK202	V G6t	残1.89	残0.43	残0.31	古5~6
SK428	91E	—	V G6t	残0.88	残0.50	残0.26	—
SK429	91E	—	V H6a	残0.91	残0.31	残0.24	—
SK430	91E	—	V H6ab	残2.17	残0.71	残0.22	—
SK501	91E	—	V G5rs	残0.84	残0.56	残0.14	—
SK502	91E	—	V G5-6s	残1.47	残0.49	残0.15	—
SK503	91E	—	V H6a	0.67	0.50	0.08	—
SK601	90G	SK02	V H8-9hi	残1.61	残0.86	残0.78	古6
SK602	90G	SK01	V H9h	1.29	残0.92	残0.30	古4
SK603	90G	—	V H9i	0.41	0.33	0.11	—
SK604	90G	SK03	V H9ij	残1.43	残0.91	残0.12	—
SK605	90G	SK04	V H9j	0.80	0.58	0.18	—
SK606	90G	SK05	V H9jk	残1.30	残0.54	残0.62	城Ⅲ
SK607	90G	SK06	V H9k	1.95	1.61	0.46	城Ⅲ
SK608	90G	SK07	V H9l	1.63	0.70	0.14	城
SK609	90G	SK08	V H10l	残1.18	残0.67	残0.27	—
SK610	90H	SK01	V H12s	2.02	1.32	?	城Ⅰ2
SK611	90H	SK02	V H12s	残2.03	残0.97	*0.33	古2
SK612	90H	SK03	V H13rs	1.11	0.52	0.13	—
SK613	90H	SK05	V H13-14r	残3.81	残1.24	残0.24	城Ⅰ2
SK614	90H	SK04	V H13-14r	3.97	1.38	0.20	城
SK615	90H	SK07	V H14qr	2.57	残1.60	残0.31	中
SK616	90H	SK06	V H14r	残2.34	残1.55	残0.35	城Ⅲ1
SK617	90H	—	V H14r	残1.92	残1.43	0.23	—
SK618	90I	—	V H19d	残0.55	残0.23	残0.20	—
SK619	90I	SK04	V H19d	残1.22	残0.66	残*0.26	古一中
SK620	90I	SK01	V H19d	残3.78	残1.42	残*0.62	城
SK621	90I	SK08	V H19e	推1.18	0.58	0.15	—
SK622	90I	SK07	V H19e	残0.55	残0.18	0.09	—
SK623	90I	SK05	V H19e	残1.05	残0.15	*0.71	城
SK624	90I	SK03	V H19e	0.73	推0.40	0.16	城
SK625	90I	SK06	V H19e	0.60	推0.58	0.08	—
SK626	89G	SK01	V H19ef, 20e	残4.67	残1.80	残*0.57	城Ⅱ2
SK627	89G	Pit03	V H19e	残0.58	残0.27	残0.09	城
SK628	89G	Pit04	V H19-20ef	残0.89	残0.56	残0.11	—
SK629	89G	Pit06	V H20e	残0.53	残0.37	残0.01	—
SK630	89G	Pit07	V H20ef	残0.53	残0.50	残0.16	—
ST001	92B	SD01	V H5ab, 6b	残2.15	残8.68	残*1.31	現代
SX001	92A	SX06	V G1fg	残*9.94	残1.38	残*0.61	城Ⅱ1
SX001	92A	SX07					
SX201	92A	石集積	ⅡG20e				城-近

2. 遺物観察表

- 凡例 1. 計測値はcmで表示し、頭に「推」と記したものは復元推定値を、頭に「残」と記したものは残存した部分の数値をそれぞれ示している。
2. 残存率は口縁部の残存率を示す。

図版番号	登録番号	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	釉薬・調整/内面	釉薬・調整/外面	胎土	備考	残存率
1	91E-E-116	SB507	須恵器	壺B	推12.8	残6.5	—	回転ナテ	回転ナテ	橙色	口縁部自然袖掛る	4/12
2	92B-E-104	SB401	須恵器	杯蓋B	15.6	残1.9		回転ナテ	自然釉、回転ナテ+回転ヘラナズリ	青灰色	内側面磨減	2/12
3	92B-E-110	SB401	須恵器	杯蓋B	13.4	3.0		回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ+回転糸切り	赤褐色	紐～外側面磨減	2/12
4	92B-E-135	SB401	須恵器	杯蓋B	15.4	残2.2			ナテ+回転ヘラナズリ	黒灰色		4/12
5	92B-E-113	SB401	須恵器	杯A	11.6	3.5		回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ	暗灰褐色	外面腰部磨減、外底面ヘラ記号	11/12
6	92B-E-103	SB401	須恵器	椀A	11.8	3.6	6.2	回転ナテ	回転ナテ+回転糸切り	淡青灰色	口縁内面・外底面端部磨減	4/12
7	92B-E-101	SB401	須恵器	杯A	12.4	4.0	6.4	回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ	淡褐色	口縁・外面腰部磨減	4/12
8	92B-E-102	SB401	須恵器	杯B	17.6	4.2	13.7	回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ	灰黒色	口縁・外面腰部・高台磨減	4/12
9	92B-E-107	SB401	須恵器	盤B	11.4	残1.2	—	自然釉、回転ナテ	回転ナテ	灰黒～黒紫色		2/12
10	92B-E-112	SB401	須恵器	盤B	19.2	3.7	11.1	回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ	明赤褐色	内面・高台磨減	6/12
11	92B-E-106	SB401	須恵器	高盤	21.0	残1.7	—	自然釉、回転ナテ	回転ナテ	淡赤褐色	口縁少し磨減	2/12
12	92B-E-109	SB401	須恵器	鉢A	21.0	残4.4	—	回転ナテ	回転ナテ	暗灰色		3/12
13	92B-E-108	SB401	土師器	皿	—	—		ナテ+放射状暗文	ヨコ方向ヘラミナシ	浅黄褐色	畿内?	1/12
14	92B-E-111	SB401	土師器	甕C	17.0	残4.2		ヨコナメ(粗)ナテ	ヨコナテ+ナメナメ(粗)	灰白～淡赤灰色		3/12
15	91E-E-128	SB501	須恵器	杯蓋B	13.0	3.4		回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ	明赤褐色	内面頂部・紐部磨減	8/12
16	91E-E-140	SB501	須恵器	椀A	12.6	3.9	6.4	回転ナテ	回転ナテ+回転糸切り	暗褐色	口縁内面磨減	4/12
17	91E-E-138	SB501	須恵器	杯A	12.0	3.5		回転ナテ	回転ナテ+回転糸切り	淡青灰色	口縁内面磨減	1/12
18	91E-E-139	SB501	須恵器	盤B	19.4	残2.2	—	回転ナテ	回転ナテ	明赤褐色	口縁外面少し磨減	2/12
19	91E-E-145	SB501	土師器	甕	—	—			ナメナメ(粗)	灰白色	口縁内面磨減	1/12
20	91E-E-127	SB502	須恵器	杯蓋B	推16.8	残3.7		回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ	灰黒色	口縁端部磨減	2/12
21	91E-E-111	SB502	須恵器	蓋C	14.6	3.0	5.9	回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ+回転糸切り後ナテ	暗褐色	外面腰部磨減	12/12
22	91E-E-112	SB502	須恵器	杯A	12.3	3.3	5.8	回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ	暗灰褐色	外面腰部磨減、E-11とセット	12/12
23	91E-E-115	SB502	土師器	甕C	推21.8	残5.7	—	ヨコナメ+ヨコナメ(粗)	ヨコナメナメ(粗)	淡褐色	外側面薄く煤つく	10/12
24	91E-E-150	SB502	土師器	不明(脚部)	—	残15.6			ナメナメ(粗)	淡褐色	煤付着、底部へうで面取り	0/12
25	91E-E-110	SB402	須恵器	椀A	11.6	3.9	5.0	回転ナテ	回転ナテ+静止糸切り	暗灰色	外底面端部やや磨減	12/12
26	91E-E-109	SB402	須恵器	杯A	12.2	3.9	5.5	回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ	暗灰褐色	外底面端部磨減、一部自然袖掛る	12/12
27	91E-E-129	SB402	須恵器	盤B	推19.4	3.2	推9.5	回転ナテ	回転ナテ	明赤褐色	内側面・高台磨減	4/12
28	91E-E-124	包含層	土師器	甕C	16.3	残4.7	—	ヨコナメ+ヨコナメ	ヨコナテ+ナメナメ	淡赤褐色	口縁内面煤	1/12
29	91E-E-141	SB402	灰釉陶器	皿	—	残1.9	7.6	灰釉	回転ナテ+回転ヘラナズリ	灰白色		0/12
30	91E-E-144	SB402	須恵器	甕(把手)	—	—		ナテ		淡灰褐色		0/12
31	91E-E-135	SB402	土師器	甕C	—	残7.5	—	ナメナメ+ヨコナメナズリ	ナメナメ+ナメナメ	灰黒色		0/12
32	91E-E-143	SB402	須恵器	細頸壺	推7.0	残9.2	—	自然釉、回転ナテ+ナテナテ	回転ナテ+ヨコナテ	明赤色		12/12
33	90G-E-104	SB602	土師器	甕(把手)	—	—		ヨコナメ		灰白色	外面煤少し	0/12
34	91E-E-101	SB404	須恵器	杯A	推15.2	6.6		回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ	明灰色	外面腰部袖着痕、磨減若干	8/12
35	91E-E-151	SK425	土師器	不明(脚部)	—	残6.8			ナメナメ(粗)	淡褐色	煤付着、底部面取り	0/12
36	91E-E-147	SK425	土師器	甕C	21.0	残2.7		ヨコナメ	ヨコナテ+ナメナメ	褐色	頸部内面一部煤	1/12
37	91E-E-107	SD302	須恵器	横瓶	推10.4	残6.1	—	回転ナテ	回転ナテ+平行ナズリ	淡青灰色	頸部黒色の自然袖掛る、一部袖着物あり	4/12
38	90H-E-104	SK610	須恵器	椀A	11.6	3.9	5.8	回転ナテ+ナテ	回転ナテ+回転糸切り	暗灰色	内底面・外底面端部磨減	2/12
39	90H-E-101	SK610	須恵器	甕A	28.8	残12.4	—	回転ナテ+ナテ	回転ナテ+ナメナメナズリ	灰色	口縁～頸部内面黄土塗布	3/12
40	90H-E-102	SK611	須恵器	甕A	推46.8	残16.2	—	自然釉、回転ナテ	自然釉、回転ナテ	灰色	ヘラ描き文	2/12
41	90I-E-101	包含層	須恵器	杯蓋H	11.2	4.0		回転ナテ	自然釉(天井部)、回転ナテ+回転ヘラナズリ	灰黒色	磨減なし	5/12
42	90G-E-101	包含層	須恵器	杯H	10.0	残3.4		回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ	暗灰色	口縁磨減	1/12
43	91E-E-121	包含層	須恵器	杯A	推11.0	4.0	推4.4	回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ	灰色	口縁内面・外面腰部磨減	5/12
44	91E-E-126	包含層	須恵器	杯A	11.8	残4.1	—	回転ナテ	回転ナテ	淡黄褐色	口縁内面磨減	3/12
45	91E-E-137	包含層	須恵器	杯A	12.4	3.6		回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ+回転糸切り	淡褐～灰色	口縁内面・外底面端部磨減	4/12
46	92B-E-114	包含層	須恵器	杯蓋B	13.8	3.0				明褐色	内底面・紐磨減	9/12
47	92B-E-128	包含層	須恵器	杯蓋B	推13.6	3.2		回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ	淡青灰色	紐磨減	2/12
48	92B-E-127	包含層	須恵器	杯蓋B	推14.2	3.5		回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ	暗灰褐色	内面頂部・外側面磨減	1/12
49	92B-E-115	包含層	須恵器	杯蓋B	17.0	3.5		回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ	青紫色	内底面・口縁部・紐磨減	3/12
50	91E-E-108	SD102	須恵器	杯蓋B	推15.0	2.3		回転ナテ+ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ	セピア色	紐部若干磨減	1/12
51	92B-E-129	包含層	須恵器	杯蓋B	19.0	残2.6		回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ(丁寧)	明赤褐色	外側面磨減	3/12
52	91E-E-131	包含層	須恵器	杯蓋B	推20.6	2.6		回転ナテ+ナメナメ	自然釉	灰色	焼き歪、癒着あり	5/12
53	91E-E-122	包含層	須恵器	杯B	推9.7	4.5	推6.6	回転ナテ	自然釉、回転ナテ	淡赤褐色	口縁内面・高台磨減	1/12
54	92B-E-119	包含層	須恵器	杯B	15.8	3.9	11.4	自然釉、回転ナテ	回転ナテ+回転ヘラナズリ	灰色	内底面・高台磨減、内底面癒着、黒斑あり	4/12

図版番号	登録番号	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	釉薬・調整/内面	釉薬・調整/外面	胎土	備考	残存率
55	91E-E-132	包含層	須恵器	杯B	推15.9	3.9	推11.9	回転ナデ	回転ナデ+回転ヘラナズリ	淡褐色	口縁内面・高台磨減	1/12
56	92B-E-145	包含層	須恵器	杯B	17.1	5.1	11.8	回転ナデ	回転ナデ+回転ヘラナズリ	紫褐色	口縁・高台磨減	1/12
57	92B-E-125	包含層	須恵器	杯B	—	残1.7	推9.2	回転ナデ	回転ナデ+回転ヘラナズリ	暗紫色	高台磨減	0/12
58	91E-E-134	包含層	須恵器	杯B	—	残0.8	推11.8	回転ナデ	回転ヘラナズリ	淡褐色	内底面・高台磨減	0/12
59	92B-E-126	包含層	須恵器	盤B	—	残2.8	推9.0	回転ナデ	回転ナデ+回転ヘラナズリ	灰色	内面少し磨減	0/12
60	91E-E-130	包含層	須恵器	高盤	推36.0	残1.7	—	回転ナデ	回転ナデ+回転ヘラナズリ	明灰色		1/12
61	91E-E-123	包含層	須恵器	椀D	推17.2	5.4	推9.0	回転ナデ	回転ナデ+回転ヘラナズリ	赤橙色	口縁内面・高台磨減	2/12
62	91E-E-104	包含層	須恵器	椀B	推17.1	5.4	推9.2	—	回転ヘラナズリ	青灰色	内底面端部、高台磨減、黒斑若干あり	1/12
63	92B-E-131	包含層	灰釉陶器	長頸瓶	—	残4.5	9.9	自然釉、回転ナデ	自然釉、回転ヘラナズリ+回転ナデ	淡灰色	高台稜or葉痕あり	0/12
64	92B-E-120	包含層	須恵器	平瓶	15.7	15.8	14.8	回転ナデ	回転ナデ+回転ヘラナズリ	灰色		1/12
65	92B-E-140	包含層	須恵器	甌	推21.2	残9.7	—	回転ナデ	回転ナデ	暗赤褐色		1/12
66	92B-E-117	包含層	須恵器	甌	—	残4.7	推18.0	回転ナデ	回転ナデ	灰黒～赤褐色		0/12
67	91E-E-118	包含層	須恵器	椀D	推17.6	8.4	5.4	回転ナデ	回転ナデ+回転ヘラナズリ	灰色	口縁内面・高台磨減、調整はきわめて丁寧である	4/12
68	92B-E-130	包含層	灰釉陶器	椀	17.6	5.5	8.8	灰釉	ナデ+回転ヘラナズリ	灰白色		6/12
69	92B-E-132	包含層	灰釉陶器	椀	14.0	4.8	5.4	灰釉、回転ナデ	回転ナデ+回転ヘラナズリ	灰白色		5/12
70	91E-E-117	包含層	灰釉陶器	椀	推14.0	残4.5	—	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	黒斑あり	2/12
71	92B-E-133	包含層	灰釉陶器	椀	15.3	残3.7	—	灰釉	回転ヘラナズリ	淡灰褐色		2/12
72	92B-E-124	包含層	灰釉陶器	皿	—	残1.3	7.8	灰釉	回転ヘラナズリ	灰白色	角高台	0/12
73	91E-E-105	包含層	灰釉陶器	皿	—	残1.5	推8.2	灰釉(剝離)	回転ヘラナズリ+回転ナデ	灰白色	高台少し磨減、外面自然釉かかる	0/12
74	91E-E-103	包含層	灰釉陶器	椀	—	残2.2	推8.0	灰釉	回転ヘラナズリ+回転ナデ	灰白色	高台少し磨減	0/12
75	92B-E-144	包含層	灰釉陶器	皿	13.8	2.6	6.9	灰釉、回転ナデ	回転ナデ+回転ヘラナズリ	灰白色	ハケ塗り	4/12
76	91E-E-114	SK137	灰釉陶器	皿	14.8	2.9	7.4	灰釉	回転ナデ+回転ヘラナズリ	淡灰色	外側面～高台磨減	6/12
77	91E-E-120	SK098	灰釉陶器	皿	推12.5	2.6	推2.6	灰釉、回転ナデ	灰釉、回転ナデ	灰白色	浸け掛け 美濃	2/12
78	92B-E-134	包含層	灰釉陶器	段皿	14.7	2.5	7.1	灰釉、回転ナデ	回転ナデ+回転ヘラナズリ	暗灰色	釉気泡化	6/12
79	91E-E-106	包含層	灰釉陶器	小椀	—	残1.9	推5.0	灰釉	回転ナデ+回転系切り	淡灰色	高台少し磨減、黒斑少しあり	0/12
80	91E-E-119	SK098	灰釉陶器	皿	—	残2.0	5.9	灰釉、ナデ	回転ナデ	灰色	篠岡	0/12
81	90G-E-102	包含層	山茶椀	椀A1	17.2	5.2	8.0	自然釉、回転ナデ	回転ナデ+回転系切り	淡灰色	内底面・高台磨減、内底面煤	1/12
82	92B-E-143	包含層	山茶椀	椀	15.8	5.1	7.7	ヨコナデ+ナデオキ	ヨコナデ	灰白色	板圧痕、高台稜痕少し	1/12
83	90H-E-106	SK613	山茶椀	椀C	13.0	5.1	5.4	回転ナデ	回転ナデ+回転系切り	灰白色	口縁外面磨減、内底面煤、高台稜痕、均質手	1/12
84	91E-E-102	包含層	山茶椀	椀B2	推14.8	5.3	6.5	ナデ+オキ	椀殻痕	灰白色	内面磨減 瀬戸	3/12
85	90H-E-103	SK615	山茶椀	椀B2	15.0	5.1	6.0	回転ナデ+ナデ	回転ナデ+ナデ	灰白色	高台稜痕、外底面板目痕、黒斑あり	3/12
86	92A-E-101	包含層	山茶椀	椀	12.2	4.4	5.6	回転ナデ	回転ナデ+ナデ	灰白色	高台稜痕、黒斑多い 美濃	3/12
87	92B-E-138	SK043	山茶椀	皿	7.9	2.1	4.6	回転ナデ	回転ナデ+回転系切り	灰色	約1/3内外面とも煤	12/12
88	92B-E-136	SK045	山茶椀	皿	7.2	1.9	3.6	ナデ+回転系切り	ナデ+回転系切り	灰色	内面少し磨減 常滑	5/12
89	92B-E-137	SK048	山茶椀	皿	7.9	1.9	3.0	回転ナデ+回転系切り	回転ナデ+回転系切り	淡灰色	美濃	3/12
90	91E-E-113	SK091	山茶椀	皿C	7.9	1.4	4.9	回転ナデ+ナデ	回転ナデ+回転系切り	灰白色	内底面磨減、内側面一部自然釉 美濃	12/12
91	90H-E-105	SK615	山茶椀	皿C	8.0	1.1	5.8	回転ナデ+ナデ	回転ナデ+回転系切り	灰白色		8/12
92	90H-E-107	SK615	中国・青磁	蓮弁文椀	18.6	残4.7	—	—	片切彫	暗緑色	内側面少し磨減	1/12
93	91E-E-133	包含層	土師器	杯A	—	残1.5	推5.8	回転ナデ+ナデ	回転ナデ	明赤褐色	内底面磨減、外底面格子状圧痕あり	0/12
94	92B-E-121	包含層	土師器	杯	—	残1.5	—	ヨコ方向ヘラミダキ	不定方向ヘラミダキ	明赤褐色	畿内	0/12
95	91E-E-142	包含層	土師器	甕B	推11.9	残4.5	—	ナメハケ+ナデ+ヨコナデ	ヨコナデ+ナメハケ	明赤褐色	内面全面煤付着	1/12
96	90I-E-102	包含層	土師器	甕B	17.2	残7.5	—	ヨコナデ	ヨコナデ+ナメハケ	明赤褐色		1/12
97	90G-E-103	包含層	土師器	甕B	31.2	残5.5	—	ヨコナデ+ナメハケ	ヨコナデ+ナメハケ	淡褐色		1/12
98	92B-E-116	包含層	土師器	甕C	推15.6	残5.2	—	ヨコナデ(粗)+ヨコナデ	ヨコナデ+ナメハケ(粗)	灰白色		2/12
99	91E-E-125	包含層	土師器	甕C	21.6	残5.5	—	ヨコナデ(粗)+ナデ	ヨコナデ+ナメハケ(粗)	明赤褐色	内面やや黒色化	6/12
100	92B-E-118	包含層	土師器	甕C	推22.6	残3.9	—	ヨコナデ+ナデ	ヨコナデ+ナメハケ	乳白～黒色	内面黒色化	1/12
101	92B-E-142	包含層	土師器	甕C	16.3	残3.7	—	ヨコナデ	ヨコナデ+ナメハケ(粗)	淡褐色		2/12
102	92B-E-123	包含層	土師器	甕C	14.6	5.1	—	ヨコナデ(細)+ナデ	ヨコナデ+ナメハケ(粗)	赤褐色		1/12
103	92B-E-141	包含層	土師器	甕C	16.8	残4.6	—	ヨコナデ(粗)+ヨコナデ	ヨコナデ+ナメハケ(粗)	淡褐色		3/12
104	91E-E-146	包含層	土師器	甕C	—	残3.8	6.0	ナメハケ+ナデ	ナメハケ	淡褐色	外面煤	0/12
105	91E-E-136	包含層	土師器	甕C	—	残6.1	推6.8	ナメハケ+ナデ	ナメハケ+ナデ	淡褐色		0/12
106	92B-E-122	包含層	土師器	甕or甌？(把手)	—	—	—	ヨコナデ	—	灰白～淡赤褐色		0/12
107	91E-E-149	包含層	土師器	不明(脚部)	—	残14.7	—	—	ナメハケ(粗)	淡褐色	煤付着、底部へうで面取り	0/12
108	92B-E-139	包含層	土師器	甕H	推28.3	残5.6	—	ヨコナデ	ヨコナデ+ナメハケ	暗褐色	内外面煤少し	1/12
109	91E-E-148	SK321	土師器	鍾	—	—	—	—	—	暗褐色		12/12
110	92B-E-60	SK250	朝鮮	平碗	16.7	6.6	5.4	白化粧土+透明釉	白化粧土+透明釉	黒褐色	刷毛目茶碗	7/12
111	92B-E-61	SK250	朝鮮	德利	—	11.0	12.2	透明釉	透明釉	黒褐色	内面剝離あり	0/12
112	92B-E-59	SK250	常滑	甕	27.0	残14.3	—	指オキ	—	暗褐色	刻絵あり	2/12
113	92B-E-34	SK250	瀬戸美濃	天目茶椀	11.0	6.3	4.1	鉄釉	鉄釉+錆釉	灰白色		1/12
114	92B-E-33	SK250	瀬戸美濃	天目茶椀	12.2	6.1	4.2	鉄釉	鉄釉+錆釉	灰白色		5/12
115	92B-E-35	SK250	瀬戸美濃	緑釉皿	11.0	2.9	5.2	灰釉	灰釉	灰白色	口縁部に煤付着	6/12
116	92B-E-36	SK250	瀬戸美濃	緑釉皿	9.8	2.4	4.2	灰釉	灰釉	灰白色	内面朱の痕跡	7/12
117	92B-E-37	SK250	瀬戸美濃	緑釉皿	10.0	2.4	4.0	灰釉	灰釉	灰白色	内面朱の痕跡	3/12
118	92B-E-51	SK250	瀬戸美濃	香炉	5.7	3.1	3.8	鉄釉+露胎	鉄釉+露胎	黄白色		5/12
119	92B-E-65	SK250	瀬戸美濃	卸し皿	15.0	3.3	6.2	灰釉	灰釉	黄白色		1/12
120	92B-E-50	SK250	瀬戸美濃	蓋	13.0	0.8	—	錆釉	錆釉	黄白色		3/12
121	92B-E-64	SK250	瀬戸美濃	香炉	12.4	4.9	5.5	鉄釉	鉄釉	黄白色		4/12

清洲城下町遺跡

図版番号	登録番号	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	釉薬・調整/内面	釉薬・調整/外面	胎土	備考	残存率
122	92B-E-56	SK250	瀬戸美濃	浅鉢	23.0	8.0	8.4	鉄釉+露胎	鉄釉+露胎、ヘラケズリ	黄白色		4/12
123	92B-E-63	SK250	瀬戸美濃	筒形容器	15.4		残6.1	鉄釉+露胎	鉄釉	黄白色		9/12
124	92B-E-52	SK250	瀬戸美濃	筒形容器	15.4		残7.6	鉄釉	鉄釉	黄白色		4/12
125	92B-E-53	SK250	瀬戸美濃	筒形容器	22.0	残14.5		鉄釉	鉄釉	淡褐色		5/12
126	92B-E-54	SK250	瀬戸美濃	播鉢	29.6		残4.7	鉄釉	鉄釉	黄白色		1/12
127	92B-E-57	SK250	瀬戸美濃	甕	23.0		16.0	鉄釉	鉄釉	黄白色		6/12
128	92B-E-58	SK250	瀬戸美濃	四耳壺	12.0	44.5	16.3	露胎、ナデ+指ナメ	鉄釉+露胎、回転ヘラケズリ	黄白色	2本のねじり耳4カ所	12/12
129	92B-E-40	SK250	土師器	皿	13.0	2.4	6.8	ナデ	ナデ	黄白色	ワコ成形、内外面煤付着	5/12
130	92B-E-44	SK250	土師器	皿	10.2	1.7	4.4	ナデ	ナデ	黄白色	ワコ成形、内面煤付着	10/12
131	92B-E-43	SK250	土師器	皿	12.0	2.0	6.4	ナデ	ナデ	黄白色	ワコ成形	8/12
132	92B-E-38	SK250	土師器	皿	12.0	2.1	6.4	ナデ	ナデ	黄白色	ワコ成形	4/12
133	92B-E-41	SK250	土師器	皿	12.8	2.2	6.8	ナデ	ナデ	黄白色	ワコ成形	7/12
134	92B-E-47	SK250	土師器	皿	11.8	2.2	5.4	ナデ	底部圧痕ナデ	黄白色	ワコ成形	3/12
135	92B-E-48	SK250	土師器	皿	7.9	1.3	4.0	ナデ	ナデ	黄白色	ワコ成形、内面煤付着	1/12
136	92B-E-45	SK250	土師器	皿	7.8	1.4	4.2	ナデ	ナデ	黄白色	ワコ成形	3/12
137	92B-E-39	SK250	土師器	皿	7.6	1.5	4.0	ナデ	ナデ	黄白色	ワコ成形	2/12
138	92B-E-42	SK250	土師器	皿	7.0	1.4	3.6	ナデ	ナデ	黄白色	ワコ成形	2/12
139	92B-E-49	SK250	土師器	内耳鍋	21.4		残5.2		指ナメ+沈線	黄白色	全体煤付着	2/12
140	91E-E-30	SK119	瀬戸美濃	小椀	7.0	残2.6		鉄釉	鉄釉	黄白色		3/12
141	91E-E-31	SK119	土師器	皿	10.2	1.7		巾広に1回転ナデ	板状圧痕	黄灰色	非ワコ成形、口縁ケル付着	12/12
142	91E-E-33	SK119	土師器	皿	9.2	1.7		巾広に1回転ナデ	板状圧痕	黄灰～黒灰色	非ワコ成形、口縁ケル付着	1/12
143	91E-E-32	SK119	土師器	皿	10.3	1.7		巾広に1回転ナデ	板状圧痕	黄灰～黒灰色	非ワコ成形、口縁ケル付着	12/12
144	91D-E-19	SK067	瀬戸美濃	重圈皿	10.6	2.7	4.1	無釉	無釉、ナデ	黄色		6/12
145	91D-E-20	SK067	瀬戸美濃	重圈皿	10.6	2.6	4.3	無釉	無釉、ナデ	白～クリーム色	外底面墨書	6/12
146	91D-E-31	SK067	土師器	皿	18.3	3.1	9.4	横ナデ	回転系切り+板状圧痕	黄灰～淡褐色	ワコ成形	3/12
147	91D-E-22	SK067	土師器	皿	17.0	3.0	7.9	ナデ	ナデ	黄褐色	ワコ成形	2/12
148	91D-E-26	SK067	土師器	皿		残2.3	7.8	横ナデ	横ナデ	黄灰色	ワコ成形	0/12
149	91D-E-28	SK067	土師器	皿	9.3	1.5	6.0	横ナデ	横ナデ	黄灰色	ワコ成形、口縁ケル付着	2/12
150	91D-E-32	SK067	土師器	皿	8.0	1.0	5.4	ナデ	ナデ	灰黄色	ワコ成形、口縁ケル付着	6/12
151	91D-E-29	SK067	土師器	皿	5.6	1.2	3.5	横ナデ	横ナデ+指ナメ	黄灰色	非ワコ成形、外底面煤付着	3/12
152	91D-E-30	SK067	土師器	皿	6.1	1.2	4.6	横ナデ+方向ナデ?	横ナデ+ナメ	淡褐色	非ワコ成形	9/12
153	92A-E-2	SK024	瀬戸美濃	天目茶碗	12.4	残5.8		鉄釉	鉄釉+錆釉、回転ヘラケズリ	灰白～黄白色		4/12
154	92A-E-5	SK024	瀬戸美濃	台付椀	11.6	残4.1		鉄釉	鉄釉	黄白色	焦げ痕あり	3/12
155	92A-E-8	SK024	瀬戸美濃	天目茶碗	11.2	残4.9		鉄釉	鉄釉+露胎	黄灰色	口縁端部に重ね焼き痕	7/12
156	92A-E-4	SK024	瀬戸美濃	端反皿	9.8	2.3	5.0	灰釉	灰釉、ナデ	黄灰色	外底面輪ナデ痕	2/12
157	92A-E-3	SK024	瀬戸美濃	重圈皿	9.8	2.9	4.0	無釉	無釉、ナデ	淡褐色	口縁ケル付着、同心円文	2/12
158	92A-E-20	SK024	土師器	皿	11.4	2.7	6.0	横ナデ	横ナデ	黄褐色	ワコ成形、外底面墨書「七」	7/12
159	92A-E-18	SK024	土師器	皿	10.8	2.6	6.8	横ナデ	横ナデ	黄褐色	ワコ成形、外底面墨書「正月吉日」?	3/12
160	92A-E-19	SK024	土師器	皿		残1.6	6.4	横ナデ	横ナデ	暗黄灰色	ワコ成形、外底面墨書「口」	0/12
161	92A-E-21	SK024	土師器	皿	11.0	2.7	5.6	横ナデ	横ナデ	黄褐色	ワコ成形、外底面墨書「五口」	4/12
162	92A-E-12	SK024	土師器	皿	12.0	残3.1	7.8	横ナデ×2段	横ナデ	黄灰色	ワコ成形、内面に焦げ痕若干残る	30/12
163	92A-E-17	SK024	土師器	皿	12.0	7.6	2.8	横ナデ	横ナデ	灰褐色	ワコ成形、口縁ケル付着	10/12
164	92A-E-16	SK024	土師器	皿	11.8	2.3	7.2	横ナデ	回転系切り+板状圧痕	灰色	ワコ成形、口縁ケル付着	3/12
165	92A-E-15	SK024	土師器	皿	11.8	2.4	6.6	横ナデ	横ナデ	黄褐～黄灰色	ワコ成形、口縁ケル付着	7/12
166	92A-E-13	SK024	土師器	皿	10.7	2.3	5.6	ナデ	ナデ	灰褐色	ワコ成形、内側ケル付着	2/12
167	92A-E-10	SK024	土師器	皿	10.6	2.1	6.4	横ナデ	横ナデ	暗灰褐色	ワコ成形、焦げ痕あり	3/12
168	92A-E-9	SK024	土師器	皿	7.4	1.8	4.5	横ナデ	回転系切り+板状圧痕	黒褐色	ワコ成形、口縁ケル付着、全面焦げる	8/12
169	92A-E-14	SK024	土師器	皿	8.0	1.3	3.8	横ナデ	回転系切り+板状圧痕	黄灰色	ワコ成形	2/12
170	92A-E-6	SK024	土師器	皿	4.8	0.8		一方向ナデ	指ナメ	黄白色	非ワコ成形、焼成後穿孔	12/12
171	92A-E-7	SK024	土師器	皿	5.1	1.3		一方向ナデ	指ナメ	灰黄色	非ワコ成形	6/12
172	92A-E-25	SK024	中国・白磁	小椀		残1.5	2.2	透明釉+露胎	透明釉	白色		0/12
173	92A-E-1	SK024	瀬戸美濃	小壺		残5.0	4.2	鉄釉	鉄釉+露胎、ナデ	黄白～灰色	露胎部半分に煤付着	0/12
174	92A-E-11	SK024	瀬戸美濃	播鉢	31.1		残5.6	鉄釉	鉄釉	淡褐色	櫛目12本	2/12
175	92A-E-23	SK024	土師器	内耳鍋	26.6	残14.7		横ナメ	横ナデ+指ナメ+ヘラケズリ	灰褐色	内底面・外面煤付着	12/12
176	92A-E-22	SK024	土師器	羽付鍋	37.0	残20.3		指ナメ+ナデ+ナメ	指ナメ+ナデ+ヘラケズリ	黄灰色	内底面・外面鋤部以下煤付着	3/12
177	92A-E-24	SK024	土師器	焙烙鍋	34.2		残7.0	横ナメ	ナデ+指ナメ+ヘラケズリ+砂敷?	暗灰褐色	外面煤付着	9/12
178	91E-E-14	SK109	瀬戸美濃	天目茶碗	12.0	6.1	4.6	鉄釉	鉄釉+露胎	淡灰褐色	胎土に褐色土を用いる	5/12
179	91E-E-17	SK109	瀬戸美濃	緑釉皿	10.8	2.4	5.2	灰釉	灰釉	灰白色	外底面墨書「文」	4/12
180	91E-E-16	SK109	瀬戸美濃	端反皿	8.4	残2.4	4.0	灰釉、印花	灰釉	灰褐色		3/12
181	91E-E-15	SK109	中国・青花	皿	10.4	2.6	3.5	透明釉+呉須	透明釉+呉須+露胎	灰白～明褐色	漆継痕	4/12
182	91E-E-18	SK109	瀬戸美濃	丸皿	10.8	残2.2		灰釉	灰釉	黄灰色		4/12
183	91E-E-24	SK109	土師器	皿	6.4	1.2		ナデ	横ナデ+指圧痕	黄褐色	非ワコ成形	4/12
184	91E-E-23	SK109	土師器	皿	10.2	2.0	5.8	ナデ	ナデ	淡褐色	ワコ成形	2/12
185	91E-E-20	SK109	土師器	皿	14.0	2.5	5.6	ナデ	ナデ	淡褐色	ワコ成形、口縁ケル付着	1/12
186	91E-E-21	SK109	土師器	皿	14.2	2.0	9.4	ナデ	ナデ	淡褐色	ワコ成形	1/12
187	91E-E-19	SK109	土師器	皿	15.4	残3.1		ナデ	ナデ	暗黄灰色	ワコ成形、表面が若干こげている	3/12
188	91E-E-22	SK109	土師器	皿	16.8	3.2	9.2	ナデ	ナデ	暗黄褐色	ワコ成形	1/12
189	91E-E-27	SK109	瀬戸美濃	播鉢	31.0		残4.4	鉄釉	鉄釉	淡褐色	櫛目16本(3.1cm)	2/12
190	91E-E-26	SK109	瀬戸美濃	播鉢	33.0		残3.8	鉄釉	鉄釉	黄白色		2/12

図版番号	登録番号	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	釉薬・調整/内面	釉薬・調整/外面	胎土	備考	残存率
191	91E-E-25	SK109	瀬戸美濃	搥鉢	30.2	残12.2	—	錆釉	錆釉	黄灰色	櫛目20本(4.1cm)、内面磨減	1/12
192	91E-E-13	SK109	瀬戸美濃	瓶?	—	残3.9	—	錆釉	錆釉、ナデ+ヘラナズリ	明褐色		0/12
193	91E-E-28	SK109	瓦器	火鉢				ナズリ+ナデ+指圧痕+ヘラナズリ	ミヅナキ棒状工具横ナズリ+砂敷?	灰褐色		(2/12)
194	91D-E-1	包含層	瀬戸美濃	緑釉皿	10.4	2.2	5.2	灰釉	灰釉	黄白色	内面・外側面磨減	12/12
195	91D-E-2	包含層	瀬戸美濃	緑釉皿	10.0	2.1	4.4	灰釉	灰釉	黄白色	内底面トナ痕	12/12
196	91D-E-3	包含層	瀬戸美濃	緑釉皿	9.6	2.8	4.5	灰釉	灰釉	黄白色	内面少し磨減	12/12
197	91D-E-4	包含層	瀬戸美濃	緑釉皿	9.8	2.3	4.4	灰釉	灰釉	灰白色	内外面磨減、内底面トナ痕	12/12
198	91D-E-5	包含層	瀬戸美濃	緑釉皿	8.9	2.1	3.0	鉄釉	鉄釉	黄白色		12/12
199	91D-E-6	包含層	瀬戸美濃	重圈皿	10.2	2.9	6.2	無釉	無釉	灰褐色		7/12
200	91D-E-7	包含層	土師器	皿	6.5	1.2	5.0	横ナデ+一方向ナデ	横ナデ+指ナデ	黄灰色	非ロクロ成形	12/12
201	91D-E-8	包含層	土師器	皿	7.0	1.4	5.2	横ナデ+ナデ	横ナデ+指ナデ	黄褐色	非ロクロ成形、歪大きい	12/12
202	91D-E-9	包含層	土師器	皿	7.0	1.1	5.3	ナデ	横ナデ+指ナデ	黄褐色	非ロクロ成形	12/12
203	91D-E-10	包含層	土師器	皿	6.8	1.1	5.0	横ナデ+ナデ	横ナデ+指ナデ	淡褐色	非ロクロ成形	12/12
204	91E-E-6	SK417	瀬戸美濃	搥鉢		残2.8	—	錆釉	錆釉	黄褐色		1/12
205	91E-E-7	SK417	瀬戸美濃	平椀?	—	残1.6	—	灰釉	灰釉、回転ヘラナズリ	黄色		0/12
206	91E-E-29	SK417	瀬戸美濃	内耳鍋	23.4	12.0	12.1	錆釉、ナデ	ヘラナズリ+回転ヘラナズリ	黄白色	外底面こげ、片口下焼成後穿孔	1/12
207	91E-E-4	SK417	瀬戸美濃	内耳鍋	27.0	残10.7	—	錆釉	錆釉	灰白色	内面磨減、外面煤付着	3/12
208	91E-E-5	SK417	瀬戸美濃	内耳鍋	25.4	残10.0	—	錆釉	錆釉、ナズリ	黄白色	外面煤付着?	4/12
209	89G-E-1	SK626	瀬戸美濃	丸椀	10.0	5.6	4.0	長石釉	長石釉	灰白色	外面底部煤付着	12/12
210	89G-E-2	SK626	瀬戸美濃	小椀	7.6	残3.2	—	長石釉	長石釉	灰白色	外側面重ね焼き痕	3/12
211	89G-E-7	SK626	土師器	皿	10.6	2.1	7.0	横ナデ	回転糸切+板状圧痕	淡灰黄色	内外半面ナデ付着	3/12
212	89G-E-6	SK626	土師器	皿	5.3	1.0	—	ナデ	指ナデ	淡黄褐色	非ロクロ成形	10/12
213	89G-E-5	SK626	中国・青花	皿	10.4	3.2	6.8	透明釉+呉須	透明釉+呉須	白色	二次的に火を受ける?	3/12
214	89G-E-4	SK626	中国・青花	皿	11.0	2.4	6.6	透明釉+呉須	透明釉	白色		1/12
215	89G-E-3	SK626	中国・青花	大皿Ⅱ類	—	—	—	透明釉+呉須	透明釉+呉須	淡褐色		1/12
216	89G-E-8	SK626	瓦	丸瓦				ヘラナズリ+布目痕+縄痕	ナデ+ヘラナズリ	白色		—
217	91E-E-35	包含層	瀬戸美濃	台付椀	—	残1.6	5.6	錆釉	錆釉	黄褐～淡褐色	外底面墨書「鬼子母」	0/12
218	91E-E-34	包含層	土師器	壺?	—	残4.7	5.5	横ナデ	横ナデ	灰白～淡褐色		0/12
219	91D-E-36		瀬戸美濃	小椀	7.0	3.4	3.4	?釉	?釉、線刻	灰色	内面金属(銅?)付着	6/12
220	92A-E-27	包含層	中国・白磁	割高台皿	7.6	3.0	3.5	白磁釉?	白磁釉?、面取り	白色	口縁八角形、外底面墨書「口」	3/12
221	91D-E-34		瀬戸美濃	腰折皿	—	残1.1	2.3	灰釉	灰釉	灰白色	内底面トナ痕、外底面墨書「十」	0/12
222	92B-E-66	SK053	中国・青花	椀	13.2	残5.1	—	透明釉+呉須	透明釉+呉須	白色	口縁部欠	3/12
223	92B-E-68	包含層	土師器	焼塩壺	5.6	残6.3	—	横ナデ	ナデ	淡赤褐色		3/12
224	91D-E-16	—	瀬戸美濃	緒桶	29.2	残10.8	—	鉄釉	鉄釉	黄白色	籐張付・ヘラ状工具による文様	3/12
225	92B-E-69	包含層	常滑	筒形容器	24.0	残6.4	—	—	—	黒灰色	焼締、外面自然釉	2/12
226	90I-E-1	包含層	備前	盤	31.0	6.0	12.6	火漉	火漉、ナズリ	赤褐色	外側面重ね焼き痕	1/12
227	91D-E-37		瓦器	筒形容器	22.8	18.5	26.0	横ナデ	ミヅナキ棒状工具+砂敷	灰白色		3/12
281	92B-E-3	SK055	肥前・青磁染付	椀	—	残6.2	5.3	白磁釉+呉須	青磁釉+白磁釉+呉須	白色		0/12
282	92B-E-7	SK055	肥前・青磁染付	椀	11.2	6.2	4.0	透明釉+呉須	青磁釉+透明釉+呉須	灰白色		3/12
283	92B-E-2	SK055	瀬戸?	湯呑	8.6	6.0	3.2	透明(灰?)釉+呉須釉	透明(灰?)釉+呉須釉	乳白色		2/12
284	92B-E-5	SK055	瀬戸美濃	椀	8.7	5.8	3.9	鉄釉+灰釉	鉄釉+灰釉	黄白色		1/12
285	92B-E-4	SK055	瀬戸美濃	椀	—	残3.5	3.8	透明(灰)釉	透明(灰)釉	黄白色		0/12
286	92B-E-1	SK055	肥前・染付	皿	13.8	2.6	7.0	透明釉+呉須+露胎	透明釉+呉須、回転ヘラナズリ+砂敷	白色	内底面輪禿、重ね焼き痕	11/12
287	92B-E-6	SK055	瀬戸美濃	鍋	20.0	残7.4	—	柿釉	柿釉	黄白色		4/12
288	92B-E-9	SK055	瀬戸美濃	瓶掛	—	残6.2	17.8	錆釉(薄)	緑釉、ヘラナズリ	黄白色	内面磨減、外底面穴1箇所	0/12
289	92B-E-8	SK055	土師器	焙烙鍋	32.6	残4.3	—	?	ナデ+ナズリ?	明褐色	外底面スランプ、外面煤付着	1/12
290	92B-E-21	SE001	瀬戸美濃・染付	椀	10.0	5.0	3.2	透明釉+コバルト	透明釉+コバルト	白色	銅版プレス、コバルト染付	8/12
291	92B-E-29	SE001	肥前?・染付	椀	12.0	5.9	—	透明釉+呉須	透明釉+呉須	灰白色		7/12
292	92B-E-19	SE001	肥前・赤絵磁器	壺類?	—	残1.7	4.6	露胎	透明釉+赤絵	灰白色		0/12
293	92B-E-15	SE001	瀬戸美濃	椀	8.7	残4.2	—	透明(灰)釉	透明(灰)釉+呉須	灰白色		4/12
294	92B-E-30	SE001	瀬戸美濃・陶胎染付	湯呑	7.6	6.4	3.5	透明釉+呉須	透明釉+呉須	灰白色		5/12
295	92B-E-18	SE001	瀬戸美濃	灯明皿?	10.0	1.8	5.4	錆釉	錆釉、回転ヘラナズリ	灰褐色	内底面輪禿痕	8/12
296	92B-E-28	SE001	瀬戸美濃?・染付	皿	13.2	2.8	6.8	透明釉+呉須+露胎	透明釉	灰白色		1/12
297	92B-E-23	SE001	肥前・染付	蓋	6.4	残1.9	—	透明釉	透明釉+呉須	白色	蛸唐草文	6/12
298	92B-E-24	SE001	肥前・染付	蓋	6.1	2.1	—	透明釉	透明釉+呉須	白色	蛸唐草文	6/12
299	92B-E-20	SE001	瀬戸美濃	仏具	—	残1.8	4.4	?	露胎	黄白色		0/12
300	92B-E-16	SE001	瀬戸美濃	土瓶	9.2	残5.7	—	灰釉+透明釉(薄)	灰釉	灰白色		2/12
301	92B-E-26	SE001	瀬戸美濃	徳利	3.7	残8.5	—	鉛釉?	鉛釉?	灰白色	尾呂徳利?	7/12
302	92B-E-27	SE001	瀬戸美濃	花瓶	—	残11.5	9.8	灰釉	灰釉+錆釉	灰色		0/12
303	92B-E-12	包含層	瀬戸美濃	湯呑	9.5	6.0	3.8	灰釉	灰釉+鉄釉	灰白色		2/12

清洲城下町遺跡

図版番号	登録番号	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	釉薬・調整／内面	釉薬・調整／外面	胎土	備考	残存率
304	92B-E-11	包含層	?・染付	皿	11.9	2.5	7.3	透明釉+呉須	透明釉+呉須+露胎、 回転ハナズリ	黄灰色	外底面輪切痕	12/12
305	92B-E-13	包含層	瀬戸美濃	搦鉢	33.0	残8.2	—	錆釉	錆釉	黄色	櫛目9本以上	2/12
306	92B-E-14	包含層	瀬戸美濃	筒形容器	25.4	残8.8	—	鉄釉	鉄釉	黄白色		3/12
307	92B-E-25	SE003	肥前・染付	杯	6.4	5.3	3.4	透明釉+呉須	透明釉+呉須	白色	口紅、銘「成化年製」	2/12
308	91D-E-15	SD005	瀬戸美濃	香炉?	—	残3.5	7.6	露胎	灰釉+緑釉+露胎、回 転ハナズリ	黄白色	近世、脚1ヶ残	0/12
309	91D-E-17	SD005	瀬戸美濃	瓶(汁次)	4.6	10.6	7.2	鉄釉+露胎	鉄釉+灰釉流し+露胎、 ハナズリ後横ナデ	黄白色		12/12
310	92B-E-10	SK042	瀬戸美濃	搦鉢	34.4	残12.5	—	鉄(錆)釉	鉄(錆)釉、ナデハナズリ	黄色	櫛目21本(4.6cm)、片口あり	2/12

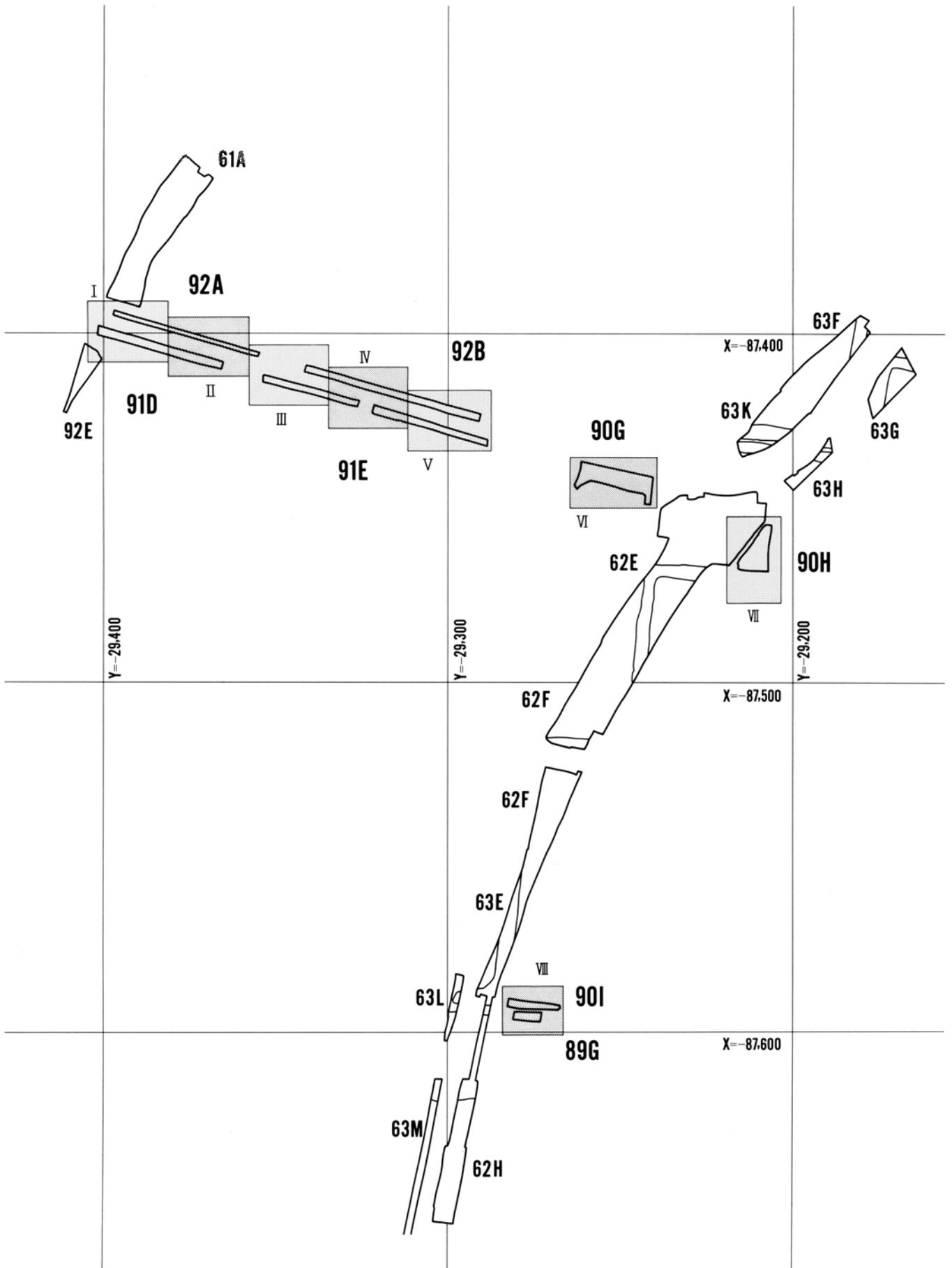
図版番号	登録番号	遺構番号	種別	材質	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)
228	89G-W-1	SK626	柿経	—	残26.0	3.3	—
229	89G-W-2	SK626	柿経	—	残28.5	3.5	—
230	89G-W-3	SK626	柿経	—	残27.0	3.5	—
231	89G-W-4	SK626	柿経	—	残27.0	3.5	—
232	89G-W-5	SK626	柿経	—	残27.0	3.3	—
233	89G-W-6	SK626	柿経	—	残26.5	3.6	—
234	89G-W-7	SK626	柿経	—	残25.0	3.5	—
235	89G-W-8	SK626	柿経	—	残25.0	3.5	—
236	89G-W-9	SK626	柿経	—	残25.5	3.5	—
237	89G-W-10	SK626	柿経	—	残20.0	3.5	—
238	89G-W-11	SK626	柿経	—	残19.5	3.5	—
239	89G-W-12	SK626	柿経	—	残16.5	3.5	—
240	89G-W-13	SK626	柿経	—	残16.0	3.8	—
241	89G-W-14	SK626	柿経	—	残16.5	3.7	—
242	89G-W-15	SK626	柿経	—	残16.5	3.6	—
243	89G-W-16	SK626	柿経	—	残16.0	3.6	—
244	89G-W-17	SK626	柿経	—	残16.0	3.6	—
245	89G-W-18	SK626	柿経	—	残15.5	3.7	—
246	89G-W-19	SK626	柿経	—	残18.5	3.5	—
247	89G-W-20	SK626	柿経	—	残18.6	3.6	—
248	89G-W-21	SK626	柿経	—	残18.5	3.5	—
249	89G-W-22	SK626	柿経	—	残19.0	3.8	—
250	89G-W-23	SK626	柿経	—	残18.8	3.8	—
251	89G-W-24	SK626	柿経	—	残19.0	3.8	—
252	89G-W-25	SK626	柿経	—	残19.0	3.7	—
253	89G-W-26	SK626	柿経	—	残34.0	3.5	—

図版番号	登録番号	遺構番号	種別	材質	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)
254	89G-W-27	SK626	柿経	—	残33.5	3.5	—
255	89G-W-28	SK626	柿経	—	残34.0	3.6	—
256	89G-W-29	SK626	柿経	—	残34.2	3.5	—
257	89G-W-30	SK626	柿経	—	残24.4	3.5	—
258	89G-W-31	SK626	柿経	—	残24.7	3.6	—
259	89G-W-32	SK626	柿経	—	残24.5	3.7	—
260	89G-W-33	SK626	柿経	—	残24.5	3.6	—
261	89G-W-34	SK626	柿経	—	残24.2	3.5	—
262	89G-W-35	SK626	柿経	—	残24.2	3.5	—
263	89G-W-36	SK626	柿経	—	残19.2	3.5	—
264	89G-W-37	SK626	柿経	—	残19.0	3.4	—
265	89G-W-38	SK626	柿経	—	残19.0	3.6	—
267	89G-W-39	SK626	柿経	—	残18.8	3.5	—
268	91D-S-4	包含層	硯	泥質凝灰岩	残6.5	6.0	0.8
269	92B-S-2	包含層	硯	泥質凝灰岩	残5.9	6.0	1.6
270	92A-S-1	包含層	硯	凝灰岩	残8.8	残9.9	1.5
271	91D-S-3	SD006	砥石	凝灰岩	6.5	1.7	2.0
272	91D-S-2	包含層	砥石	泥質凝灰岩	残7.2	残3.8	残0.5
273	91D-S-1	SK270	砥石	凝灰岩	残8.8	5.1	1.0
274	92B-S-1	包含層	砥石	泥質凝灰岩	6.1	残4.0	1.1
275	91E-S-2	SK421	砥石	泥岩	残17.2	5.0	2.3
276	91D-S-5	包含層	石臼	礫岩	—	残7.6	残5.3
277	91D-S-6	SK270	石臼	ハナズリ岩	—	—	残4.0
278	91D-S-7	包含層	石臼	ハナズリ岩	—	—	1.8
279	91E-S-1	SK110	宝篋印塔	安山岩	残26.7	10.3	10.1
280	92B-S-4	SK250	宝篋印塔	礫岩	残21.7	26.7	16.2

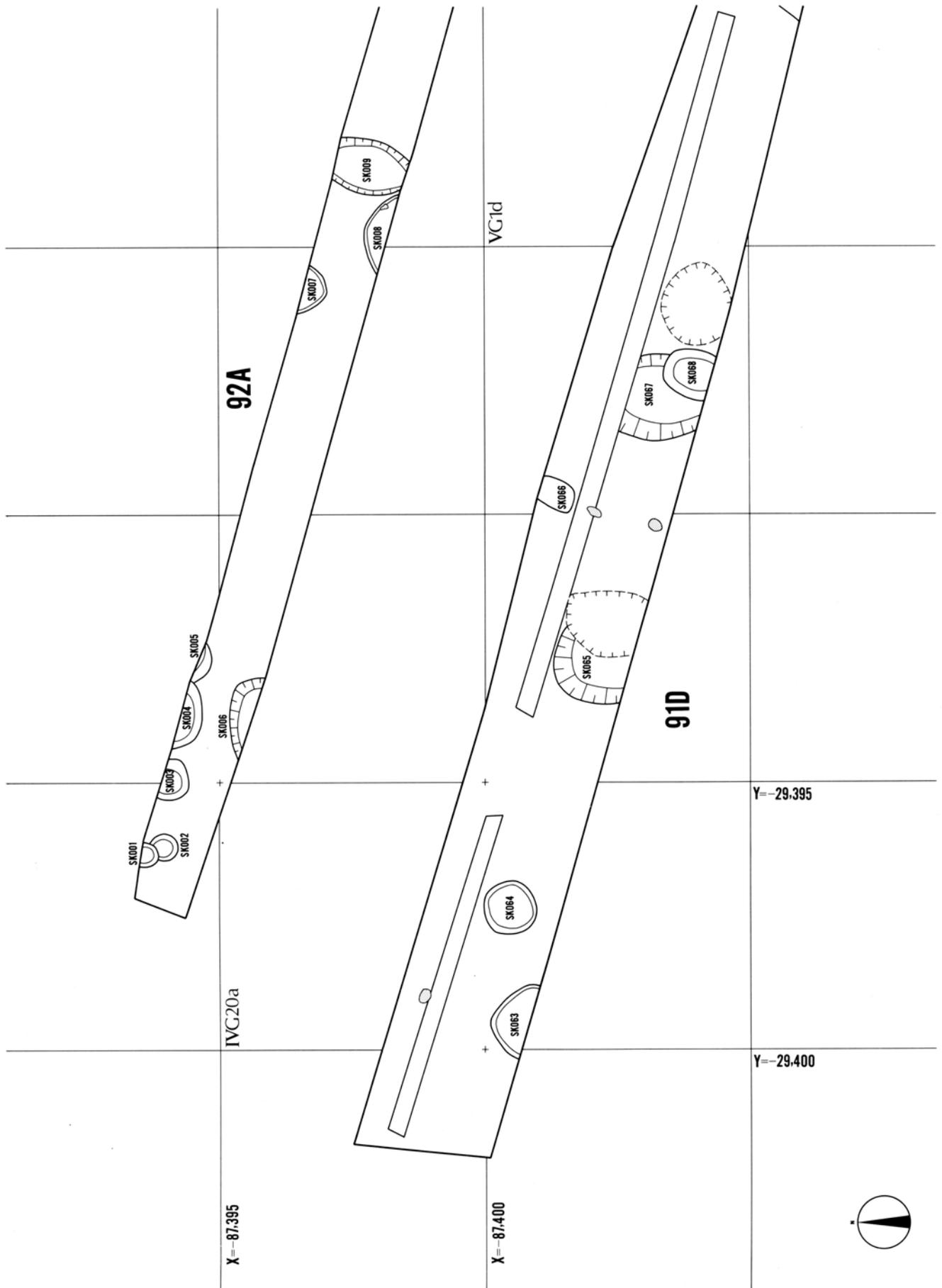
図 版

調査区位置図 S = 1 : 1500

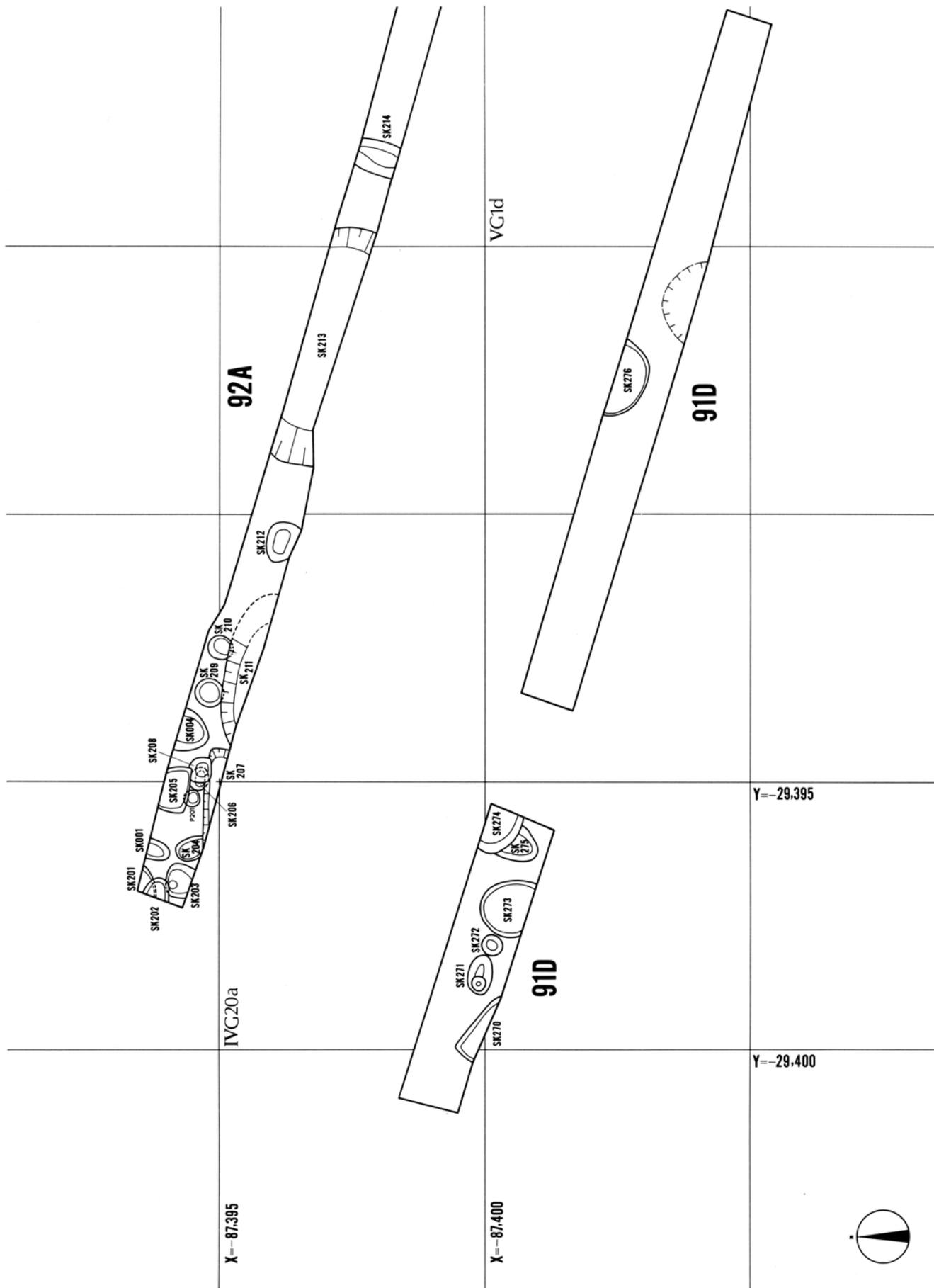
遺構図 S = 1 : 200



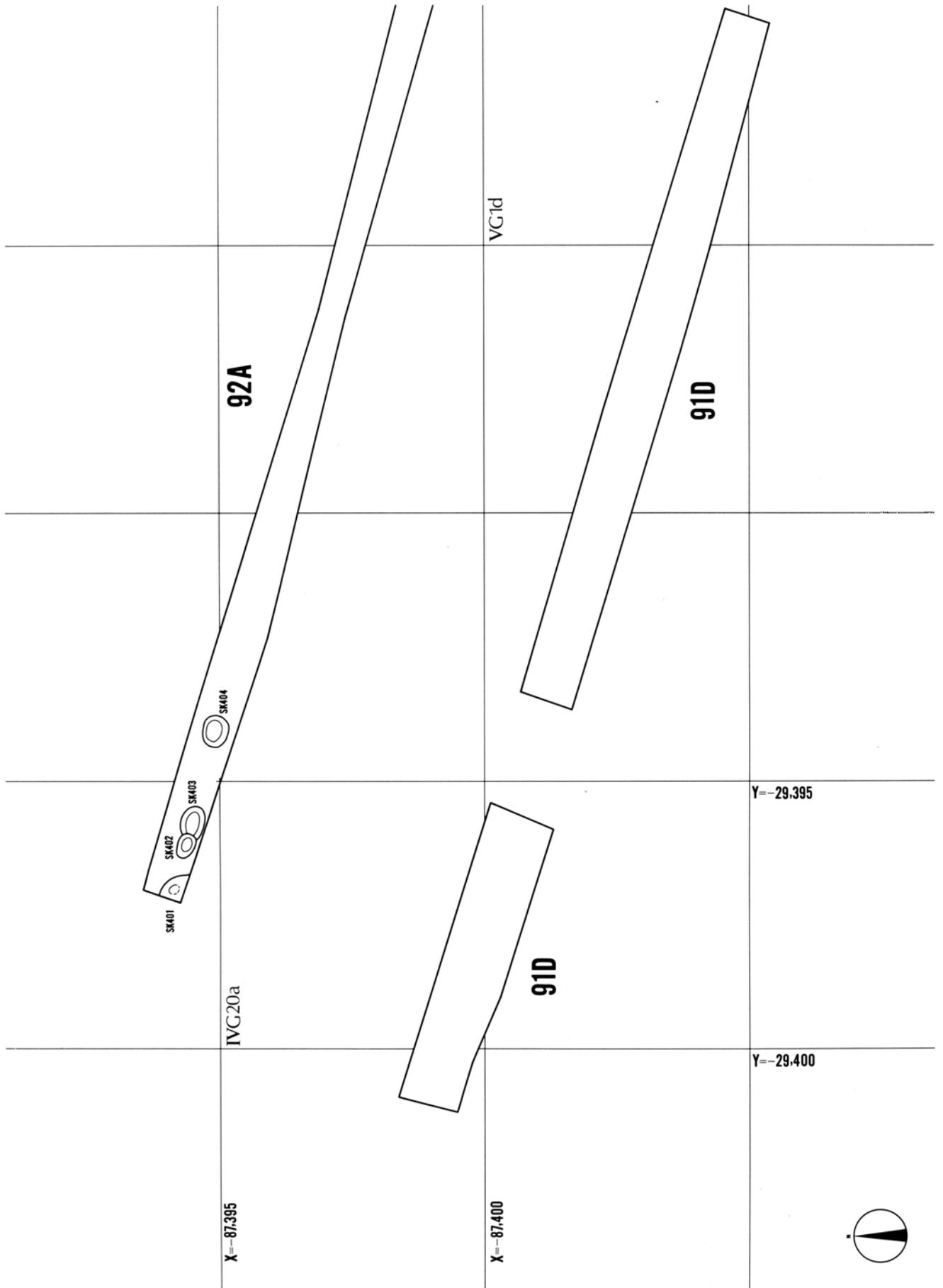
図版1 調査区位置図



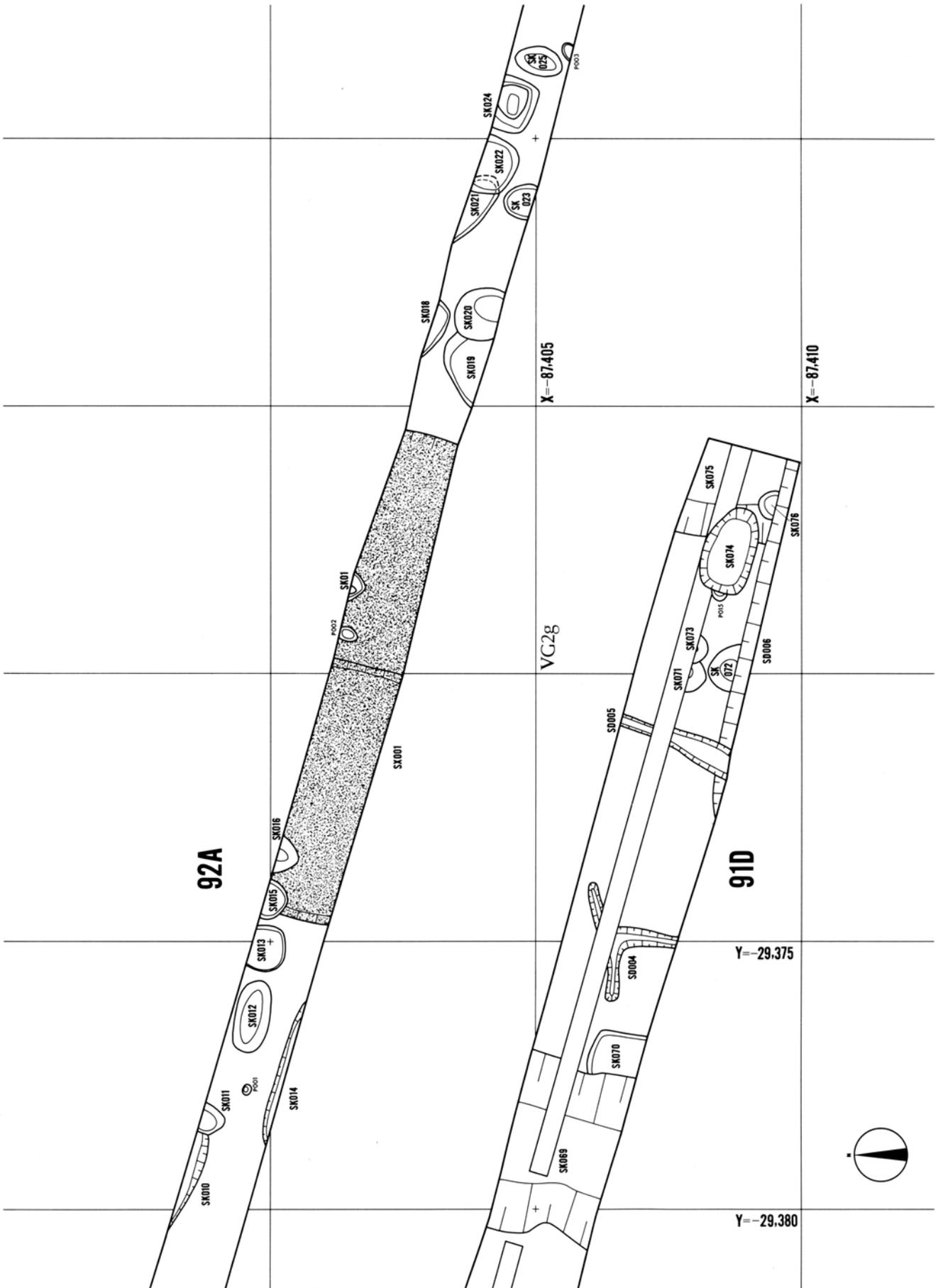
図版 2 遺構図 I (第 1 面)



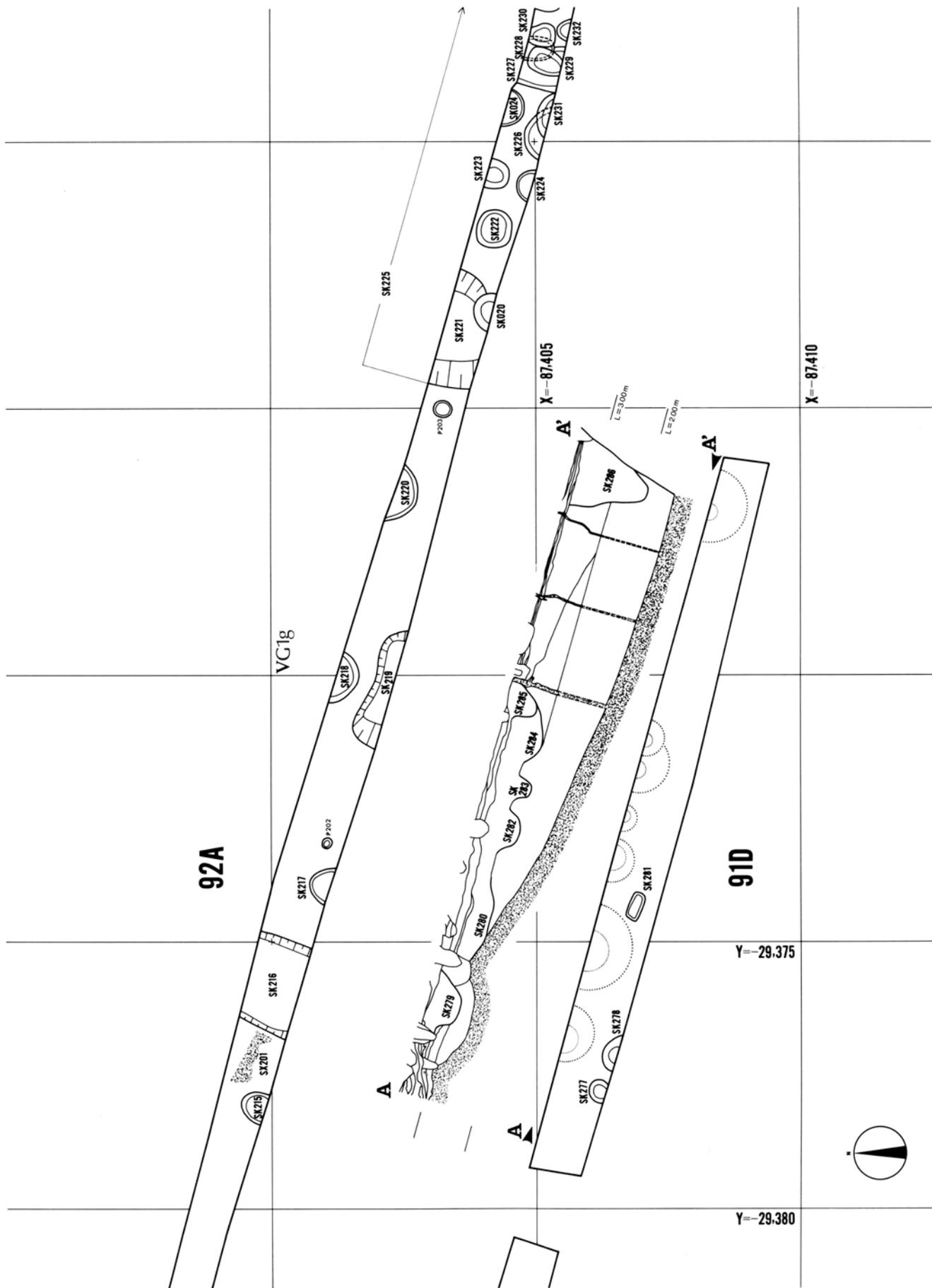
図版3 遺構図I (第2面)



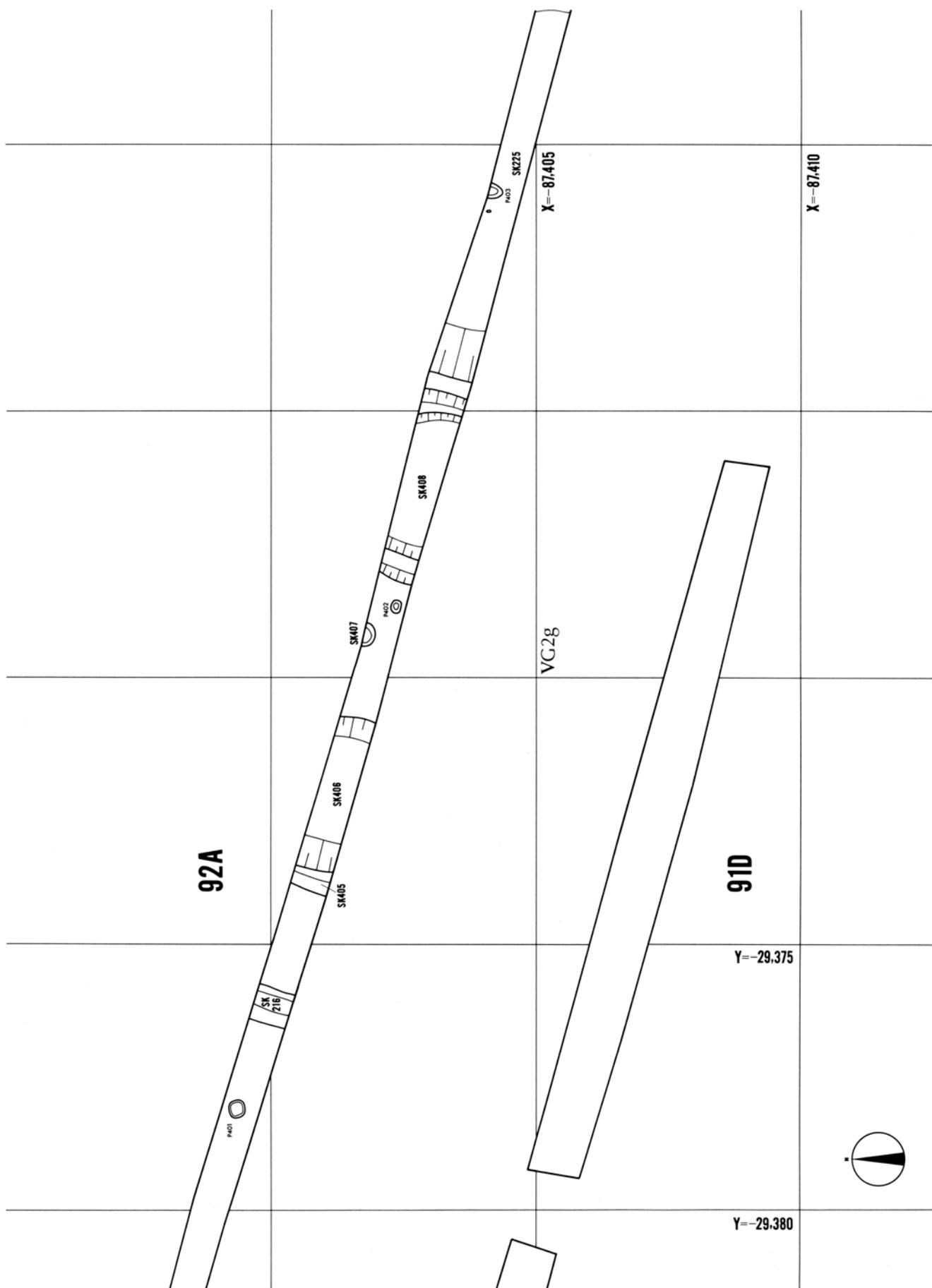
図版 4 遺構図 I (第 3 面)



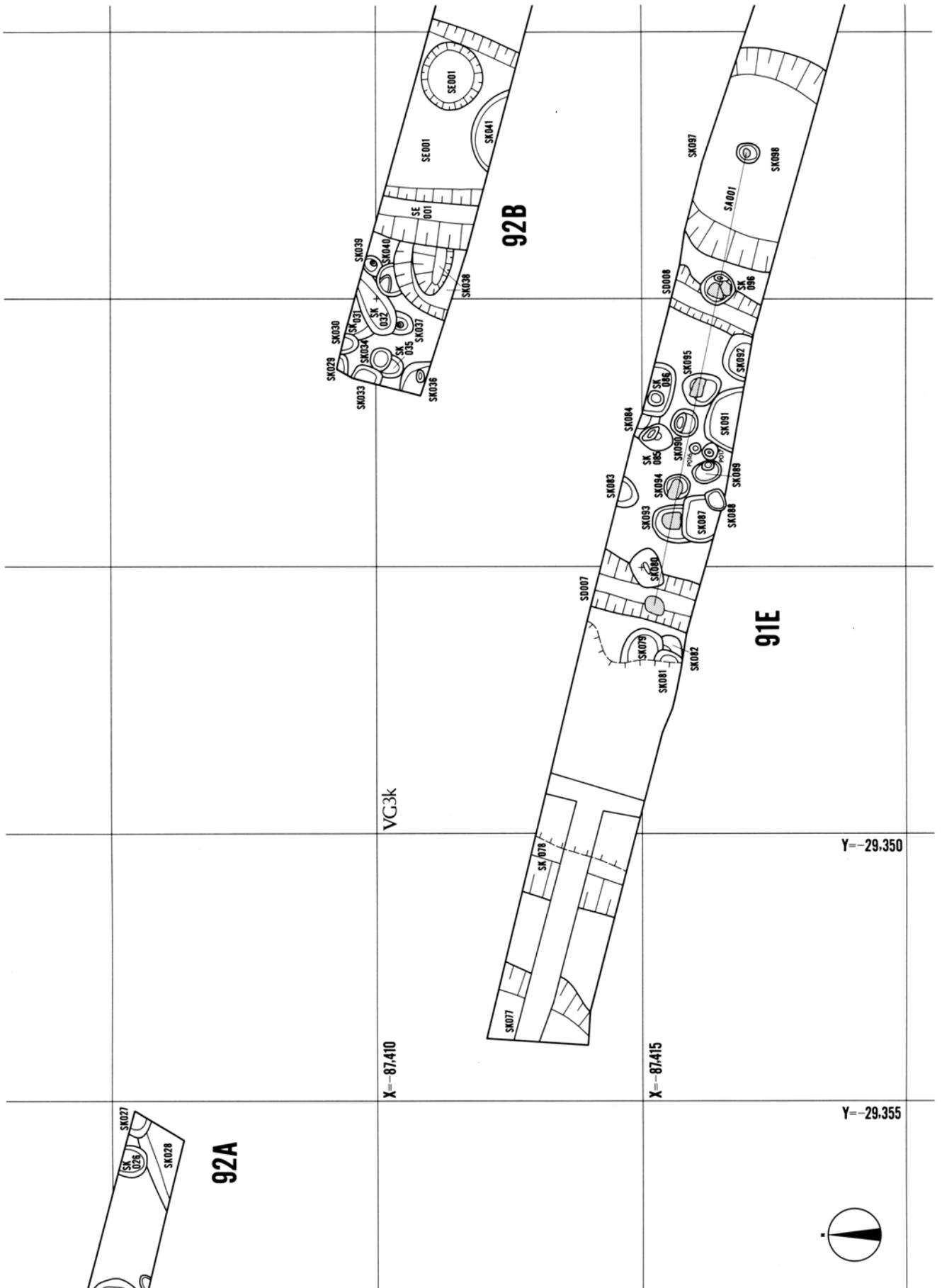
図版5 遺構図Ⅱ (第1面)



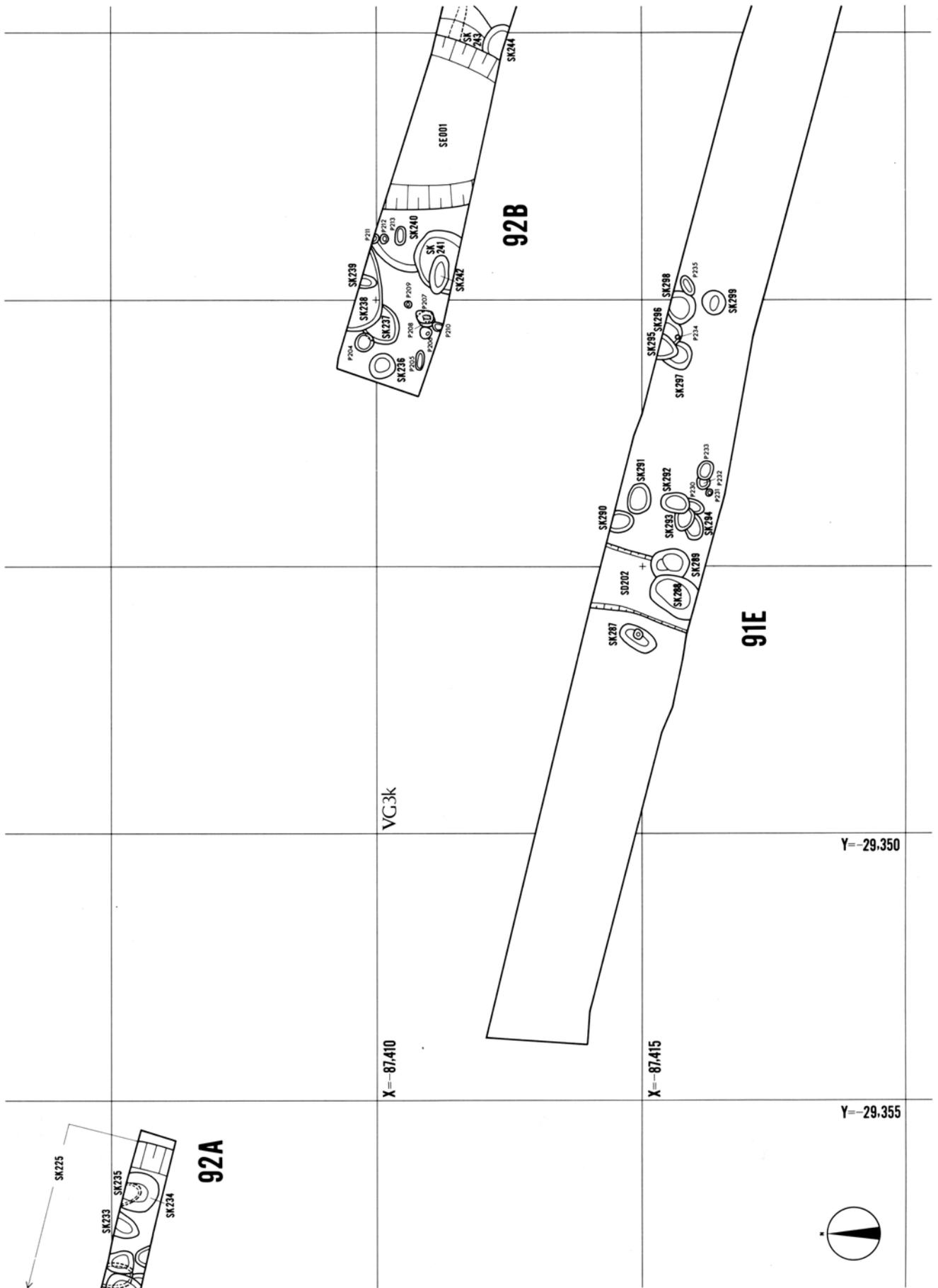
図版6 遺構図II (第2面)



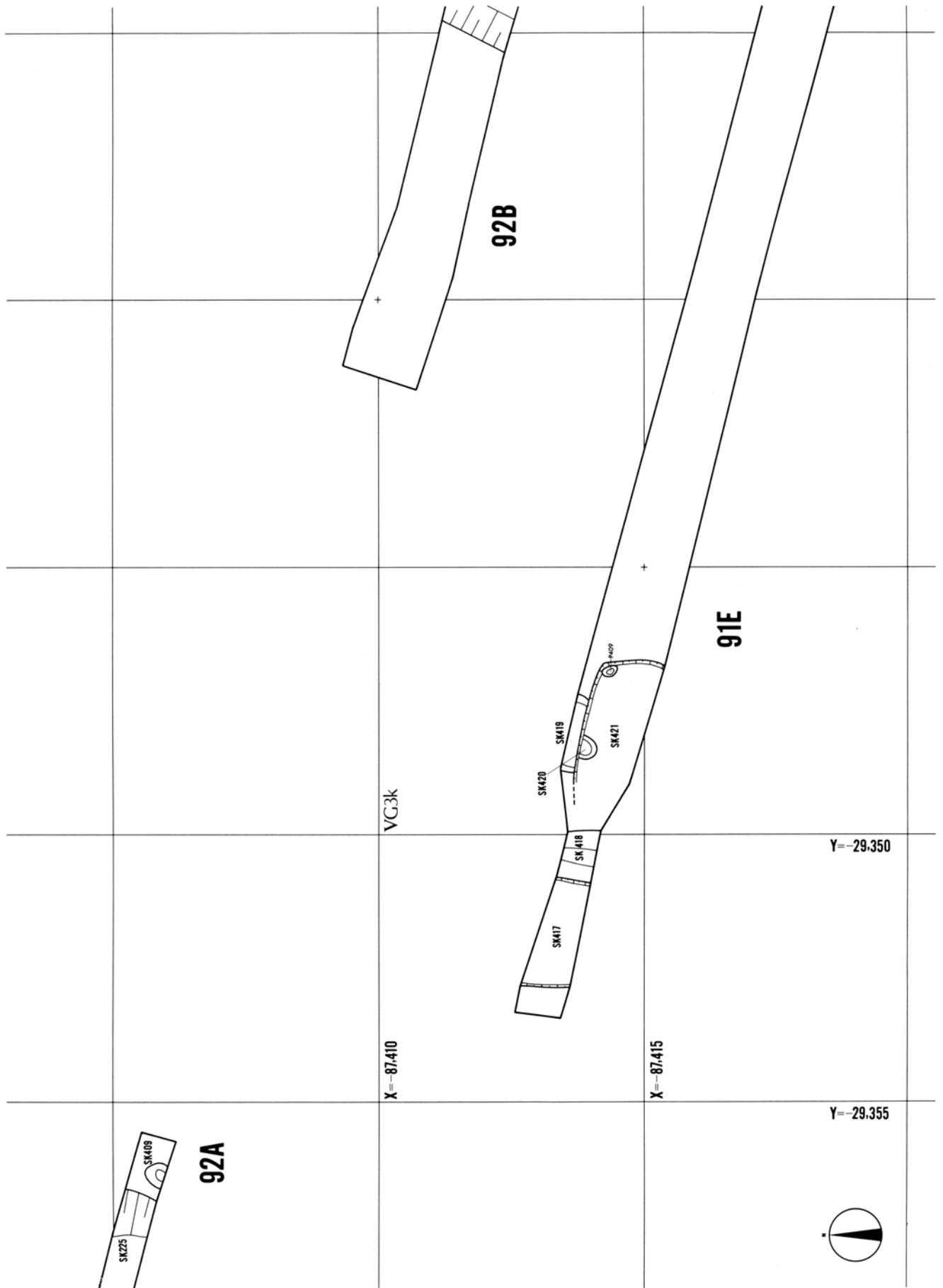
図版7 遺構図Ⅱ (第3面)



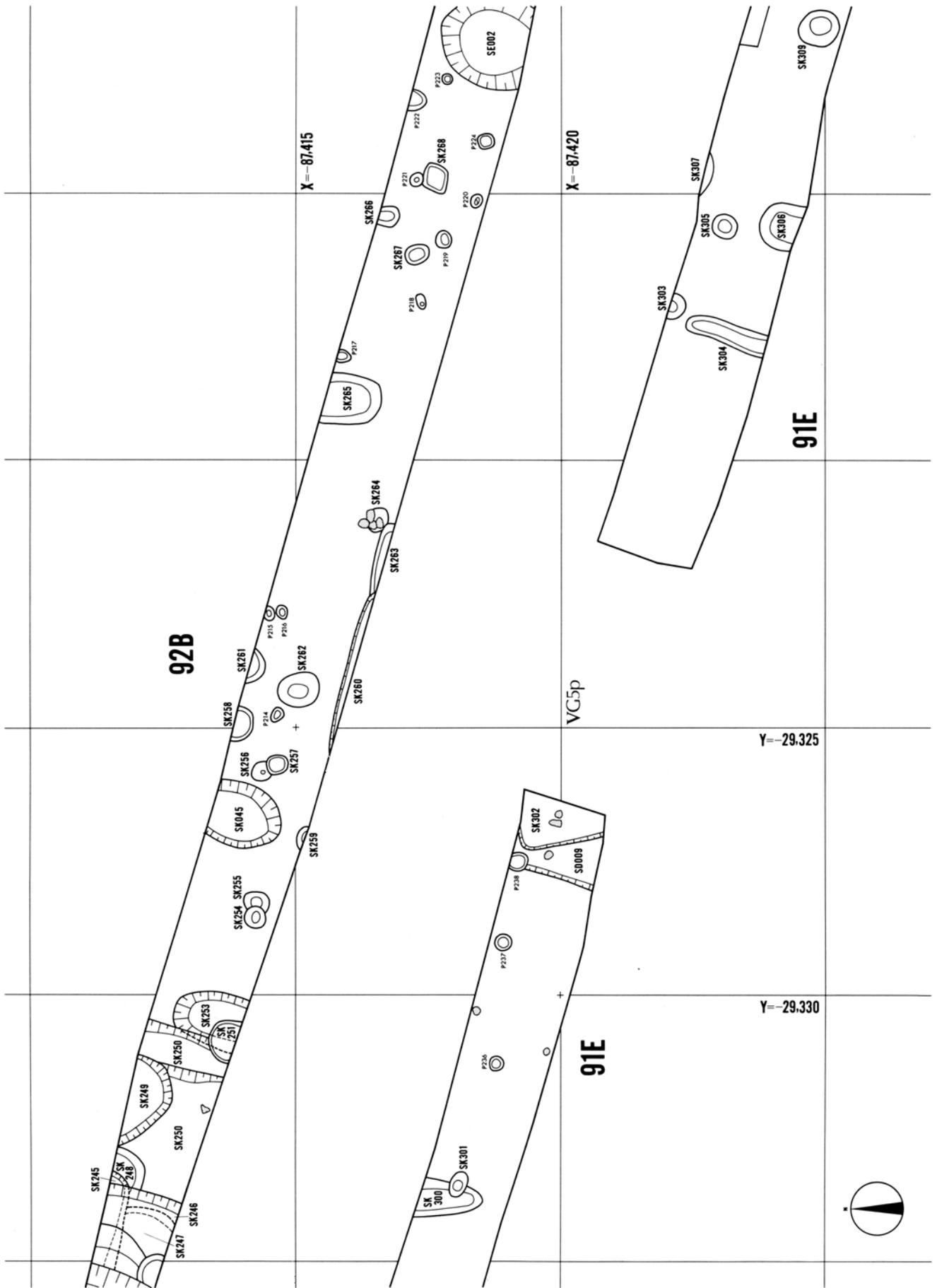
図版 8 遺構図Ⅲ (第 1 面)



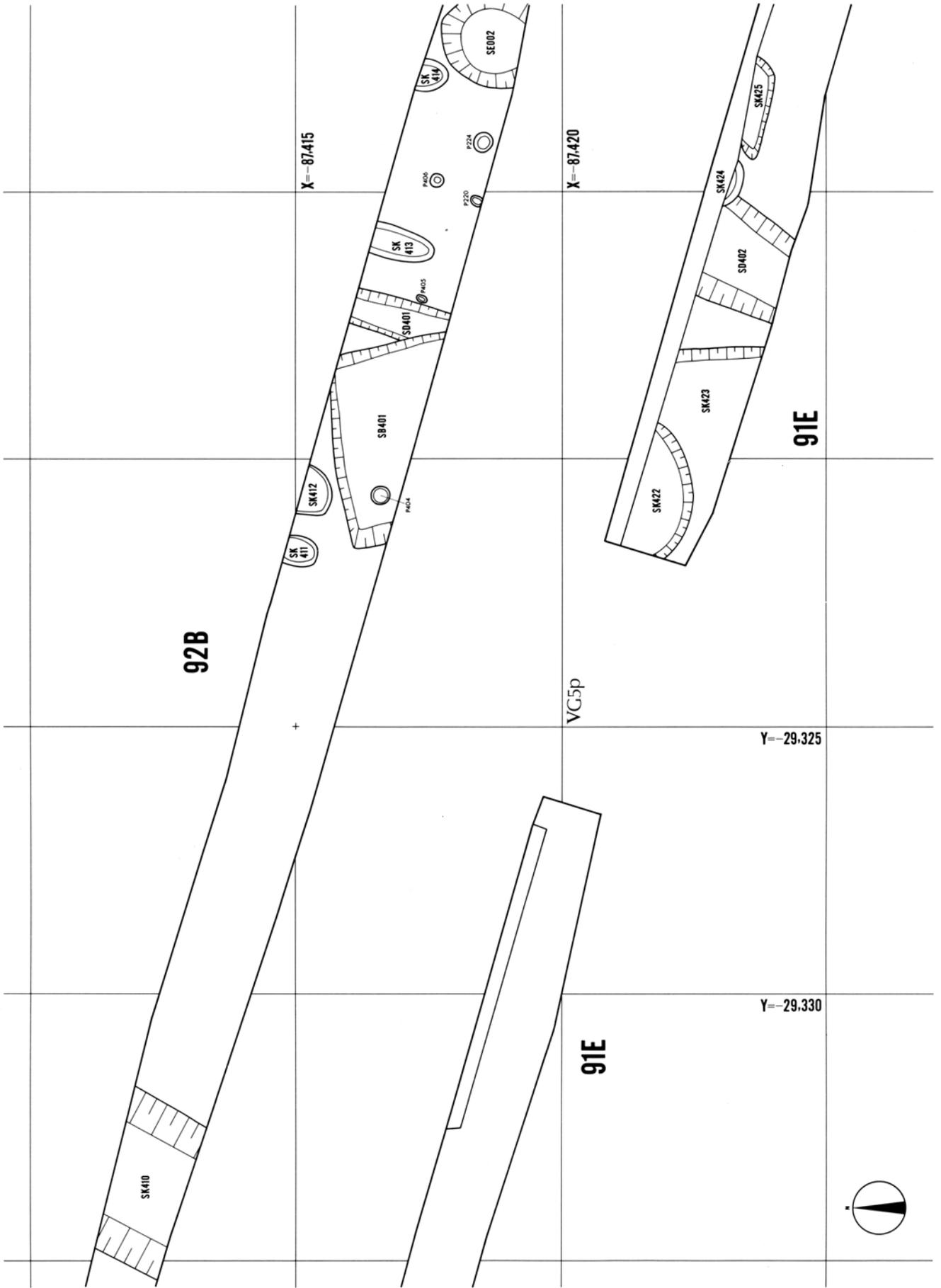
図版9 遺構図Ⅲ (第2面)



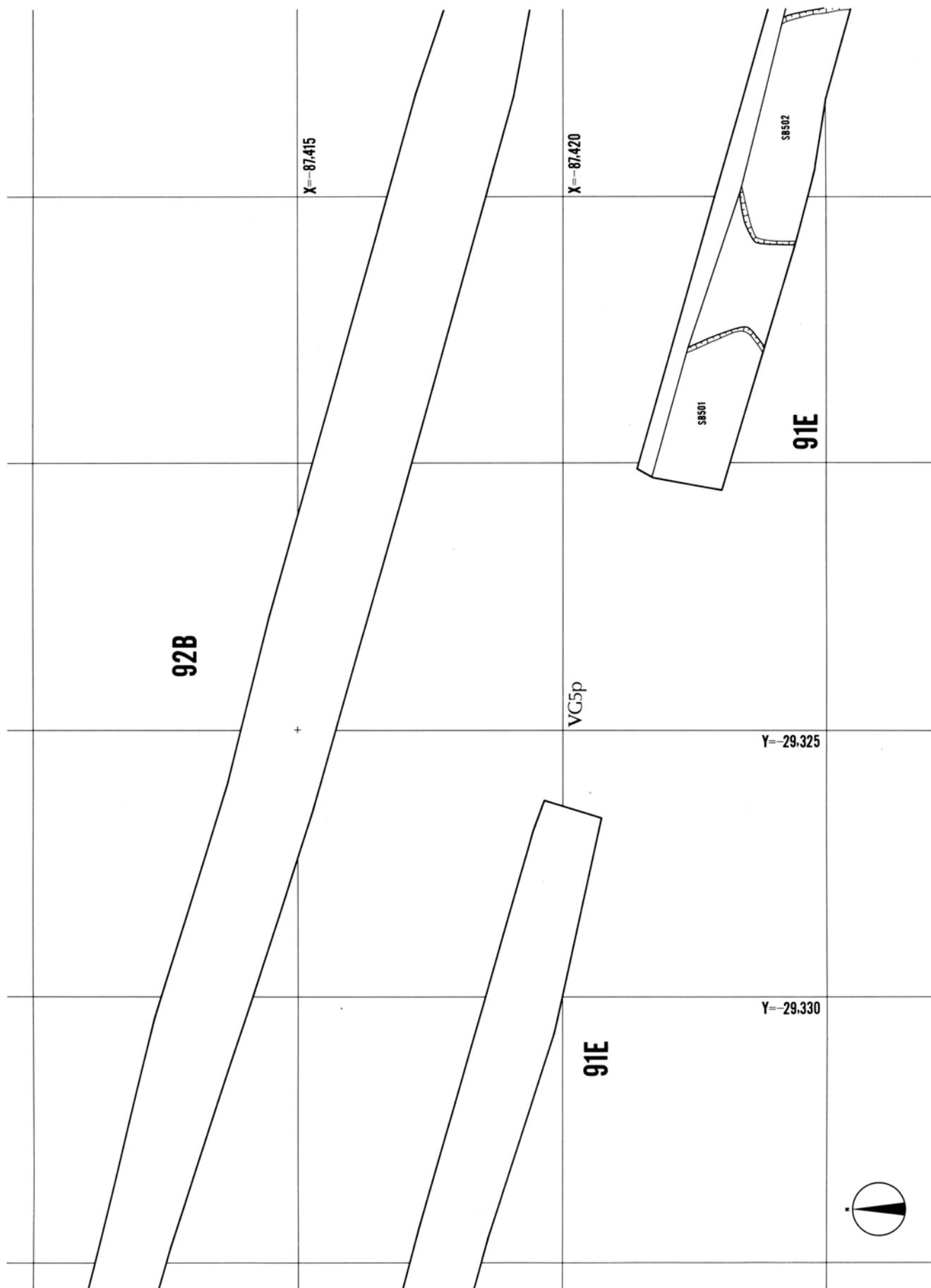
図版10 遺構図Ⅲ (第3面)



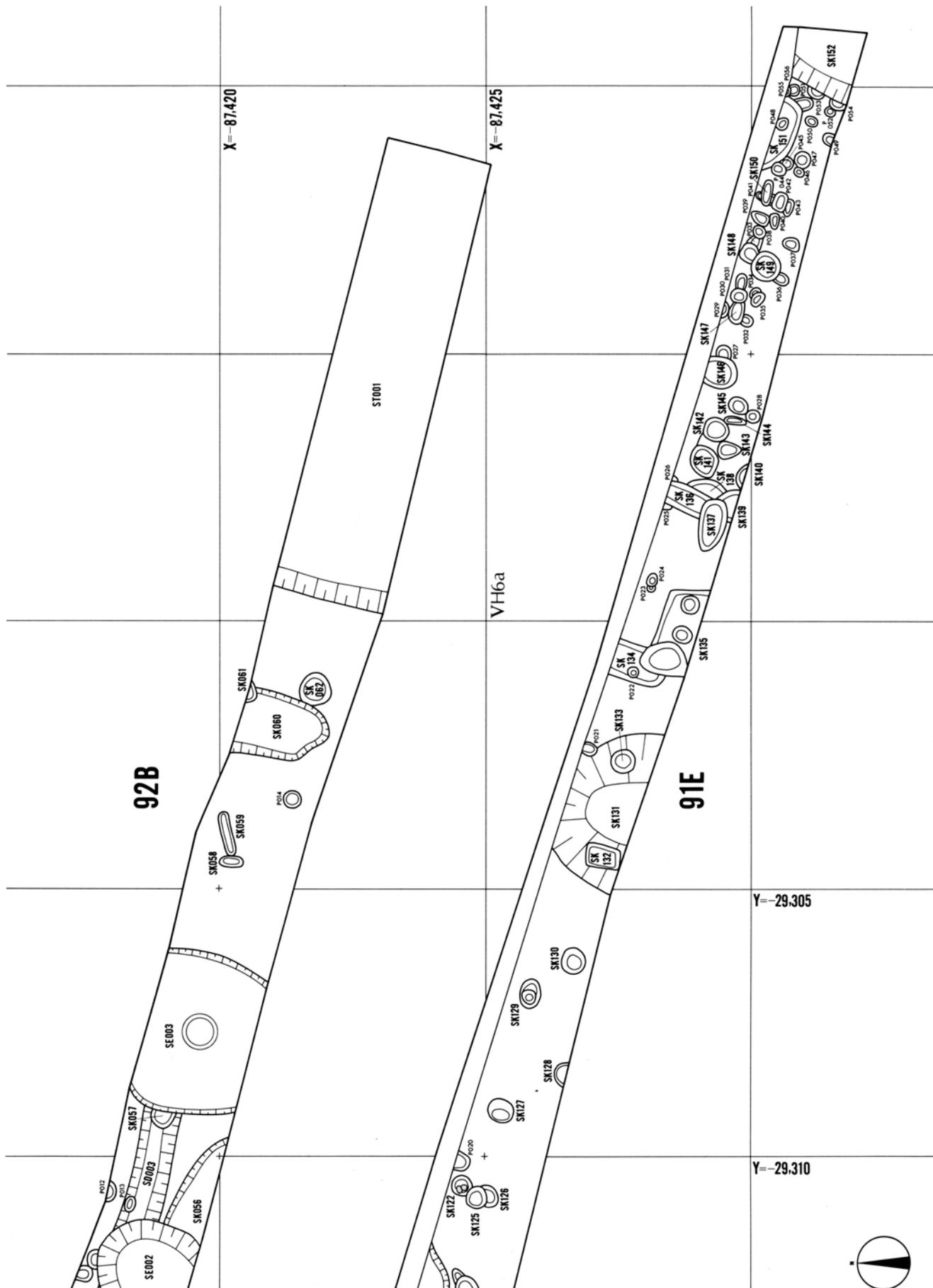
図版12 遺構図Ⅳ (第2面)



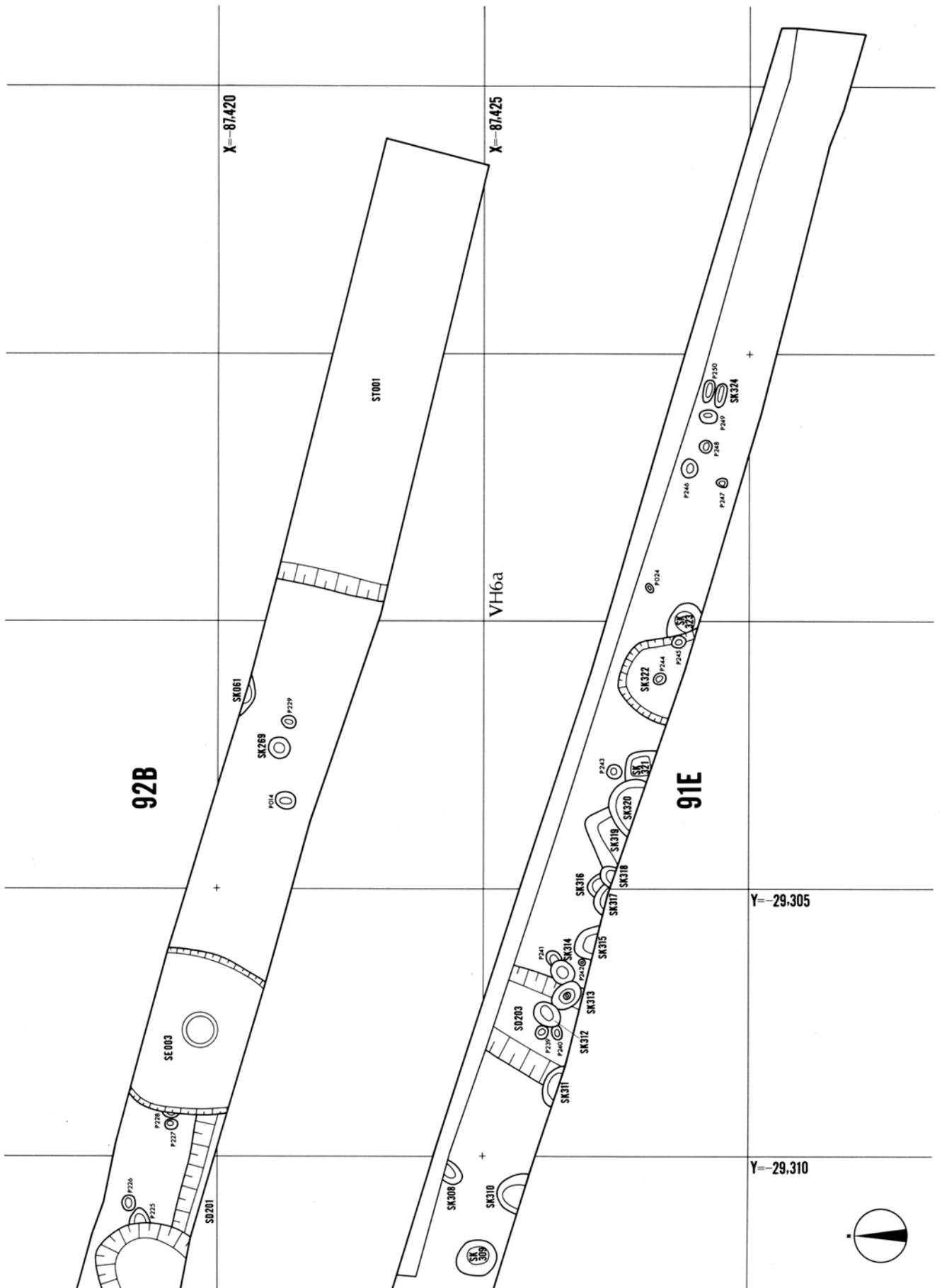
図版13 遺構図Ⅳ (第3面)



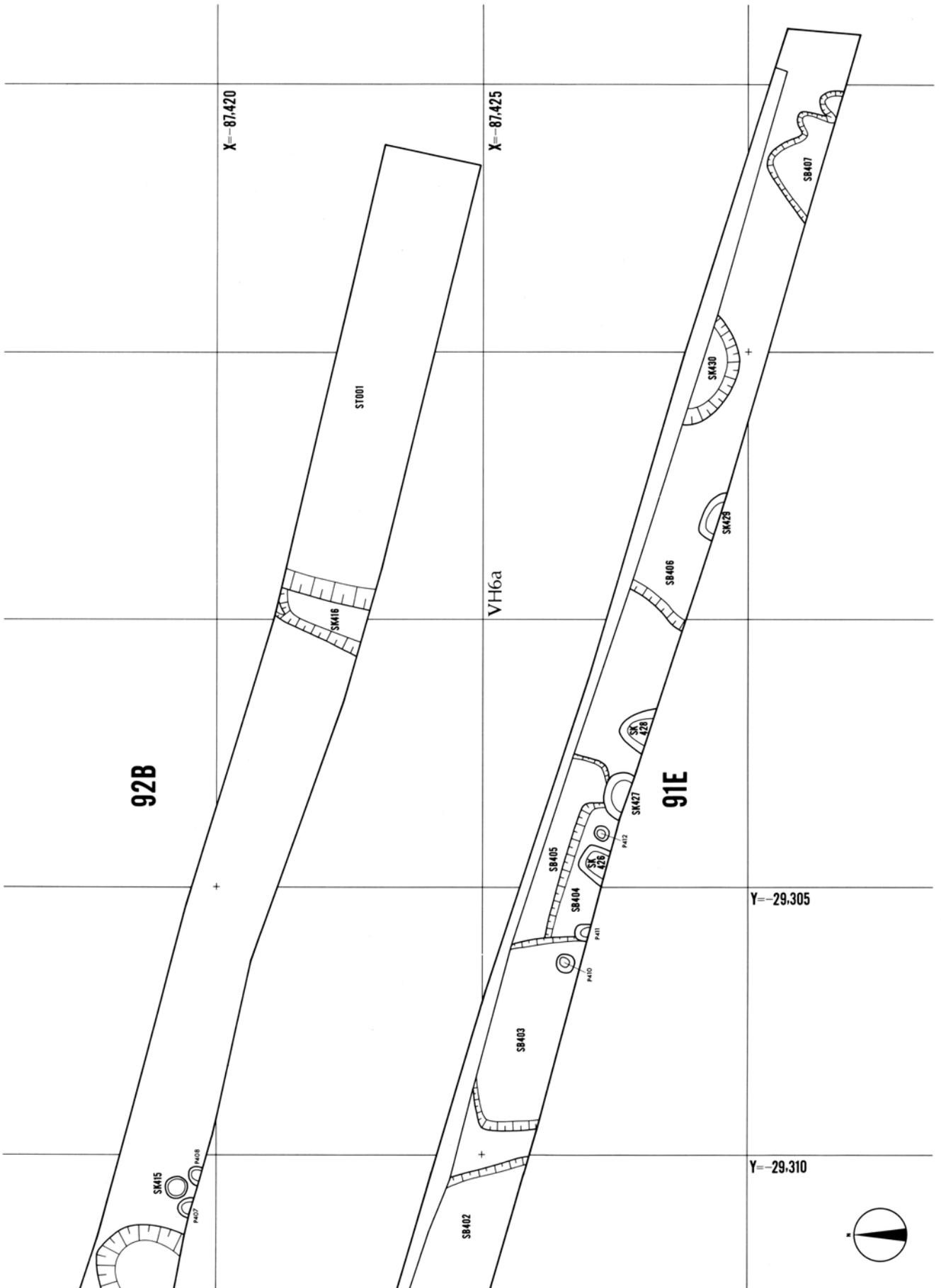
図版14 遺構図Ⅳ（第4面）



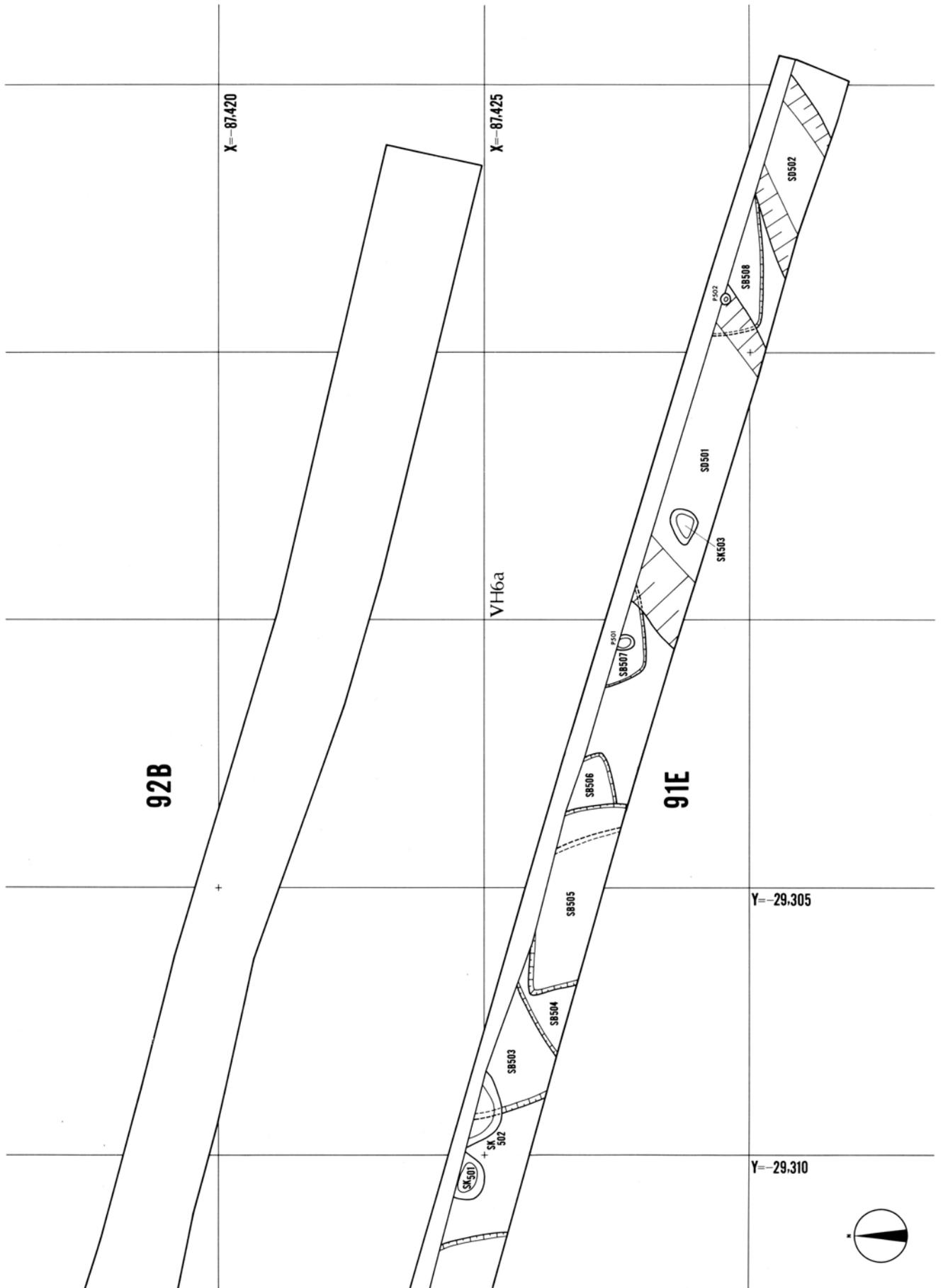
図版15 遺構図V (第1面)



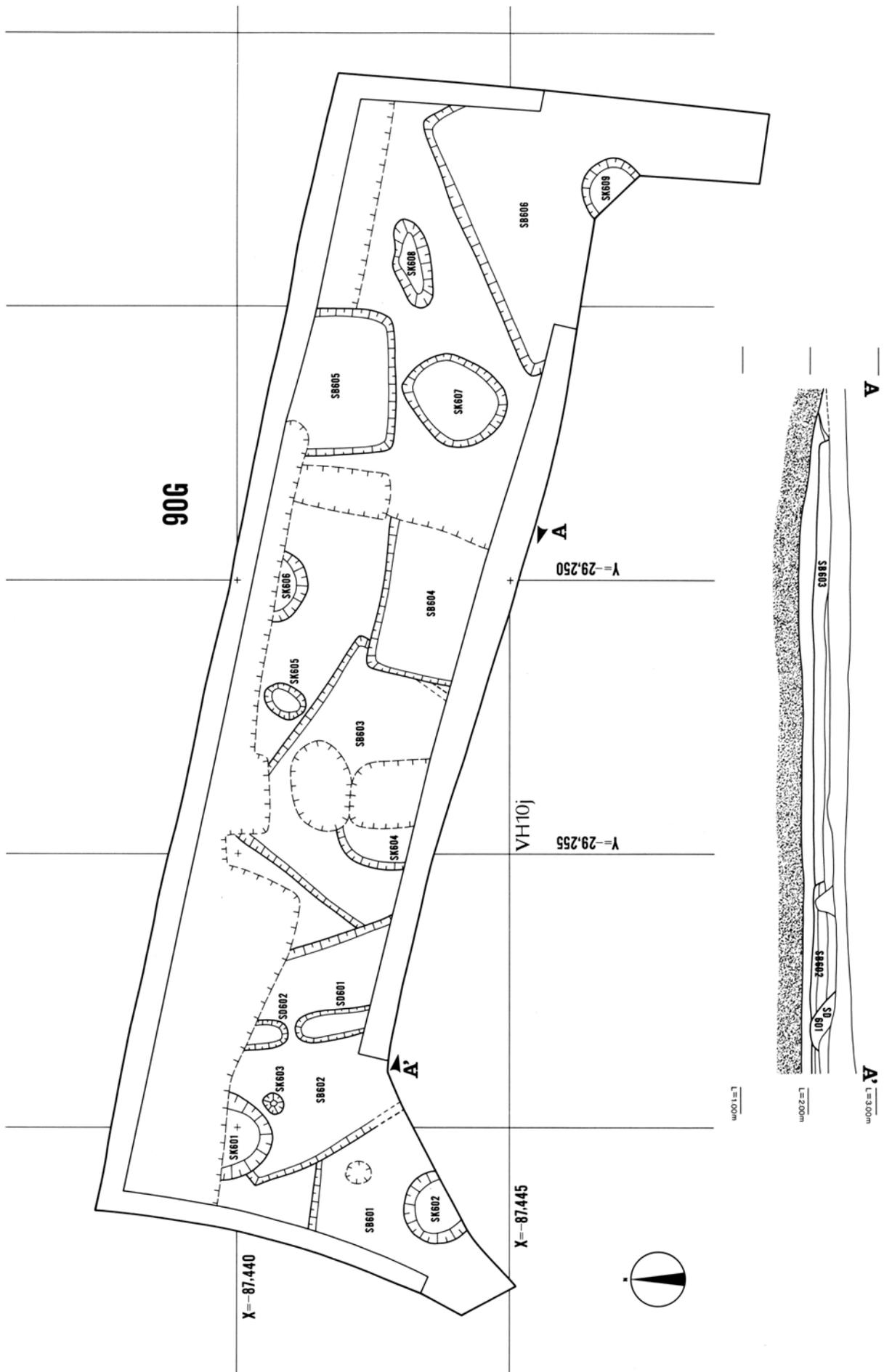
図版16 遺構図V (第2面)



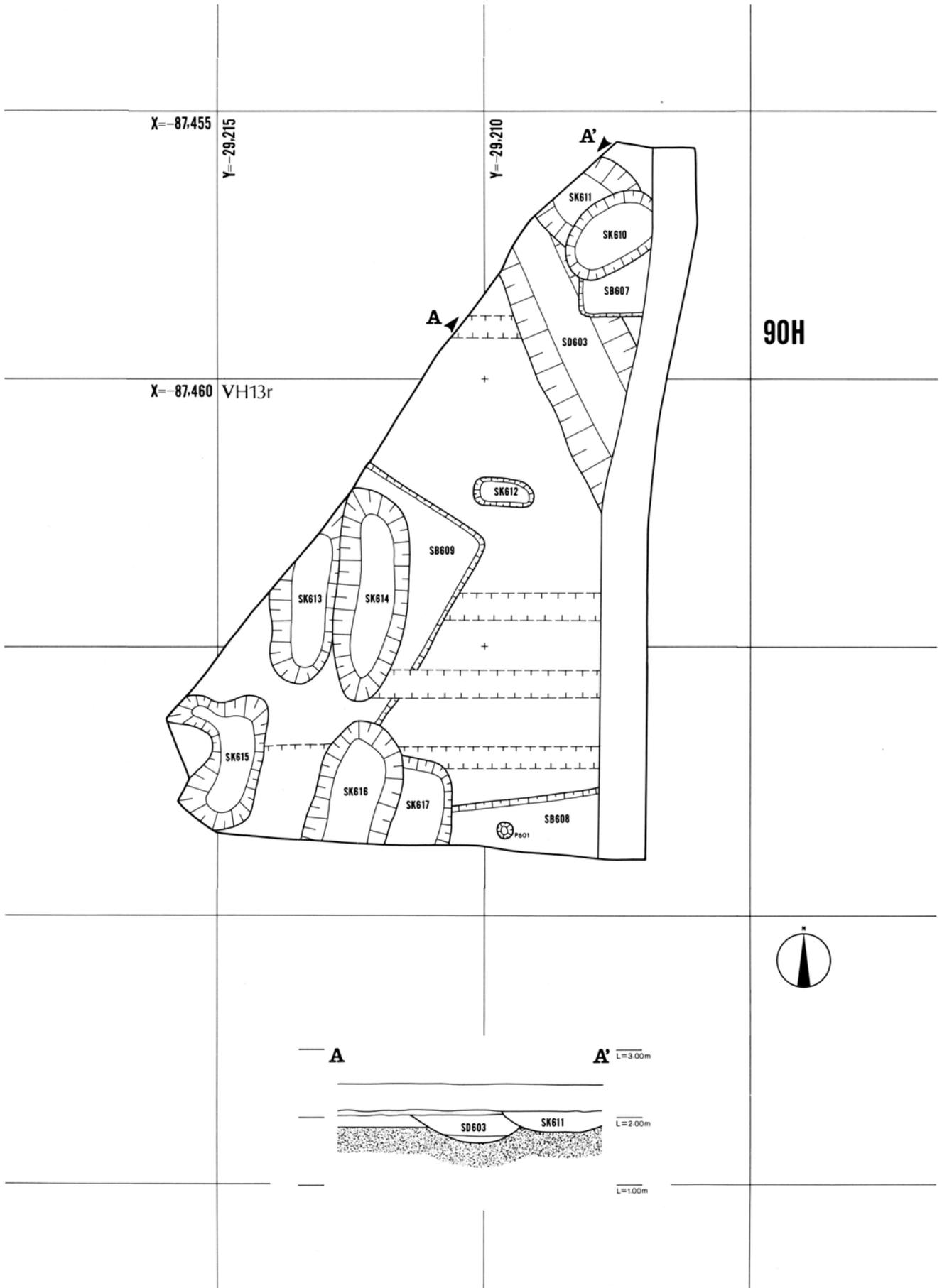
図版17 遺構図V (第3面)



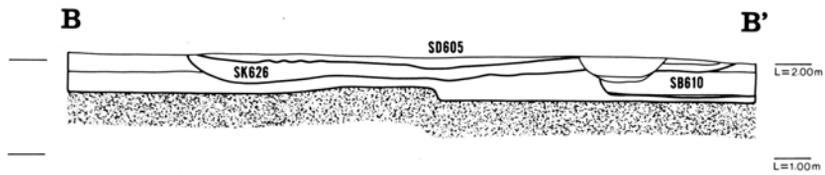
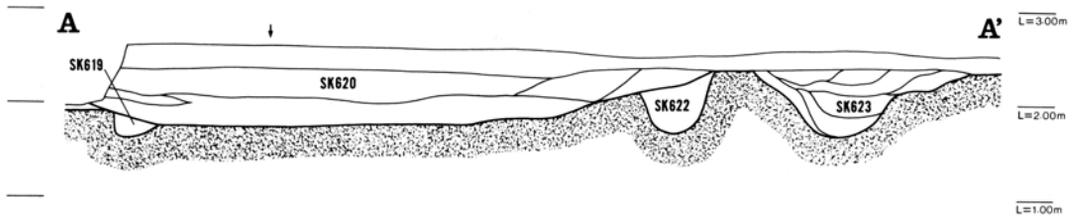
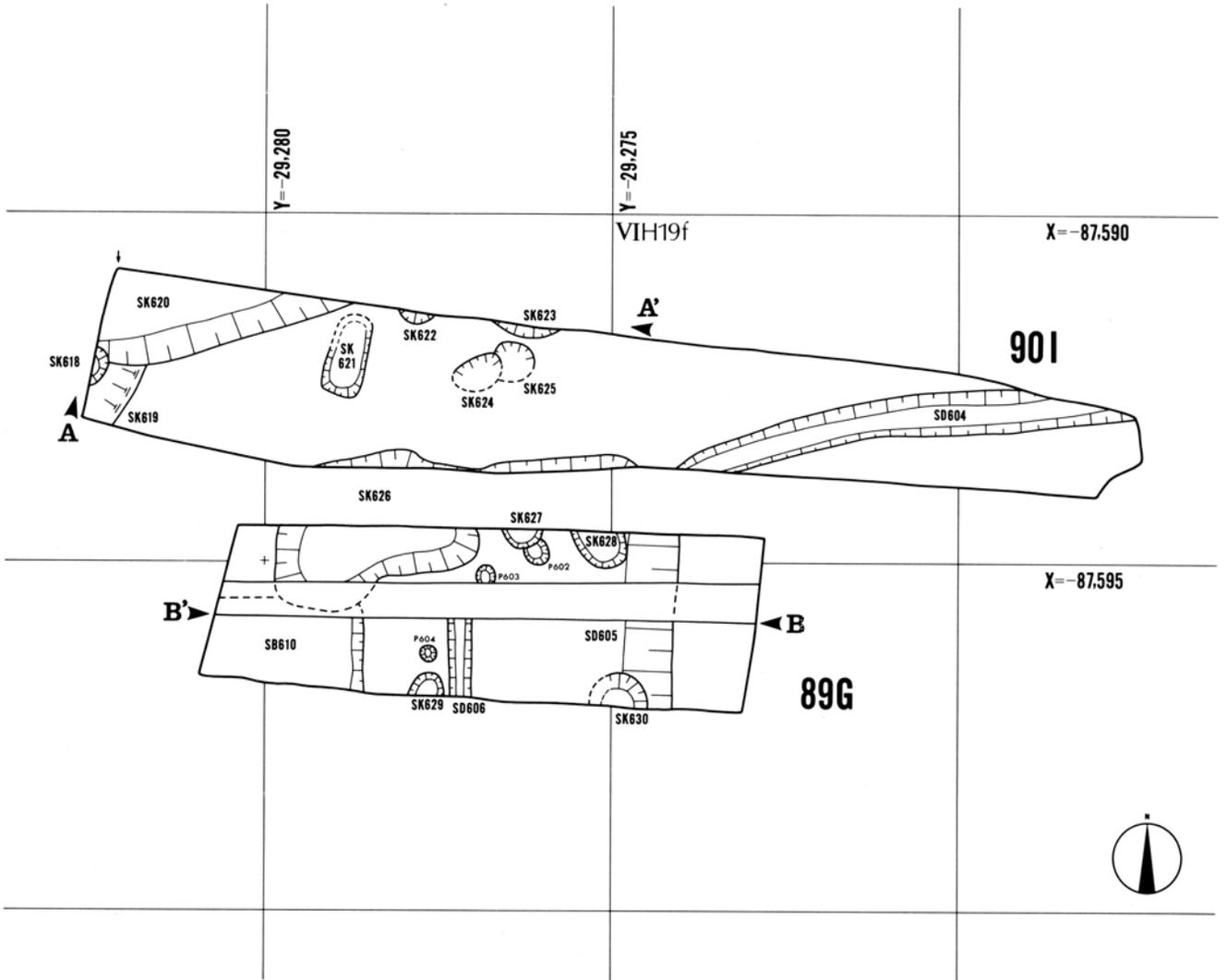
図版18 遺構図V (第4面)



図版19 遺構図VI



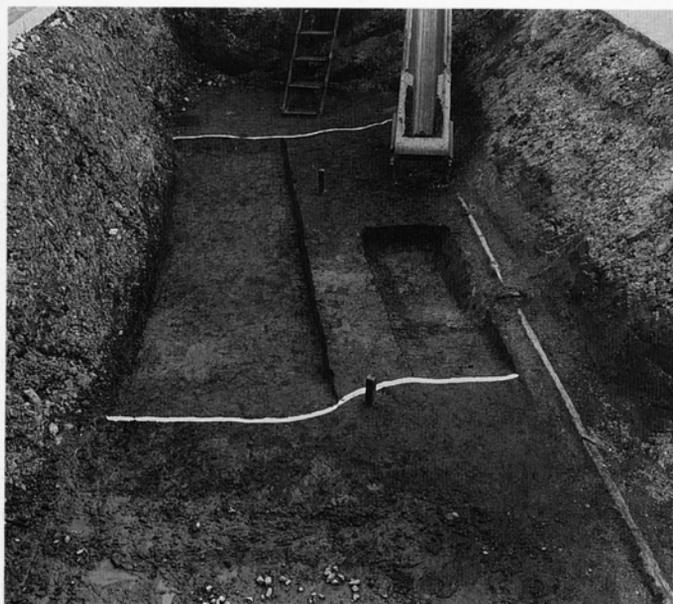
图版20 遺構図Ⅶ



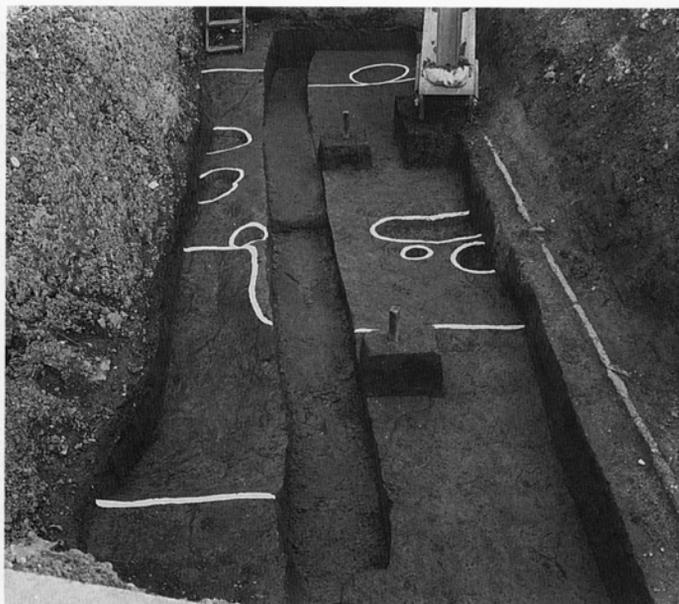
图版21 遺構図Ⅷ



調査区全景（航空写真）



89G区 (S D605)



89G区 (S K626他)



90G区 (東から)



90G区 (西から)



90H区 (北から)



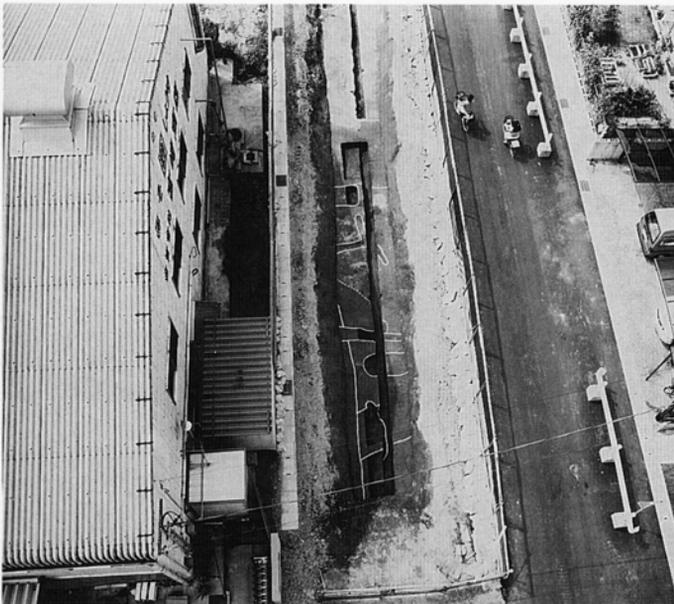
90H区 (南から)



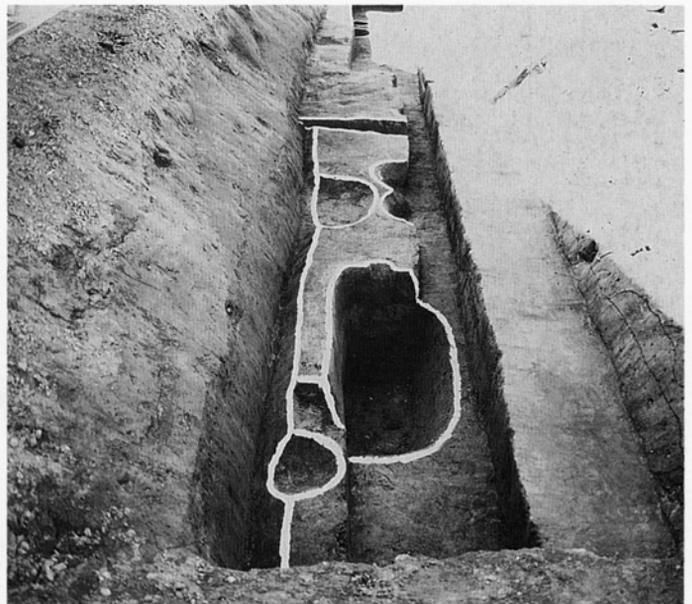
91E区から五条橋を臨む



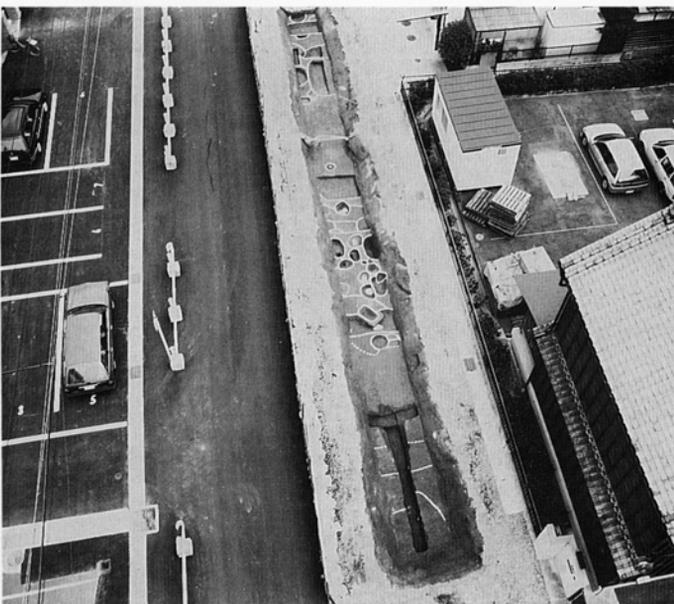
91D区第1面(西)



91D区第1面(東)



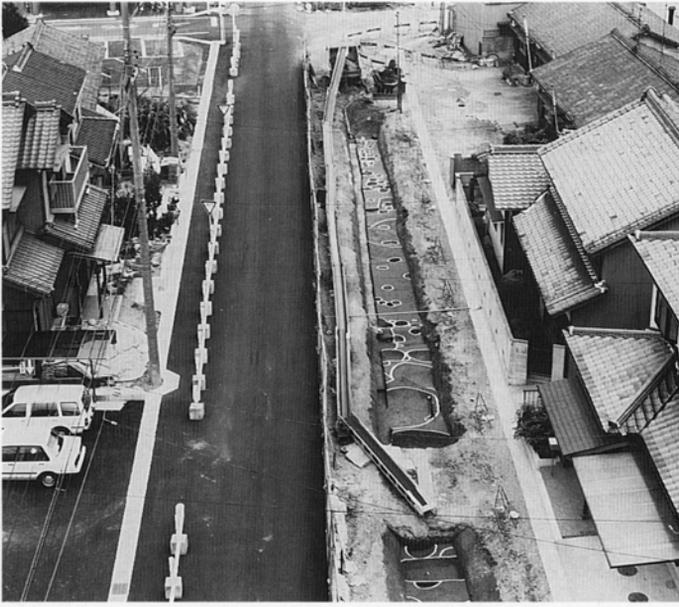
91D区第2面(東)



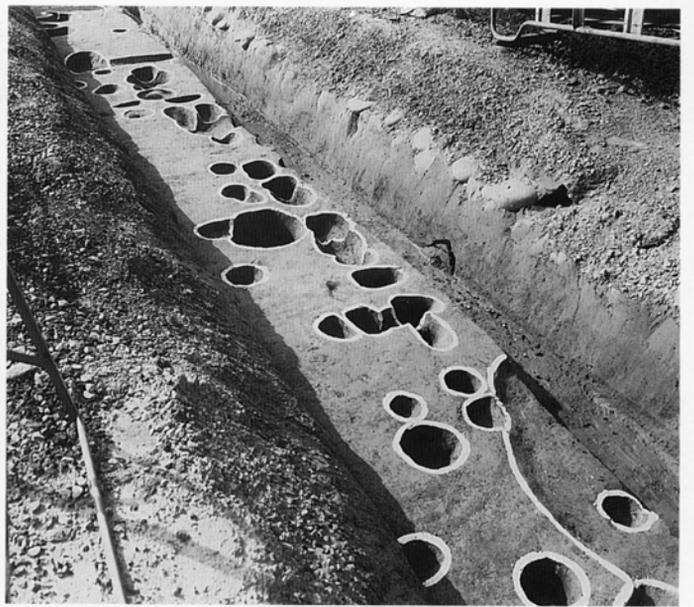
91E区第1面(西)



91E区(SA001)



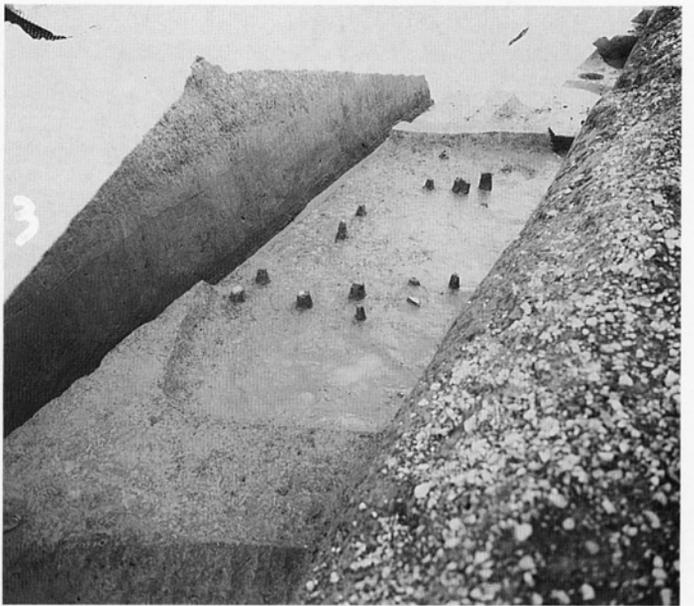
91E区第1面(東)



91E区第1面(東)



S B 403 ・ S B 404 ・ S B 405



S B 403



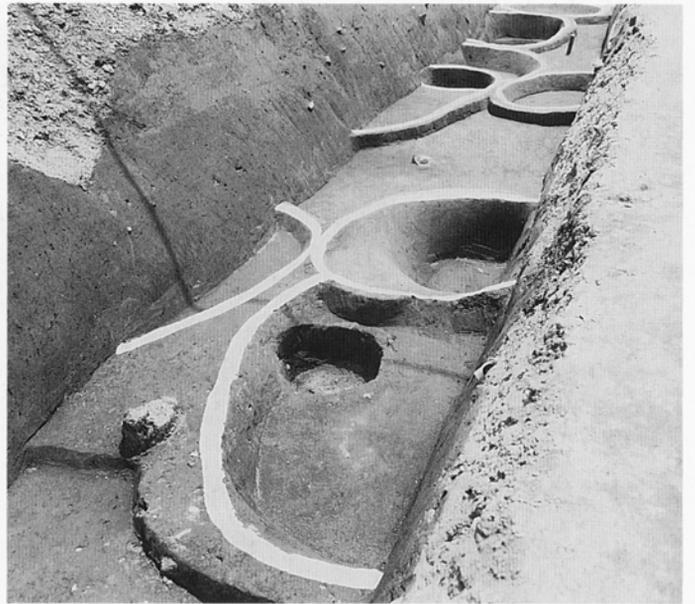
S B 501 ・ S B 502



S B 402



92A区第1面(西)



92A区第1面(東)



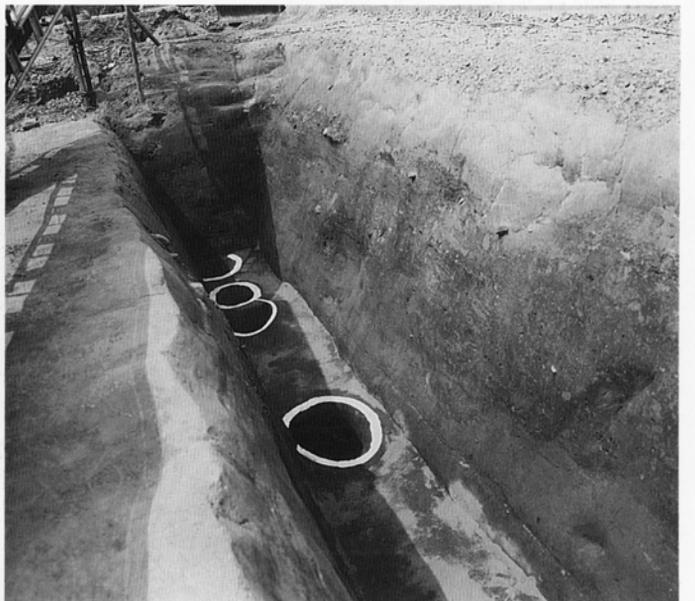
92A区第2面(全体)



92A区第2面(西)



92A区第2面(東)



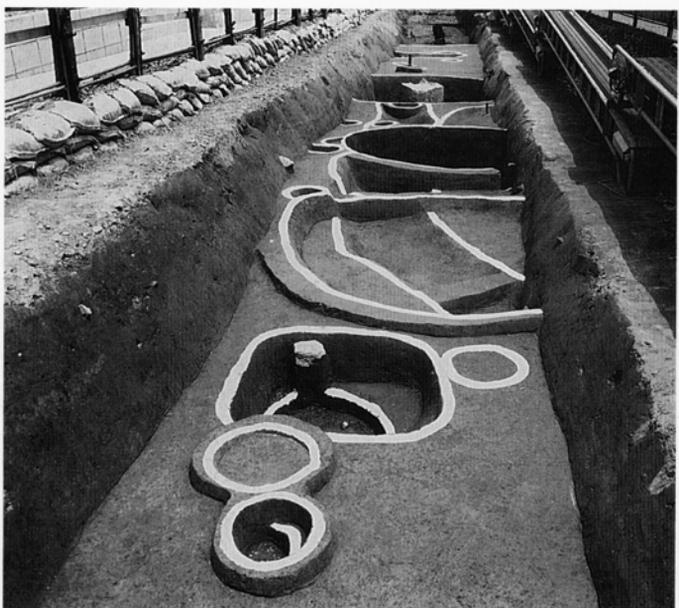
92A区第3面(西)



92B区第1面(西)



92B区第1面(中央)



92B区第1面(東)



92B区第2面



S K 045



S B 401

S B 401



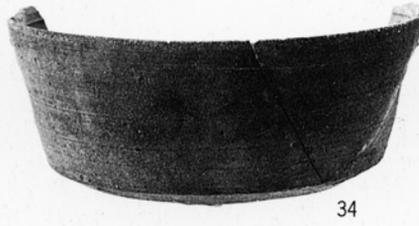
S B 502



S B 402



S B 404



S B 501



包含層



S K 250



110



114



112

S K 119



141



143

旧五条川



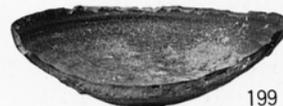
195



198



194



199



200



201

S K 024



158



159



160



161



175

皆舍利弗也說相六佛道者窮劫

235

如是等人則能信解汝當為說妙

236

妙法蓮華經信解

237

余特惠心頂言授所言之摩

238

已後意何稱之義三言攝來時世

257

欲重宣其義而說偈言

258

我為太子時羅睺為長子我成佛道受

259

於未來劫中見無量億佛皆為其長子

260

佛止於教事如須弥山所以使長壽

246

樹華供養也其宮殿奉之敬而不作

247

中及長壽既在壽中獻言殿形

248

時諸覺天壽於法前心同聲答

249

聖主中天迦陵頻伽聲

250

又遠少一現
一百八十劫
空

251

三寶道充備
請受與我少
合群出於世

252

救護於中為眾生之



232

231

230

229



256

255

254

253



266

265

264

263



244

243

242

241